大学受験ナビゲーション

パラグラフ・リーディング

ナビ　英文はこう読む

野村武士=編

解答解説編

日栄社

CONTENTS

Part 1 — 理論編

Unit 1 — パラグラフの構造

Lesson 1：パラグラフ・リーディング入門（確認問題 01-03）…… 7

Lesson 2：会話文から話者の主張を読み取る（確認問題 04）……14

Unit 2 — パラグラフの展開

Lesson 3：文と文はどうつながっているか？（確認問題 05-07） …18

Lesson 4：道しるべ語に注目する（確認問題 08）…… 25

Unit 3 — パラグラフの構成

Lesson 5：パラグラフのつながり方をつかむ（確認問題 09）……30

Unit 4 — 指示語が指すもの

Lesson 6：代名詞の指示関係に着目する（確認問題 10）…… 35

Part 2 — 実戦対策編

Step 1 — 入試基本レベルの英語長文にトライ

演習問題 01 …… 43

演習問題 02 …… 50

演習問題 03 …… 56

演習問題 04 …… 62

演習問題 05 …… 67

演習問題 06 …… 71

演習問題 07 …… 77

Step 2 — 入試標準レベルの英語長文にトライ

演習問題 08 …… 84

演習問題 09 …… 91

演習問題 10 …… 98

演習問題 11 …… 104

演習問題 12 …… 110

演習問題 13 …… 116

演習問題 14 …… 123

Step 3 — 入試発展レベルの英語長文にトライ

演習問題 15 …… 129

演習問題 16 …… 137

演習問題 17 …… 145

パラグラフの構造　パラグラフ単位，文単位でパラグラフの構成・展開・内容を表欄化し，簡潔にまとめることで，パラグラフに関する理解に配慮した。

設問解説　正答への道筋を詳しく示した。

(⇒Key 03 ③)　実際の設問解答や英文理解に生きてくる【Keys to Reading Comprehension】のポイントについて，その該当番号を示した。

語　句　重要な語句・表現・構文等を解説した。

文構造に注目　誤りやすい，あるいは複雑な構造を持つ文を取り上げた。

POINT　文構造を理解する上で重要な項目に焦点を当て解説した。

全　訳　英文全体にわたる和訳とともに，設問中の選択肢についても**選択肢の訳**として和訳を施した。

■ 記号類について

do	原形不定詞（動詞の原形）
*do*ing	動名詞／現在分詞
done	過去分詞
one's	所有格
*one*self	再帰代名詞
( )	省略可能
[ ]	代替可能

理論編

Unit 1 — パラグラフの構造

Unit 2 — パラグラフの展開

Unit 3 — パラグラフの構成

Unit 4 — 指示語が指すもの

Lesson 1 パラグラフ・リーディング入門

確認問題 01

パラグラフの構造　＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

文番号	文の種類	文の役割	内　容
第１文	主題文	筆者の主張	適度な量の睡眠は健康の維持のために大切である。(Getting the right amount of sleep is important for ...)
第２文＋第３文（①）	支持文	最近の研究に基づく根拠の提示(1)	睡眠不足は健康に悪く，寿命を縮める。(New research of sleep **indicates that** ...)
第４文（②）＋第６文（④）		最近の研究に基づく根拠の提示(2)	睡眠の摂りすぎも健康に悪影響を及ぼす。(**Surprisingly**「驚くべきことに」(文修飾副詞), the research shows that ... can **also**「追加「～もまた」 ... on our health. **For example**「例示「例えば」, ...)
第７文	結句	筆者の意見	(睡眠時間を考慮して) 生活スタイルを注意深く見つめること。(Research **such as**「例示「～のような」 this can provide us with reasons to ...)

＊「結句」はすべてのパラグラフに登場するわけではなく，一部のパラグラフに出てくる。文章を締めくくるための文言であり，パラグラフの末尾に置かれる。主題文の内容に関連した助言や感想，今後の課題，未来の展望などであることが多い。しかし，筆者の一番言いたいことは結句ではなく，主張を述べた主題文であることに注意。

解　答

問１　③　　問２　③

設問解説

問１　このパラグラフの主題文は，第１文の Getting the right amount of sleep is **important** for keeping ourselves healthy. であり，筆者の主張（適度な量の睡眠は健康を維持するために大切）を述べている。**important** は価値判断を表す形容詞として，しばしば主題文で用いられる（⇒Key 03 ②）。それに続く

第２文以降で，その主張の根拠として，最近の研究結果を述べている。ところが，③ Statistics show that women live longer than men.（統計によると，女性は男性より長生きする）は主題文と関係がなく，主張の根拠にはならないので，文章の流れにそぐわないことになる。

さらに，②（... too much sleep can also have a negative influence on our health.）を具体的に言い換えたものが④（**For example**, ..., sleeping more than nine hours per night seems to be associated with a shorter life.）である（⇒Key 10 ・ Key 11 ）。この２つの文は連続している方が自然であるので，この点でも③は邪魔になる。

問２　タイトル選択問題は，主題文を発見することがポイント。主題文はそのパラグラフの内容を端的に述べた文だからである。主題文を見つける要領については，⇒Key 01 ～ Key 06 。

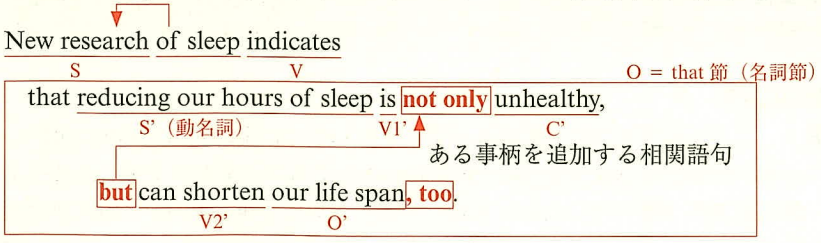
選択肢の訳　① 早死にするリスク　② 睡眠の摂りすぎが寿命に及ぼす影響　③ 適切な量の睡眠を摂ることの重要性　④ 睡眠の量を減らすことによる健康への影響

語　句

(l. 3) **can shorten our life span**「寿命を縮めることがある」　この can は「～することがある，起こりうる」という意味で，可能性を表す。*l. 6* の can も同じ意味・用法。　*(l. 4)* **be at risk of** ～「～の危険性がある」　*(l. 5)* **those who** ～ = people who ～　*(l. 5)* **surprisingly**「驚いたことに」　文頭に置かれ，文全体を修飾する副詞。　*(l. 6)* **have an influence on** ～「～に影響を与える」　ここでは negative（否定的な）が influence を修飾して「悪影響を与える」の意味になる。　*(l. 8)* **per**「～につき」　*(l. 9)* **be associated with** ～「～と結びつく」　*(l. 9)* ***A* such as *B***「B などの A，B のような A」　B は A の具体例（⇒Key 11 ）。　*(l. 10)* **take a careful look at** ～「～を注意深く見る」　この look は動詞の look が名詞化した動作名詞。

文構造に注目

ll. 2-3　〈not only *A* but *B*, too〉「A だけでなく B もまた」（相関語句）



POINT 1 New **research** of sleep **indicates** that ...「睡眠に関する新しい研究によると…である」 **研究や統計などを表す語**が主語となり，述語動詞に **indicate, show** などが来るときは，「(研究等) によると…である」と訳すと日本語らしくなる。the research shows that ... *(l. 5)* や Statistics show that ... *(l. 7)* も同様。

POINT 2 ... reducing our hours of sleep is **not only** unhealthy, **but** can shorten our life span, **too**.「睡眠時間を減らすのは健康によくないばかりか，寿命を縮める可能性すらある」 **not only** *A* **but also** *B* (A ばかりか B もまた) の変形で，**also** の代わりに **too** が用いられている (⇒Key 09)。

全　訳

適度な量の睡眠を摂ることは健康を維持するために大切である。睡眠に関する新しい研究によると，睡眠時間を減らすのは健康によくないばかりか，寿命を縮める可能性すらあることがわかる。十分な睡眠を規則正しく摂らない人は，よく寝る人より若い年齢で死ぬ危険性がある。驚くべきことに，その研究では，あまり睡眠を摂りすぎても健康に悪影響を及ぼす場合があることがわかっている。例えば，一晩に9時間より長く寝ると，場合によっては，寿命を縮めることにつながるようである。このような研究は，自分自身の生活スタイルを注意深く見つめる動機を与えてくれる。

確認問題 02

パラグラフの構造　＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

文番号	文の種類	文の役割	内　容
第1文	主題文	筆者の主張	切手収集 (stamp collecting) は費用があまりかからず，好きなときに楽しめる教育的な趣味である。 ◎切手収集の良い点 (1)「教育的」(**educational**) (2)「費用がかからない」(**inexpensive**) (3)「いつでも好きなときに楽しめる」(**enjoyed whenever you want**)
第2文 (①)	支持文	主張の根拠(1)	世界のさまざまな国の歴史，地理，有名人，慣習などを教えてくれる。(It (＝Stamp collecting) provides a nice and practical way of learning about .... ＊第1文**educational**の具体的な言い換え。

第４文（③）	（支持文）	主張の根拠(2)	受け取った封筒の切手を取っておくことで，お金を使わずに始められる。(You can 追加「～もまた」 **also** get started without spending money by saving ... ＊第１文 **inexpensive** の言い換え，具体的な手段。)
第５文（④）		主張の根拠(3)	いつでも収集に取り組むことができる。 情報の追加「さらに」 (**In addition**, you are able to work on your collection any time, rain or shine. ＊第１文 **enjoyed whenever you want** の言い換え。)
第６文	結句	筆者の提言	新しい趣味を探しているなら，切手収集がお薦め。(If you are looking for a new hobby, stamp collecting might be right for you!)

解　答

問１　②　　**問２**　④

設問解説

問１　第１文の Stamp collecting is ... whenever you want. が主題文であり，切手収集の利点として，(1)「教育的である」(educational)，(2)「費用があまりかからない」(inexpensive)，(3)「いつでも楽しめる」(enjoyed whenever you want) の３つを挙げている（⇒【パラグラフの構造】）。①の It provides a ... various countries worldwide. はこの利点の(1)と，③の You can also ... envelopes you receive. は利点の(2)と，また④の In addition, you ... rain or shine. は利点の(3)とほぼ同じ主旨を述べている。すなわち，これら３つの文は，いずれも主題文と密接な関係を持つ支持文と言える。ところが，②の This hobby began ... Britain in 1840. は「切手収集の趣味がいつどこで始まったのか」という内容になっており，主題文の主旨とは無関係である。この文を取り除けば，パラグラフの流れがスムーズになる。

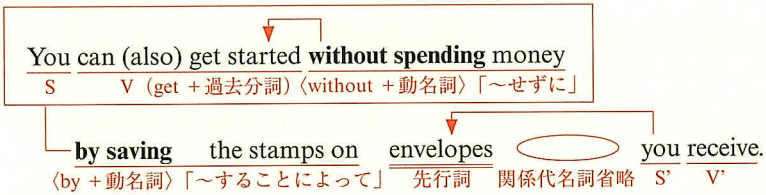
問２　第１文が筆者の主張を述べた主題文である。【確認問題01】の本文と同様に，主題文がパラグラフの冒頭に来る典型的な例である（⇒Key 01 ①）。この主題文の内容と一致する④が正解。

語　句

(l. 4) **the world**「世界中の人々」　*(l. 6)* **get started**「始める」　*(l. 7)* **in addition**「さらに，そのうえ」　情報の追加を表す道しるべ語の１つ（⇒Key 09）。*(l. 7)* **work on** ～「～に取り組む」　*(l. 8)* **any time**「いつでも，どんな時でも」　この any ～ は，「どんな～でも」という意味。*Ex.* Take *any* cup you like.（どれでも好きなカップを取ってよい）/ *Any* book will do as long as it is interesting.（おもしろければどんな本でもよい）

文構造に注目

ll. 5-7〈前置詞＋動名詞〉が作るさまざまな副詞句



POINT 1　前置詞の後に動詞を続けるときは，必ず動名詞（*do*ing）を用いる。動名詞は動詞としての働きを保っているので，後に目的語や副詞句などの構成要素を続けることができる。〈**without ＋動名詞**〉は「～することなしに，～せずに」の意。without spending money で「お金を使わずに」という意味になる。また，文の最後に置かれている by saving ... you receive は，その直前までの内容全体（You can ... spending money）を修飾している。

POINT 2　文末の you receive の前には，envelopes を先行詞とする関係代名詞 that（目的格）が省略されている。

全　訳

切手収集は費用があまりかからず，いつでも好きなときに楽しめる，教育的な趣味である。それは世界中のさまざまな国の歴史，地理，有名人，慣習などについて学ぶことができる，非常に実用的な方法を提供してくれる。そのうえ，受け取った封筒に貼られている切手を取っておくことにより，お金を使わずに始めることができる。さらに，晴雨にかかわらず，いつでも収集に取り組むことができる。もしあなたが新しい趣味を探しているなら，切手収集がぴったりかもしれない！

確認問題 03

パラグラフの構造　＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

文番号	文の種類	文の役割	内　容
第１文＋第２文（選択肢 D）	導入文＋主題文	主題の提示	科学者が予測する地球温暖化の進行→世界の農業と漁業に多大な影響 (Scientists say that **the earth will get warmer in the future.** **This warming** will have a great effect on ...　＊ This warming は前文の太字部分の言い換え（名詞化）。)
第３文（選択肢 B）	支持文	主張の内容の具体例(1)：北の国々の場合	北の国々では食糧を栽培する時期が10日長くなる。(**For instance**, in the northern countries ...) 具体例「例えば」
第４～５文（選択肢 C＋A）		主張の内容の具体例(2)：南の諸地域の場合	南の諸地域では淡水の量が50%減少する。 (In the southern areas, **on the other hand**, ...) 前文の内容との対比「もう一方では」 海水温度の上昇により漁獲量が減少する。 (The quantity of fish caught will **also** fall ...) 追加「～もまた」
第６文	結句	将来の予測	これらの変化のほかにも，あらゆる地域が極端な気象のためにさらに多くの被害を受ける。(**Besides these changes**, all areas will suffer ...　＊ these changes は第３～５文で挙げている温暖化が農業や漁業に及ぼす影響の具体例をまとめて指す。) 追加「～のほかに」

解　答

問１　③　　問２　D

設問解説

問１　第１文の that 節の内容（the earth will get warmer in the future）は，地球の気候が今後どう変動していくかについて，科学者の予測を述べている。選

択肢 D の This warming（この温暖化）は，この that 節の内容を名詞で言い換えたもので，第 1 文の直後にはこの D を続けるのが自然である。残った A ～ C を文の内容と道しるべ語に注目しながら読み比べると，まず C は「南の地域での淡水の減少」（＝温暖化による悪影響）について述べており，**on the other hand**（これとは反対に）が置かれている。これは，直前の文とは対照的な内容がこの後に続くことを示す道しるべ語である（⇒Key 12 ・ Key 13 ）。したがって，C の直前には，「北の国々での栽培期間の伸長」（＝温暖化の良い影響）について述べている B が来る。for instance（例えば）は具体例を示すときの道しるべ語である（⇒Key 10 ・ Key 11 ）。これで D － B － C の流れが確定する。C の後には，悪い影響の 2 つ目の例として，漁業への影響を付け加えている A が続く。also は情報を追加するときの道しるべ語（⇒Key 09 ）。最終的な配列は D － B － C － A となるので，正解は③。

問2　B の **For instance** に着目。for instance は具体例を挙げるときの道しるべ語で（⇒Key 11 ），この直前には主題文が置かれていることが多い（⇒Key 05 ）。ここでも，D で「温暖化は世界の農業と漁業に多大な影響を与える」と述べた後で，B（北の国々における農業への影響）→ C（南の地域における農業への影響）→ A（漁業への影響）という順番で具体例を挙げている。よって，このパラグラフの主題文（＝筆者が一番言いたいことを簡潔に述べた文）は D だとわかる。

語　句

(l. 2) **besides**「～に加えて，～のほかに」　情報を加えるときに用いられる前置詞（⇒Key 09 ）。besides の後には，直前の内容を簡潔に要約する名詞（句）が来ることが多い。この文では，第 3 ～ 5 文で挙げている気候変動が農業や漁業にもたらす影響の具体例が these changes（これらの変化）という名詞句でまとめられている。　*(l. 3)* **extremes of weather**「気象の極端な状態」つまり「極端な気象」　*B.* **season**「時期」　*C.* **fresh water**「淡水，真水」　*D.* **have a great effect on** ～「～に多大な影響を与える」

全　訳

科学者は，地球は将来今よりも暖かくなると言う。この温暖化は世界の農業と漁業に多大な影響を与えるだろう。例えば，北の国々では食糧を栽培する時期が10日長くなるだろう。これとは反対に，南の諸地域では，淡水の量が50％減少するだろう。海水温度の上昇のために漁獲量も落ちるだろう。これらの変化のほかにも，極端な気象のために，あらゆる地域がさらに多くの被害を受けるだろう。

Lesson 2　会話文から話者の主張を読み取る

確認問題 04

パラグラフの構造　David の発言　＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

文番号	文の種類	文の役割	内　容
第１文	主題文	筆者の主張	中国語を教えるべきである。(I suggest that we offer Chinese classes.)
第２文	支持文	主張の根拠(1)	中国は将来世界一の経済大国になる。(China is a fast-growing economy and in the future it will become the world's biggest.)
第３文		主張の根拠(2)	中国語の母語話者はほかのどの言語よりも多い。(**Also**, I believe there are more native speakers of Chinese than of any other language.)　追加「～もまた」
第４文	結論	主張内容の確認	中国語を教えるべきである。(we should offer Chinese)

解　答

問１　[1] ③　[2] ①

問２　(A) 中国語の母語話者はほかのどの言語よりも多いということ。

(B) **we should offer Chinese**

設問解説

問１　[1] ジェニファーは，第１文で knowing a foreign language has become increasingly useful in the workplace（外国語を知っていることは職場でますます有用になってきている）と主張し，第３文と第４文で，その根拠を「外国語を学べば，その国の慣習や価値観を知ることができ，このことが仕事上の人間関係を円滑にする」のように説明している。「外国語を知っていることは仕事に役立つ」というのが彼女の発言の主旨なので，正解は③。career-related（仕事に関連した）の -related は「～に関連した」という意味の形容詞を作る。*Ex.* the IT-*related* industry（IT 関連産業）

選択肢の訳　① 英語はビジネス界において最もよく使われる共通語である。

② ビジネスで外国語を使うのは不利である。　③ 外国語を知っていることは，実用的で，仕事に関連する利点になりうる。　④ ビジネスの技能を学ぶことは外国語学習に役立つ。

[2] レズリーの発言の最終文が But most importantly ...（しかし，最も大切なことは…）と始まっている点に着目。形容詞の important と同様に，副詞の importantly もしばしば主題文の中で用いられる（⇒Key 03 ③）。この後に続く through learning a foreign language, we're better able to look at something from various perspectives（外国語を学ぶことを通じて，私たちはもっとよく物事をいろいろな観点から見ることができる）がレズリーの主張で最も重要な点なので，これとほぼ同じ内容を ability to *do*（～する能力）という名詞形で表した①が正解。look at something from various perspectives が選択肢では consider things from different points of view と言い換えられている。

選択肢の訳　① 物事をいろいろな観点から考える能力　② 自分自身の言語や文化を理解したいという欲求　③ ほかの言語の構造や文化に関する知識　④ 国際的なビジネスで成功する機会

問2　(A) 下線部の I suggest that we offer Chinese classes は，デイヴィッドの発言の中で最も重要な主張を述べている主題文。さらに，この後に続く第2文（China is a ... the world's biggest.）および第3文（I believe there ... any other language.）では，その主張の根拠を示している。このうち，設問文に含まれない第3文の that 節の内容を答えればよい。

(B) 主題文は，その内容を読み手（または聞き手）に強く印象づけるために，表現を変えながら，繰り返し現れることが多い。ここでは，デイヴィッドの発言の最後の文に we should offer Chinese と出てくる箇所が主題文の再提示に相当する。should や must など，必要性を表す助動詞は，しばしば主題文の中で用いられる（⇒Key 03 ①）。

語　句

(l. 1) **offer**「（科目として）設ける，開講する」　*l. 16, 20* の offer も同じ意味・用法。　*(l. 6)* **your views on this**「これについてのあなたがたの見解」　この前置詞 on は，「～についての，～に関する」という意味。　*(l. 14)* **business relationships**「仕事上の人間関係」　*(l. 25)* **most importantly**「最も大切なことには」　ふつう文頭に置かれ，文全体を修飾する副詞（文修飾副詞）として用いる。　*(l. 26)* **be better able to look at** ～「もっとよく～を見ることができる」　be able to *do* の比較級は be better able to *do*。　*(l. 31)* **get a sense of** ～「～を感じとる」

文構造に注目

II. 18-19 比較級構文における共通部分の省略

I believe there are **more native speakers** of Chinese
there are ～ 構文　「より多くの母語話者」　「中国語の」

than (native speakers) of any other language.
比較対象との共通部分(名詞句)の省略　「ほかのいかなる言語の」

POINT 1 2つの事柄を比較する構文では，しばしば共通部分が省略されるため，注意が必要である。この文では，母語話者（native speakers）の数を中国語（Chinese）とその他の言語（any other language）とで比較しており，than の後に置かれるべき名詞句の native speakers が省略されている。

POINT 2 比較構文ではまた，共通する名詞を **that**（単数）や **those**（複数）で置き換える場合もある。上の英文は，I believe there are more native speakers of Chinese than *those* of any other language. のように代名詞 those で置き換えても，ほぼ同じ意味になる。*Ex.* The population of Tokyo is larger than *that* of London.（東京の人口はロンドンのそれよりも多い）

全　訳

テッド：過去20年にわたって，我が校ではフランス語とスペイン語を教えてきました。しかしながら，時代は変わりましたし，生徒たちが必要としているものを再検討すべきではないかと思います。英語は今や国際語になっているのだから，英語を母語とする人は外国語を学ぶ必要はないと提言する人たちもいると聞きます。この点について，皆さんの見解をお聞きしたいと思います。

ジェニファー：えー，多くの企業が国際化するのに伴って，外国語を知っていることは職場でますます有用になってきています。ビジネスの場においては，外国の人たちと交渉しているとき，相手はこちらの言葉を知っているのに，こちらが相手の言葉を知らなければ，これは明らかに不利です。また，外国語を学ぶことによって，生徒たちは世界のさまざまな地域の人々の多様な慣習や文化的価値観を知ることができます。このことが仕事上の人間関係を円滑にしてくれるのです。

テッド：つまりジェニファー，あなたは，外国語を知っていることは実用的で，仕事に関連する利点になりうると言っているのですね。

デイヴィッド：私はジェニファーの意見に賛成です。そして，中国語の授業を開講することを提案します。中国は急速な成長を遂げている経済圏であり，将来は世界で最大の経済圏になるでしょう。また，中国語の母語話者はほかのどの

言語よりも多いと思います。おそらくフランス語やスペイン語とともに，中国語の授業を開講すべきだと思います。

レズリー：えー，私たちの生徒にとってどの外国語が最も価値があるのか，私にはわかりません。しかし，外国語を学ぶことは，生徒たちが自分自身の言語や文化を意識するのに役立ちます。私たちの大部分は自分たちの母語を深く考えずに使っていますし，多くの文化的な思い込みをしてしまいます。しかし，最も大切なことは，外国語を学ぶことを通じて，私たちはもっとよく物事をいろいろな観点から見ることができるということです。

テッド：レズリー，それはとても興味深い点ですね。外国語学習の最大の利点は，生徒が物事をさまざまな視点から考える能力を伸ばすことができることだと言っているのですね。皆さんの考えを聞くことができ，感謝しています。おそらく，生徒たちへのアンケートを用意して，彼らの関心事や将来の目標を感じとるよう努力すべきでしょうね。

Lesson 3 文と文はどうつながっているか？

確認問題 05

パラグラフの構造 ＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

発言者	文番号	文の役割	内　容
Jacob	第１文	話題（話者の関心事）の提起	相手に夏休みの計画を尋ねる。(How are your summer plans going?)
	第２文	質問の意図	以前に相手から聞いていた予定に言及 (I heard you're going to travel around South America with your friend.)
Hiromi	第１文	質問に対する答え(1)	予定をキャンセルする前の Hiromi の行動：①旅行の手配の完了（I'd made all the travel arrangements），②スペイン語の勉強（was studying Spanish），③荷造りの開始（had even started packing my bag）
	第２～３文	質問に対する答え(2)	状況の急転 逆接「しかし，ところが」 **But** suddenly, my friend **told me she couldn't go.**（原因） 結果「それで，そういうわけで」 **So then** I got cold feet and **canceled** the trip.（結果）
Jacob	第１～２文	説明を聞いた後の反応	Hiromi の話を聞いた Jacob のリアクション（Oh, too bad. It's a shame that you felt too anxious to travel alone.）

解　答

問１ ②　問２ ④

設問解説

問１ Hiromi から「夏に南米を旅行する予定だ」と聞いていた Jacob が，その後どうなったかを尋ねている場面。（　　）の前では Hiromi が進めていた旅行の準備について述べているが，（　　）の後では一緒に旅行に行くはずだっ

た友人が急に行けないと言ってきたことを述べている。(　　) の前後で話の流れが急に変わっているので，(　　) には逆接を表す道しるべ語である **But** を入れるのが適切である。逆接を表す道しるべ語には，but のほかに，however（しかしながら）や nevertheless（それにもかかわらず）などがある（⇒Key 20 ・ Key 21 ）。

選択肢の訳　① また　② しかし，ところが　③ なぜならば　④ それゆえに，そのために

問2　問題文は「この状況では，got cold feet は［　］という意味である」という意味。文頭の So then に注目する。So は因果関係を導く道しるべ語である（⇒Key 14 ・ Key 15 ）が，ここでは So then 全体で「そういうわけで」という意味を表している。So then の直前の文が原因や理由を表し，So then に続く文がその結果を表す。「友だちから旅行に行けない」と急に言われたことが理由であり，その結果として Hiromi は「怖じ気づいて」(got cold feet)，南米旅行をキャンセルしてしまった。つまり，「旅行に行く気力を失った」と考えられる。こうした状況にふさわしいのは，④の lost courage（勇気を失った）である。

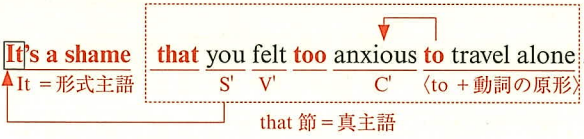
選択肢の訳　① 病気になった　② 興奮した　③ 自制心を失った　④ 勇気を失った

語　句

(l. 1) **How is [are] ～ going?**「～の進み具合はどうですか」　*(l. 3)* **arrangement**「準備，手配，用意」 動詞形の arrange にも「～の準備をする，手配する」という意味がある。*Ex. arrange* a tour（旅行の手配をする）　*(l. 4)* **pack**「～に荷物を詰める，～の荷造りをする」　*(l. 5)* **get cold feet**「(いざという時になって) 怖じ気づく，弱気になる」　*(l. 7)* **too bad**「残念な，お気の毒な」しばしば That's too bad.（それは残念だね）や It's too bad (that) ...（…ということは残念だ）などの形で用いる。　*(l. 7)* **It's a shame that ...**「…なんてもったいない，気の毒だ」　*(l. 7)* **feel anxious**「不安である，気がかりである」

文構造に注目

ll. 7-8　形式主語構文／〈too ... to *do*〉「…すぎて～できない」



POINT 1　**It's a shame that ...**「…なんてもったいない，気の毒だ」 It は that

節の内容を受ける形式主語で，後方の that 節が真の主語である。形式主語の It を「それ」と訳さないように注意。

POINT 2 that 節の中の too anxious to travel alone は，〈**too ... to *do***〉（…すぎて～できない）の不定詞構文。動詞 felt の補語となる anxious を，不定詞（副詞的用法）の to travel alone が後ろから修飾している。

全　訳

ジェイコブ：君の夏の計画はどうなっているんだい？　友だちと南米を旅行する予定だって聞いていたけど。

ヒロミ：ええ，旅行の手配は全部済ませて，スペイン語の勉強もしていたし，荷物までバッグに詰め始めていたのよ。でも，友だちが急に行けないって言ってきたの。それで私は怖じ気づいてしまって，旅行をキャンセルしたわ。

ジェイコブ：それは残念だね。不安のあまり１人で旅行に行けなくなってしまったなんて，気の毒だなあ。

確認問題 06

パラグラフの構造　＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

文番号	文の種類	文の役割	内　容
第１文	主題文	筆者の主張	少し注意するだけで，金魚は長生きできる。（With a little bit of care, your goldfish can **live much longer than you might expect**.）
第２文＋第３文（①）	支持文	金魚の寿命を延ばすための注意点 ＊第１文の下線部について，注意点を具体的に列挙。	(1) できるだけ大きめの水槽を選び，小石や水草などで飾るが，鋭利な物は水槽に入れない。（列挙「第一に」**First**, choose the largest possible tank you can afford and decorate it with objects such as small rocks and plants. 逆接「しかしながら」**However**, be careful not to put sharp objects in the tank that could harm your fish.）
第４文			(2) 数分で食べきれるだけの餌を与え，食べ残した餌はすぐに取り除く。（列挙「第二に」**Second**, feed them only as much as

	（支持文）		they can eat in a few minutes and immediately remove any leftover food.）
第５～６文（③・④）			(3) ２週間に１回は水槽を掃除して，水を一部入れ替える。（重要性の強調 **The most** 「最も重要なことは」 **important thing is** to clean the tank and change the water at least once every two weeks. ...）
第７文	結論	主張の換言	上記の注意点を守れば，金魚は「老年期」まで生き延びることができる。(By doing all these things, you can be sure your fish will **survive into their "golden years."** ＊ all these things は第２～６文の注意点すべてを指し，survive into their "golden years" は第１文の太字部分の言い換え表現。)

解　答

問１　②

問２　２週間に１回は水槽を掃除して，水を一部入れ替えること。(27字)

設問解説

問１　冒頭の主題文で筆者の主張（少し注意するだけで，あなたの金魚は長生きできる）が述べられ，第２文以降で，金魚を長生きさせるための注意点が具体的に３つ列挙されている。ところが，②だけは「餌付け」についての内容であり，「長生きさせるための注意点」ではないため，パラグラフの流れに合わない。したがって，この②が正解。①は，第２文で decorate it（＝ the tank）with objects such as small rocks and plants と勧めた直後に，水槽の中に入れるものに関して，注意を付け足す役割を果たしており，文頭に逆接の However（しかしながら）を置くことは適切である（⇒Key 20 ・ Key 21 ）。

問２　③の文が The most important thing is ... で始まっていることに着目する。be 動詞の補語に相当する to clean the ... every two weeks の内容に，続く④の partial water changes（水を一部取り替えること）を加味して答える。

語・句

(l. 1) **much longer than** ～「～よりはるかに長い間」　この much は，比較級を強める副詞で，「ずっと，はるかに」という意味を表す。*l. 9* の much better than ～（～よりずっとよい）の much も同じ意味・用法。　*(l. 8)* **every two weeks**「２週間ごとに」　この every ～ は，「～ごとに，～おきに」という意味。*Ex.* The Olympic Games are held *every* four years.（オリンピック大会は４年ごとに開催される）　*(l. 11)* **golden years**「老年期」　ほかに「最盛期」という意味もあるが，ここでは「老年期」の意味で使用されている。なお，golden years の gold と goldfish（金魚）の gold でシャレになっている。

文構造に注目

ll. 8-10　〈V + O（it =形式目的語）+ C + for ～+ to *do*〉

To make it easier for the fish to adjust to new water,
V'　O'　C'　意味上の主語　〈to +動詞の原形〉

不定詞句（～するために）：下の文全体を修飾

partial water changes are much better than complete water changes.
S　V　強調　C　前置詞　比較の対象

POINT 1　文頭の To make it easier for the fish to adjust to new water は，「～するために」という〈目的〉を表す不定詞の副詞的用法で，「金魚が新しい水に慣れやすくするためには」という意味。これ自体が〈**V + O**（**it** =形式目的語）+ **C** + **for** ～ + **to** *do*〉という構造になっている。it は後方の不定詞 to adjust to new water（真の目的語）を形式的に受ける形式目的語で，**for** the fish は不定詞の意味上の主語。

POINT 2　**much better than** ～で比較されているのは，主語の partial water changes と than の後の complete water changes。**much** は，*l. 1* の much と同様，比較級を強める副詞で，「ずっと，はるかに」という意味。

全　訳

ほんの少し注意するだけで，金魚は思っているよりはるかに長生きできる。第一に，予算が許す限りで最も大きな水槽を選び，それを小石や水草などの物で飾る。ただし，金魚を傷つけかねないような鋭利な物を水槽に入れないように注意する。第二に，金魚が数分で食べきれるだけの餌を与え，食べ残した餌はすぐに取り除く。最も重要なのは，少なくとも２週間に１回は水槽を掃除して，水を入れ替えることである。金魚が新しい水に慣れやすくするためには，水を全部替えるより一部だけを替えるほうがずっとよい。こうしたことをすべて実行することによって，金魚が「老年期」まで生き延びることをあなたは確信できる。

確認問題 07

パラグラフの構造　＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

文番号	文の種類	文の役割	内　容
第１文 ＋ 第２文（②）	導入文 ＋ 主題文	主題の提示	3歳から５歳の子供は多くの質問をし始めるが，親がこうした子供の質問にどのように対処するかは大切なことである。（... The way parents handle their children's questions is **important**.）
第３文（③） ＋ 第４文（④）	支持文	親の答え方が子供に好ましい影響を与える場合	親が子供の質問に喜んで答えようとすれば？　→子供が想像力を働かせ，いっそう創造的になることを助ける。（Some parents ... happily answer all their questions. **This** encourages children to use their imagination and become more creative.）
第５文 ＋ 第６文		親の答え方が子供に好ましくない影響を与える場合	親が充分辛抱強く質問に答えてあげないと？　→子供の好奇心を失わせ，新しい活動に取り組むことに臆病にさせる。（対比「その一方で」**On the other hand**, if parents are not patient enough to answer questions, children might feel that they shouldn't be curious about things. 因果関係（結果）「その結果」**As a result**, they may begin to feel nervous about trying new activities.）

解　答

問１　①　　問２　④

設問解説

問1　このパラグラフでは，まず第1文で「3歳から5歳の子供は多くの質問をし始める」と述べ，②以降の文では，そうした子供の質問に対する親の対処の仕方次第で，子供の想像力や創造性が伸びることもあれば，逆に子供の好奇心を失わせ，新しい活動に対して消極的になってしまうこともあると述べている。ところが，①の文は「子供の平均体重」について述べており，明らかに文脈にそぐわない。したがって，この①が正解。

なお，Unit 1でも述べたように，**important** はしばしば主題文で用いられる（⇒Key 03 ②）。ここでも，important を含む第2文（②）がこのパラグラフの主題文となっている。

問2　空所前の2文（③と④）は，子供の質問に喜んで答える親とその好ましい影響について述べている。一方，空所後の最後の2文では，それとは対照的に，子供の質問に辛抱強く答えてあげない親と，その結果として現れる好ましくない影響について述べている。したがって対比を表す④の On the other hand（その一方で）が正解（⇒Key 12 ・ Key 13）。

語　句

(l. 1) **between the ages of ～ and ...**「～歳から…歳までの間の」　*(l. 3)* **the way + S + V**「SがVする方法，いかにSがVするか」　*(l. 4)* **be proud of ～**「～を誇りに思う」　*(l. 5)* **development**「成長」 development は多義語で，ほかに「発展，発達」「開発」「(状況の）進展，変化」などの意味も重要。　*(l. 5)* **happily**「喜んで，快く」　*(l. 6)* **use their imagination**「想像力を働かせる」 imagination は，ここでは単に「想像」ではなく，「想像力」の意味で用いられている。　*(l. 7)* **... enough to *do***「～するのに十分…」　*Ex.* The new stadium is large *enough to* hold 50,000 people.（新しいスタジアムは5万人を収容できる大きさがある）

全　訳

3歳から5歳の子供は多くの質問をし始める。親が子供の質問にどのように対処するかは大切なことである。子供の成長を誇りに思い，子供のあらゆる質問に喜んで答える親もいるだろう。このことは，子供が想像力を働かせ，いっそう創造的になることを助けてくれる。他方，もし親が充分辛抱強く質問に答えてあげないと，子供は物事に好奇心を持つべきではないと感じてしまうかもしれない。その結果，子供は新しい活動に取り組むことに臆病になり始めるかもしれない。

Lesson 4　道しるべ語に注目する

確認問題 08

パラグラフの構造　＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

1　テーマの導入＋提示

《テーマの導入》❶ Many people who enjoy music know that it can provide various benefits in everyday life.　❷(A)**On the other hand**（対比「その一方で」）, when we are trying to study or think about something, music can bother us if it is too loud or too harsh; in other words, [1]music can interfere with what we are trying to do.

⇩

《テーマの提示》❸ **Nevertheless**（逆接「それにもかかわらず」）, according to several studies, music can have positive effects on learning and attitude when used properly.

2　テーマの展開(1)：音楽が学習や態度に与える影響・効果①…小学校の場合

2	第1文	主題文	音楽を利用するプログラムの中には，青少年の学習過程に好ましい変化をもたらす（produce positive changes in the learning processes of young people）ことが実証されているものもある。
	第2～4文	支持文	（例）「芸術による読み方の学習（LTRTA）」プログラム（**One example is** ...）（例示「1つの例は～」）
	第5文	主題の再提示	LTRTA プログラム→生徒たちのやる気と能力を高める。（the program enhances student motivation and ability）

3　テーマの展開(2)：音楽が学習や態度に与える影響・効果②…大人の場合

3	第1文	主題文	「音楽は大人の学習態度にも影響を与えうる」（music can influence the attitude of adults towards learning as well）
	第2～4文	支持文	・好ましい影響：音楽はストレスを減らし，快適な環境を作るのに効果的に作用した。（the music worked effectively to reduce stress and to create a comfortable environment）
			・好ましくない影響：あまりにも騒がしい音楽は聞

	第5～6文	支持文	いている人々が注意を集中させるのを難しくした。(music which was too loud made it hard for listeners to focus their attention) ・注意点：人それぞれの音楽の好みを考慮する必要あり。(what kind of music the listeners prefer must be considered)

4 結び（主題の再提示）

換言「要約すると」
❶ **To summarize**, [3] under the right conditions, music can be a useful aid to learning. 逆接「しかしながら」❷ **However**, we need to study music more to understand its full impact on the human mind. ❸ Through further study, it will become possible for us to learn how to use the power of music more effectively.

＊[3] は第1パラグラフ❸の下線部の言い換え表現。

解　答

問1 [1] ② [2] ② [3] ④
問2 (A) ③ (B) ①

設問解説

問1 [1] 空所の直前の **in other words**（言い換えると）に注目する。これは言い換えを表す道しるべ語である（⇒Key 18・Key 19）。したがって，この直前の文（when we are ... or too harsh）と主旨が一致する選択肢②が正解。interfere with ～「～を妨げる，邪魔する」

選択肢の訳 ① 刺激的な音楽は私たちを勉強する気にさせてくれることがある。 ② 音楽は私たちがしようとしていることの妨げになることがある。 ③ 静かな音楽は私たちを心地よい気持ちにしてくれることがある。 ④ その種の音楽は集中力に影響を与えるようなことはない。

[2] 空所に続く関係代名詞節（..., which **leads to** ..., and analytical skills）は，〈*A* leads to *B*〉で「A（原因）がB（結果）をもたらす」という因果関係を表す構文。空所[2]には，B（= improvement of pupils' reading, writing, thinking, and analytical skills）の原因となる内容が入る。子供たちの学習意欲の向上について述べている②を入れると，因果関係が正しく成立する。第4文全体の文構造は以下のようになる。

Research indicates
S V

that the LTRTA program creates enthusiasm for learning among children,
S' V' O'

O（= that 節）　この文全体が which（非制限用法）の先行詞＝原因

which leads to improvement of pupils' reading, ...
V" O"＝結果

選択肢の訳　① 子供たちの学習する科目数を変える　② 子供たちの間に学習意欲を生み出す　③ 教師たちに互いが一緒に作業する機会を与える　④ 生徒たちに自分がまるで音楽家であるかのような気分にさせる

[3] 空所の直前に，道しるべ語の **To summarize**（要約すると）があるので，これまでに述べてきたことのまとめになる文を選ぶ（⇒Key 04 ②・Key 19）。第1パラグラフの最終文で，... music can have positive effects on learning and attitude when used properly.（音楽は適切に利用されれば，学習や態度に好ましい効果を与えうる）と述べている。また，第2パラグラフの冒頭で，Some programs that make use of music have been found to produce positive changes in the learning process of young people.（音楽を活用する教育プログラムの中には，青少年の学習過程に好ましい変化をもたらすことがわかっているものもある）と述べている。さらに，第3パラグラフの冒頭で，... music can influence the attitude of adults towards learning as well.（音楽は大人の学習態度にも影響を与えうる）と述べている。以上を考え合わせると，正解は④と判断できる。

選択肢の訳　① 音楽は，長い間，小学校の科目として効果的に用いられてきた　② 音楽以外の科目が学校のカリキュラムで推進されるべきである　③ 音楽課程を推進することに関する教育的研究はほとんどなされてこなかった　④ 適切な条件のもとでは，音楽は学習の有効な手助けとなりうる

問2　(A) 空所直前の文は it（= music）can provide various benefits in everyday life で，これは日常生活における音楽の恩恵について述べている。一方，空所直後の文には music can bother us（音楽は邪魔になることがある）とあり，これは音楽がもたらす悪影響を指摘している。したがって，空所には前後の内容を対比する道しるべ語の On the other hand が入る（⇒Key 12・Key 13）。

(B) 第3パラグラフでは，音楽は子供だけでなく大人にも好ましい影響を与えると述べている。したがって，空所（B）には，追加を導く道しるべ語の as well（～もまた）が入る（⇒Key 07・Key 09）。

語　句

(l. 4) **nevertheless**「それにもかかわらず」　ふつう文頭に置かれ，前文と逆接の関係であることを示す道しるべ語の１つ（⇒Key 20・Key 21）。　*(l. 7)* **make use of** ～「～を利用する」　*cf.* make good use of ～「～を有効に利用する」/ make the best use of ～「～を最大限に利用する」　*(l. 8)* **learning process**「学習過程」　*(l. 24)* **apparently**「見たところは（～らしい）」　*(l. 24)* **work effectively**「効果的に作用する」　work はここでは，「作用する」の意。　*(l. 27)* **in addition**「さらに，そのうえ」　情報を追加するときに用いる道しるべ語の１つ（⇒Key 07・Key 09）。

文構造に注目

ll. 7-8　主語が関係代名詞の先行詞となる場合／受動態〈be found to *do*〉

Some programs (先行詞) that (関係代名詞) make use of (V') music (O')

これ全体が S

have been found to produce positive changes in ... .

V（現在完了の受動態）〈to ＋動詞の原形〉

POINT 1　関係代名詞 that が導く形容詞節（that make use of music）は，先行詞 Some programs を修飾しており，Some programs ... of music が文全体の主部である。関係代名詞が主語を先行詞とする場合，主部が長くなって動詞と離れるため，基本構造を見失わないように注意。

POINT 2　〈**be found to** *do*〉は〈S ＋ V ＋ O ＋ C（to *do*)〉の受動態で，「～することがわかる」という意味。ここでは現在完了形の受動態（have been ＋過去分詞）の形で使われている。ほぼ同じ内容を，**It has been found that** some programs that make use of music produce positive changes in ... のように，that 節を使って表すこともできる。

全　訳

1　音楽を楽しみとする多くの人が，日常生活において音楽はさまざまな恩恵をもたらしてくれることを知っている。その一方で，勉強したり何かについて考えようとしているときに，音が大きすぎたり，あまりに耳障りだったりすると，音楽は邪魔になることがある。言い換えれば，音楽は私たちがしようとしていることの妨げになることがある。それにもかかわらず，いくつかの研究によると，音楽は適切に利用されれば，学習や態度に好ましい効果を与えうるという。

2　音楽を利用するプログラムの中には，青少年の学習過程に好ましい変化をもたらすことがわかっているものもある。その一例は，「芸術による読み方の学

習（LTRTA）」プログラムで，これは教師が音楽やほかの種類の芸術を，読み書きや社会科のようなほかの科目を教える主要な手段として活用するという小学校のカリキュラムである。例えば，こうした授業では，生徒たちは音楽を聞き，聞いたものについて話し合い，その音楽を理解したり解釈したりするために，作曲者や歴史的背景について読む。研究によると，LTRTA プログラムは子供たちの間に学習意欲を生み出し，それが生徒の読み書き能力や思考能力や分析能力を向上させることにつながっていることがわかる。この結果は，このプログラムが生徒たちのやる気と能力を高めていることを示している。

3　いくつかの研究により，音楽は大人の学習態度にも影響を与えうることがわかっている。ある研究によれば，BGM は被験者がより長時間作業に集中するのを助けることがわかった。別の研究によれば，生物学専攻の大学生たちはなじみのある音楽が流れていると，より長時間実験室にいたがることがわかった。どうやら，音楽はストレスを減らし，快適な環境を作り出すのに効果的に作用したようである。しかしながら，その研究ではまた，あまりにも騒がしい音楽は，それを聞いている人々が注意を集中させるのを難しくすることもわかった。さらに，音楽が聞く人の気分や態度に好ましい影響を与えるために，その人がどのような種類の音楽を好むかということが考慮されなくてはならない。

4　要するに，適切な条件のもとでは，音楽は学習の有効な手助けとなりうる。しかしながら，音楽が人間の精神に与える影響のすべてを理解するには，私たちは音楽をさらに研究する必要がある。さらなる研究により，音楽の力をもっと効果的に利用する方法を知ることが可能になるだろう。

Lesson 5 パラグラフのつながり方をつかむ

確認問題 09

パラグラフの構造 ＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

1 導入部＋テーマの提示

第1～4文	導入部	**列に並んで待つこと**は，日常生活で避けることができない，そしてしばしば不愉快な部分である。…私たちは行列に並ぶのに驚くほどの時間を費やす。（例）平均的なアメリカ人が列に並んで待つ時間：一生の間に2年から5年間（**Waiting in line** is an unavoidable and often unpleasant part of our everyday life. ... We spend a surprising amount of time in line. 例示「例えば」**For example**, the average American is said to wait in line for two to five years over a lifetime.）
第5文	問題提起	待つことに関して私たちにできることはないのか？（Is there anything we can do about it (＝ waiting in line)?）
第6文	文章全体のテーマの提示	心理学の研究でわかったことが，人々の待つことに対する受けとめ方を改善するのに役立つ。（Findings from psychological research have contributed to **improving people's perceptions of waiting**.）

2 テーマの展開(1)：待つという体験をより良いものにする方法①

第1文	主題文	列挙「～の1つは」待っている人々に明確な情報を与えること（**One of** the ways to **improve the waiting experience** is to give clear information to people waiting.）
第2～4文	支持文	（例）次の列車の到着時間や番線を知らせる駅の表示やアナウンス

3 テーマの展開(2)：待つという体験をより良いものにする方法②

第1文	主題文	「空虚な」時間を減らすこと（Reducing "empty" time is 追加「～もまた」**also** useful.）

第2～4文	支持文	待ち時間中に何かをして気を紛らす。(distract their minds while waiting)（例）病院や診療所に患者用の雑誌を置く／レストランで席が空くのを待つ客にメニューを渡しておく。

4　テーマの展開(3)：待つという体験をより良いものにする方法③

第1文	主題文	追加「もう1つの」 公平感や社会正義にしかるべき敬意を払うこと（**Another way to improve the waiting experience** is to give due respect to a sense of fairness and social justice.）
第2～3文	支持文	自分より後に来た人が先に応対されることへのいらだち(It is irritating when someone who comes later gets served first.) →列を1つだけにしておくことで「先着順」の原則を守ってもらうことができる。(having only one line enforces the "first come, first served" principle)

5　結論（テーマの再提示）

第1文	主題文＝テーマの再提示（2～4の総括）	こうしたこと（＝2～4）はすべて，列に並んで待つという体験は，心理的側面が考慮されると著しく改善されうることを示している。(All of this shows that the experience of **waiting in line can be significantly improved** when the psychological aspects of waiting are taken into account. ＊下線部分は第1パラグラフ最終文（＝テーマ文）と主旨が同じ。)
第2～3文	支持文	・心理学の研究者たち：待ち時間の質を高めるためのアイディアを考え出す。 ・私たち自身でなすべきこと：待つことに対する私たち自身の考え方を変えるようにする。
第4文	結び	待つことは私たちの生活の避けがたい部分であり続けるだろうが，それをもっと快適な体験に変えることは可能。 (**Waiting** will remain an unavoidable part of our life, 逆説「だが，しかし」 **but** it is possible to turn it into a more pleasant experience. ＊いったん譲歩した後で，逆接の but で結論を強調する。)

解　答

問1　[A] ③　[B] ②　[C] ①

問2　④

設問解説

問1　[A] 第2～4パラグラフでは，待つという体験をより良いものにする方法を3つに分けて展開している。**One of** the ways to improve ... という列挙のパターン（⇒Key 08・Key 09）で始まる第2パラグラフは，その1番目に当たる。第1文（＝主題文）で「待っている人々に明確な情報を与えること」(to give clear information to people waiting) の重要性について述べており，最終文 (Telling people ... cope with waiting) はその再提示と考えることができる。この最終文に出てくる how long they have to wait，および where they should make a line を the waiting situation（どういう状況で待っているのか）と簡潔に言い換えた③が正解。

[B] 第3パラグラフでは，冒頭の主題文 Reducing "empty" time is **also** useful. で筆者の主張を述べている。also は情報を追加する道しるべ語の1つ（⇒Key 09）。「空虚な時間を減らす」とは，第2～3文で述べているように，「待っている間何もせずにいるのではなく，何かをする」ことだと考えられる。これを keeping people occupied（人々に何かをさせておくこと）と言い換えた②が正解。

[C] 第4パラグラフ第1文では，「待つという体験をより良くするもう1つの方法」(**Another** way to improve the waiting experience) として，「公平感や社会正義にしかるべき敬意を払うこと」(to give due respect to a sense of fairness and social justice) を挙げている。最終文にあるように，これは，「『先着順』の原則を守らせる」(enforces the "first come, first served" principle) ことである。これと一致する選択肢は，①の The necessity of fair line management（行列の公平な管理の必要性）である。

選択肢の訳　① 行列の公平な管理の必要性　② 人々に何かをさせておくことの効果　③ どういう状況で待っているのかを説明することの利点

問2　問題文は「この文章全体としては［　］ということを示している」という意味。第1パラグラフ・第5文の Is there anything we can do about it (= waiting)?（待つことに関して，何か私たちにできることはないのだろうか）は，この英文全体の内容にかかわる問題提起の文。続く第6文 (Findings from psychological research have contributed to improving people's perceptions of waiting.) では，その答えを見つける手がかりが心理学の研究

成果にあることを述べ，第２～４パラグラフでは，その解決法（改善策）を３つ挙げている。【パラグラフの構造】の中で太字で示したように，第１パラグラフ最終文に出てきた improving people's perceptions of waiting という語句が，英文全体のキーフレーズとして繰り返し使われていることから，正解は④と判断できる。

選択肢の訳 ① 効率の良い時間管理が待ち時間を避けるのに役立つ　② 社会的正義感に基づいて，列は管理されるべきである　③ 心理学の研究が待ち時間を短縮してきた　④ 待つという体験を改善する方法はいろいろある

語　句

(l. 1) **wait in line**「列に並んで待つ」　*(l. 16)* **distract *one's* mind**「気を紛らす」　*(l. 24)* **the "first come, first served" principle**「先着順の原則」 First come, first served. は，「先に来た者が先にもてなされる」という意味。　*(l. 28)* **take ～ into account**「～を考慮する」 本文では受動態（～ are taken into account「～が考慮される」）の形で用いられている。　*(l. 28)* **no doubt**「確かに」　*(l. 30)* **attitude**「考え方」　*(l. 32)* **turn *A* into *B***「A を B に変える」

文構造に注目

ll. 9-11 〈S + make + O + C（動詞の原形）〉の使役構文／動名詞の否定形

Not knowing
動名詞の否定形（～しないこと）

how long the wait will be
know の目的語①（間接疑問「どれくらいの間～か」）
or
whether you are in the correct line
know の目的語②（間接疑問「～かどうか」）

これ全体が S
makes the waiting　feel　worse and longer.
V　O　C（動詞の原形）　feel の補語

POINT 1 文全体は〈S + V（make）+ O + C（動詞の原形）〉の使役構文。この文の場合，目的語の位置に人ではなく，the waiting（待つこと）という動作を表す名詞が来ている点に注意。S + makes the waiting feel ～ は，直訳すれば「S は待つことを～であると感じられるようにする」となる。

POINT 2 Not knowing から correct line までがこの文の主部（S）で，Not knowing（～を知らないこと）は動名詞の否定形。動名詞の直前に not を置くことにより，「～しないこと」という意味を表すことができる。動名詞の否定形は，主語のほか，前置詞の目的語などにもなる。*Ex.* Alan apologized to

Emma for *not answering* her letter.（アランはエマからの手紙に返事を出さなかったことをわびた）

全　訳

1　列に並んで待つことは，日常生活で避けることができない，そしてしばしば不愉快な部分である。バスや電車に乗るのに列に並んで待つ。スーパーで勘定を済ますために待つ。私たちは行列に並ぶのに驚くほどの時間を費やす。例えば，平均的なアメリカ人は，一生の間に２年から５年間，列に並んで待つと言われている。待つことに関して，何か私たちにできることはないのだろうか。心理学の研究を通してわかったことが，待つことに対する人々の受けとめ方を改善するのに役立っている。

2　待つという体験をより良いものにする方法の１つは，待っている人々に明確な情報を与えることである。待ち時間がどのくらいか，あるいは正しい列に並んでいるかどうかがわからなければ，待つことはより不愉快に，より長く感じられることだろう。そのようなわけで，例えば，鉄道の駅では，次の列車の到着時間やプラットホームの番号を表示したり，アナウンスしたりするのである。どのくらい待たなければならないか，そしてどこに並ぶべきかを人々に知らせることは，人が待つことに対処するのを助けるうえで必要不可欠なのだ。

3　「空虚な」時間を減らすことも役に立つ。たいていの人は，待っている間に気を紛らすものが何もないと，不安になる。何かすることがあるときは，時間はより速く過ぎていくように思われる。したがって，多くの病院や診療所では，患者が拾い読みする雑誌を用意しているし，レストランの中には，お客が席に着くために待っている間にメニューを渡しておく所もある。

4　待つという体験をより良くするもう１つの方法は，公平感や社会正義にしかるべき敬意を払うことである。自分より後に来た人が先に応対されるといらいらする。このようなことは，いくつかある列のどれに並ぶかを選べる場合に起こりやすいため，列を１つだけにしておくことで「先着順」の原則を守ってもらうことができる。

5　こうしたことはすべて，列に並んで待つという体験は，待つことの心理的側面が考慮されると著しく改善されうることを示している。待ち時間の質を高めるために，研究者たちがさらに多くのアイディアを考え出し続けるのは間違いないだろう。私たちの側では，もし私たちが待つことに対する私たち自身の考え方を変えられるようになれば，私たちが行列に並ぶときの体験は，いっそう改善されるかもしれない。待つことは，私たちの生活の避けがたい部分であり続けるだろうが，それをもっと快適な体験に変えることは可能なのだ。

Lesson 6 代名詞の指示関係に着目する

確認問題 10

パラグラフの構造　＊赤太字は文脈をつかむのに役立つ道しるべ語

1　導入部＋テーマの提示

第1～3文	導入部	●ダンスとは何か？ 第1文：ダンスは最も古い芸術形式の1つであり，あらゆる文化に見られ，さまざまな目的で演じられる。(Dance is one of the oldest forms of art, and it is seen in every culture and performed for a variety of purposes.) ●現代社会におけるダンスの典型的な役割 第2文：a form of entertainment（娯楽の一形式） 第3文：a form of sport（スポーツの一形式）
第4文	文章全体のテーマの提示	●ダンスが果たしてきた，より複雑な役割。 第4文：しかしながら，これらの明確な役割に加えて，ほかにもダンスが社会で果たしうるもっと複雑な役割がある。 追加「～に加えて」　逆接「しかしながら」 (**In addition to** these obvious functions, **however**, there are **other more complex roles dance can play in a society**.)

2　テーマの展開(1)：ダンスの持つより複雑な役割①

第1文	主題文	ダンスは，大人たちが地域社会のルールを必ず守るようにするために利用されてきた。(Dance has been used to make sure that adults follow the rules of their community.)
第2～6文	支持文	(例) 中央アフリカに住むムブティ・ピグミー族（the Mbuti Pygmies）が狩りの後で行うダンス → 狩りを台無しにしかねない行為の抑止（**An example comes from** research ...） 例示「その一例は～に由来する」

3 テーマの展開(2)：ダンスの持つより複雑な役割②

第１文	主題文	文化によっては，ダンスは力を誇示する手段にもなりうる。（In some cultures, dance can be a way of displaying power.）
第２～４文	支持文	（例）ニューギニアのマリング族（the Maring people of New Guinea）が示威目的で開くダンスの会 → 戦闘の抑止につながる場合もある（**For instance**, there is another report from ...） 例示「例えば」

4 結論

第１文	主題文	ここで論じられているダンスの役割には，集団の構成員を団結させるという，１つの共通した効果がある。（**The roles of dance** discussed here ... have one shared effect: they unite members of a group.）
第２文	支持文	ダンスは集団が自分たちの共有する独自性〔アイデンティティー〕を強めるための手段でもある。（Dance is **not just** an artistic expression **but** a way for groups to strengthen their shared identity.） 追加・列挙「～だけでなく…もまた」
第３～６文	支持文＋結び	こうした効果は現代社会に生きる私たちにも当てはまる。（**Though it may not be** apparent, this effect may also apply to us. ＊Though ...（…だけれども）と譲歩しながら，重要な事柄を主張する。） 譲歩「～かもしれないが」 ↓ 私たちの生活におけるダンスの役割を考えることは，私たち自身の社会の歴史や価値観についての興味深い発見につながる可能性がある。（Considering **the role of dance** in our lives can lead to interesting discoveries about the history or values of our own society.）

解　答

問１ (A) dance　(B) [1] 娯楽　[2] スポーツ

(C) 狩りの後で踊り手が間違った行為を明らかにし，当人に恥をかかせるためにその出来事を演じたこと。
(D) ダンスを通して，集団の規模や力が敵になる可能性のある相手方に明らかになること。
(E) ダンスにより集団が自分たちの共有の独自性［アイデンティティー］を強めるという効果。

問2 ①

設問解説

問1 (A) 指示代名詞としての it の働きには，大きく分けて，❶直前の名詞(句)を指す場合と，❷直前で述べているまとまった内容全体を指す場合の２通りがある。ここは❶のケースで，接続詞 and で結ばれた前文の主語 dance を指している。単純な名詞を指す基本的な例といえる（⇒Key 25 ①）。

(B) 下線部(B)の these obvious functions は，「(ダンスが持つ) これらの明確な役割」という意味。その内容は，直前の第２～３文で説明されている（⇒ Key 29 ）。第２文の ..., dance is widely recognized as **a form of entertainment**: ...（ダンスは娯楽の一形式として広く認識されている）と第３文の It can also be **a form of sport**: ...（ダンスはまたスポーツの一形式でもありうる）の太字の語に着目して答える。追加の道しるべ語である **also** にも留意する（⇒Key 09 ）。

(C) 下線部(C)の this は，直前の第２パラグラフ第５文（Later, a dancer ... embarrass that person.）の内容全体を指す（⇒Key 26 ②）。答える際は，文頭の Later を単に「その後で」とせず，第３～４文の内容を踏まえて「狩りの後で」のように具体的に補う必要がある。

(D) 下線部(D)の this は，直前の文（Through the dances, ... to potential opponents）を指す（⇒Key 26 ②）。

(E) 下線部(E)の this effect（この効果）は，前文の Dance is ... a way for groups to strengthen their shared identity.（ダンスは…集団が自分たちの共有する独自性を強めるための手段でもある）を指す（⇒Key 29 ）。

問2 問題文は「この文章の主旨は［ ］ということである」という意味。ダンスには，第２～３パラグラフで例証しているような「より複雑な役割」(more complex roles) があり，これらに共通するのは，「集団の構成員を団結させる」(unite members of a group) という効果である，というのが最終パラグラフ第１～２文の主旨。さらに第６文で筆者は，ダンスの役割を考えることは，「私たち自身の社会の歴史や価値観についての興味深い発見につながる可

能性がある」と述べている。以上の主張から，正解は①。

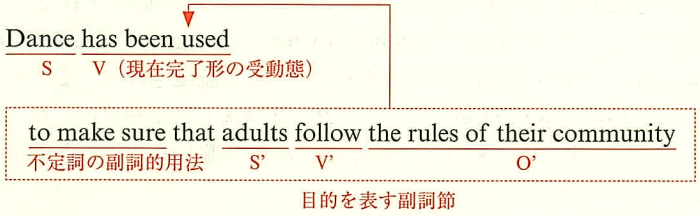
選択肢の訳 ① ダンスは私たちを結びつけたり，私たちが社会を理解するのに役立ったりしうる　② ダンスは集団の力を示す　③ ダンスの主な目的は娯楽と運動である　④ ダンスの歴史を理解することは大切である

語　句

(l. 6) **in addition to** ～「～に加えて」 追加を表す道しるべ語の１つ（⇒Key 09）。 *(l. 11)* **Suppose (that)** ～「仮に～としよう」 that 節の中で確実性の低い内容を扱う場合は仮定法が用いられる。ここでは過去の出来事を想定しているため，仮定法過去完了（had gone wrong）。 *(l. 18)* **display**「～を誇示する」 *(l. 21)* **military strength**「軍事力」 *(l. 24)* **potential opponent**「可能性のある敵」つまり「敵になる可能性のある相手方」のこと。 *(l. 27)* **shared effect**「共通の効果」 *(l. 29)* **shared identity**「共有する独自性［アイデンティティー］」

文構造に注目

ll. 8-9 〈make sure that ＋ S ＋ V〉「必ず S が V するようにする」



POINT 現在完了形の受動態 has been used の後に，「～するために」（目的）を表す〈to ＋動詞の原形〉が続いている形。〈make sure (that) ＋ S ＋ V〉は「必ず S が V するようにする」という意味で，that 節の中は未来の事柄も現在形で表す。*Ex. Make sure* that you send your reply as soon as possible.（返事は必ず，できるだけ早く送るようにしなさい）

全　訳

1　ダンスは最も古い芸術形式の１つであり，あらゆる文化に見られ，さまざまな目的で演じられる。現代社会では，ダンスは娯楽の一形式として広く認識されている。多くの人々が娯楽のために踊ったり，あるいはお気に入りのアーティストが舞台や画面で踊るのを見たりして楽しんでいる。ダンスはまたスポーツの一形式でもありうる。さまざまな種類のダンス競技会がある。しかしながら，これらの明確な役割に加えて，ほかにもダンスが社会で果たしうるもっと複雑な役割がある。

2　ダンスは，大人たちが地域社会のルールを必ず守るようにするために利用

されてきた。その一例は，中央アフリカの各地で暮らす民族集団のムブティ・ピグミー族が狩りの後で行うダンスに関して，1900年代半ばに実施された調査に由来するものである。狩りで何かがうまくいかなかったとしよう。例えば，狩人のほうへ獲物を追いやるために地面をたたく役割を果たすのを誰かが怠ったために，獲物を捕まえる機会を逃してしまったとする。その後で，踊り手がその間違った行為を明らかにし，そしておそらく，当人に恥ずかしい思いをさせるためにその出来事を演じたのである。こうすることで，今後の狩りを台無しにしかねない行為が抑止されることになると想像するのは容易である。

3 文化によっては，ダンスは力を誇示する手段にもなりうる。例えば，1900年代半ばに行われた別の報告によれば，ニューギニアのマリング族は軍事力を示し，予想される戦闘に備えて味方を募るために，ダンスを演じる会を催した様子が記されている。しばしばこうしたダンスの後に戦闘が起きたが，こうしたダンスが敵対する集団間の平和的解決に貢献したとも言われている。ダンスを通して，集団の規模や力が，敵になる可能性のある相手方に明らかになり，このことが戦いを避けるのに役立つこともあったのである。

4 伝統を維持したり集団の力や文化の豊かさを示したりといった，ここで論じられているダンスの役割には，１つの共通した効果がある。集団の構成員を団結させるという効果である。ダンスは芸術表現であるだけでなく，集団が自分たちの共有する独自性［アイデンティティー］を強めるための手段でもある。はっきりわかるものではないかもしれないが，この効果は私たちにも当てはまるだろう。例えば，私たちが参加する，地元の地域特有のダンスがあるかもしれない。なぜ私たちはそうした活動に参加するのだろうか。また，そのダンスはどのようにして始まったのだろうか。私たちの生活におけるダンスの役割を考えることは，私たち自身の社会の歴史や価値観についての興味深い発見につながる可能性がある。

実戦対策編

Step 1 — 入試基本レベルの英語長文にトライ

Step 2 — 入試標準レベルの英語長文にトライ

Step 3 — 入試発展レベルの英語長文にトライ

Part 2

演習問題 01

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1 テーマの導入＋提示

第1～2文	テーマの導入	言葉は私たちが物事を語る唯一の手段ではない。会話の最中に身を乗り出したり，目を細めたり，腕を組んだりすることによっても，私たちは気持ちを伝える。(❶ The words aren't the only way we say things. ❷ By leaning forward during a conversation, or narrowing our eyes, or folding our arms, we **also** **communicate** feelings.)
第3～4文	文章全体のテーマの提示	私たちが言うことの70%もがこの種の非言語コミュニケーションによってもたらされるので，自分たちの身体言語を自覚することはあきらかに大切なことである。(❸ With as much as 70 percent of what we say coming from this type of **non-verbal communication**, **it's clearly important to** be aware of our **body language**. ＊ this type of non-verbal communication は❷の3つの下線部をまとめた言い方。) それは，異文化の人と接するときにとりわけあてはまる。(❹**That's especially true** when dealing with people from other cultures, ... ＊ That は❸の内容を指す。)

2 本論(1)：**body language** の3つのタイプ

第1文	主題文	身体言語にはいくつかの種類がある。(❶ There are several types of **body language**.)
第2～5文	支持文(body language の3つのタイプ)	《タイプ1：身振り》❷ With **gestures**, we use our arms and hands to show moods, ask questions, and share information. 《タイプ2：顔の表情》❸ **Our faces are very expressive**, with more than 90 muscles working to send messages of surprise, happiness, anger, and so on. 《タイプ3：体の姿勢》❹ There's **also** **kinesic communication**, which refers to our body shape. ❺ By

		walking in a slumped position, we show we're sad, while a straight posture displays confidence. ＊❺の下線部はどちらも kinesic communication の具体例。

3 本論(2)：body language の理解に関する注意点

第１文	主題文	身体言語は，場所によって大いに異なるので，外国出身の人が身振りや表情によって意味することを誤解しやすい。（❶ Since **body language** differs greatly from place to place, it's easy to misunderstand what someone from another country means by a **gesture** or **expression**.）
第２～５文	支持文（具体例）	《誤解しやすい例１：ほほ笑むこと》❷ **For instance**, smiling shows ... in North America. ❸ **Yet** in East Asia, it can be a sign of .... 地域による body language の違いを対比 《誤解しやすい例２：首を横に振るしぐさ》❹ Shaking one's head may mean "no" in England **while** carrying the opposite meaning in Bulgaria. 地域による body language の違いを対比 《誤解しやすい例３：その他の日常の動作》❺ **Also**, many daily actions, from greeting to shaking hands, vary in the way they're done around the world.

4 本論(3)：文化が非言語表現に及ぼす影響

第１文	主題文	文化は非言語表現に強い影響力を持つ。（❶ **Culture** has a strong influence on **non-verbal expression**.）
第２～６文	支持文（具体例）	《具体例：人の目を見るという行為》 ❷ The simple act of looking someone in the eye, **for example**, is not at all that straightforward, varying in meaning from culture to culture. ❸ In the USA, people are encouraged to look directly at others when speaking to them. ❹ It shows interest ... 地域による non-verbal expression の違いを対比 ❺ **However**, in Japan and Korea, people avoid lengthy eye contact. ❻ It's considered more polite to look to

		the side ....

5 結論（テーマの再提示）

第1～3文	支持文	《身体言語についての補足説明》 身体言語は意識下のものなので，人々は自分が相手に送っているメッセージに気がつかない傾向にある。（❶ Because **body language** is subconscious, people tend to be unaware of the messages they're sending to others.） →異文化出身の人に対処する前に，自分自身の身体言語を熟慮しておく必要がある。（❷ So before dealing with people from other cultures, consider your own **body language**. ❸ The last thing ....）
第4文	主題文 （テーマの再提示）	自分自身の暗黙のメッセージ（身体言語）と同様に，友人や顧客や同僚の身体言語も熟知していることは，理解を深め，誤解を避けるのに大いに役立つのである。（❹ Being knowledgeable about the **body language** of friends, clients, and colleagues — **as well as** your own **unspoken messages** — can go a long way towards improving understanding and avoiding miscommunication. ＊ Being knowledgeable about the body language は，第1パラグラフ❸の be aware of our body language を言い換えた表現。）

解答

問1　ほほ笑みは，北米では幸せや親しみを表すが，東アジアでは不快感や困惑のしるしになりうること。／首を横に振ることは，英国では「いいえ」を意味するが，ブルガリアでは「はい」を意味すること。（以上2つのうち，どちらでも可）

問2　[A] ④　[B] ③　[C] ②　[D] ①

設問解説

問1　下線部分を含む第1文（Since body language ... a gesture or expression.）が第3パラグラフの主題文。続く第2文が **For instance**（例えば）で始まって

いることに注目する。For instance は，for example と同様，**具体例を導入するための道しるべ語**である（⇒Key 11）。この第２文と続く第３文では，smiling（ほほ笑むこと）という表情が表す意味の違いを述べており，これが１つ目の具体例となる。さらに，続く第４文では，２つ目の具体例として Shaking one's head（首を横に振ること）という身振りが表す意味の違いを説明している。これらの２つの例のうち，いずれか１つを答えればよい。

問２ ［A］第３文後半の ..., it's clearly **important** to be aware of our body language. に着目する。これが筆者の主張を述べた主題文である。**important** はしばしば主題文で用いられる（⇒Key 03 ②）。この第１パラグラフは，主題文がパラグラフの中間に来る例である（Key 01 ②）。

［B］問１で見たように，第２文が **For instance**（例えば）で始まっている点に着目する。具体例を挙げている文の直前には，主題文が置かれていることが多い（⇒Key 05）。ここでも第１文（Since body language ... a gesture or expression.）が主題文である。この第３パラグラフは，主題文が冒頭に来る例である（⇒Key 01 ①）。

［C］第２文（The simple act of ... from culture to culture.）に例示を表す for example が含まれていることに着目する。この直前の第１文（Culture has ... non-verbal expression.）が主題文である。この第４パラグラフでも，主題文が冒頭に来ている（⇒Key 01 ①）。

［D］最終文（Being knowledgeable about ... understanding and avoiding miscommunication.）がパラグラフ全体の内容を要約していると同時に，body language（身体言語）の重要性を再度強調することによって，この英文全体の総括ともなっている。したがって，この第５パラグラフでは，最後の文が主題文である（⇒Key 01 ③）。

語　句

l. 3 **as much as 70 percent**「70％も」 この as much as ～ は量の多さを強調する。*Ex.* I paid *as much as* 200 dollars for the shirt.（そのシャツに200ドルも支払った）

l. 13 By ..., we show we're sad, **while** a straight posture displays confidence.「…することによって私たちは悲しみを表し，その一方でまっすぐな姿勢は自信を表す」 接続詞の while は，「…である一方で～」のように，２つの事柄を対比させながら述べるときによく使われる（⇒Key 12・Key 13）。

l. 15 **differs greatly from place to place**「場所によって大いに異なる」 differ from *A* to *A* は，「A によって異なる」という意味。類例として，第４パラグ

ラフ第2文中の varying in meaning from culture to culture（文化によって意味が異なる）がある。

l. 34 **lose a case**「敗訴する」 この case は「訴訟」という意味。

l. 36 ***A* as well as *B***「B と同様に A も，B だけでなく A も」 2つの事柄を列挙する表現で，内容上の力点は A に置かれるのがふつう。本文では，ダッシュ（—）直前の the body language of friends, clients, and colleagues が A に，また your own unspoken messages が B に相当する。

l. 37 **go a long way**「大いに役立つ」

文構造に注目

ll. 3-5 付帯状況を表す〈with + O + *do*ing（現在分詞）〉

With as much as 70 percent of what we say coming from ...,
前置詞　前置詞の O　現在分詞
「私たちが言うことの70%もがこの種の非言語コミュニケーションによってもたらされるので」

it's clearly important to be aware of our body language.
〈It is ～ to ...〉：形式主語構文

POINT 〈with + O + *do*ing（現在分詞）〉で「O が～するので」という付帯状況を表す構文で，〈O + *do*ing〉が〈S + V〉の能動関係になっている。ここでは，数量表現を含む as much as 70 percent of what we say 全体が前置詞 with の目的語。なお，with を取り除けば，独立分詞構文となる。*ll. 10-11* の ... **with** more than 90 muscles **working** to ...（90以上の筋肉が…するために働いて）も同じ形である。*Ex.* I can't sing a song *with you standing* there.（君がそこに立っていては私は歌が歌えない）

ll. 23-25 同格（～という）を表す of /〈V + O +前置詞+ the +身体の一部〉

The simple act of looking someone in the eye, for example,
同格「～という」〈V+O +前置詞+the+身体の一部〉 挿入句（例示）
これ全体が文の S

is not at all that straightforward,
V 強い否定「それほど」 C

varying in meaning from culture to culture.
分詞構文

POINT 1 〈*A*（名詞）+ of + *B*（*do*ing）〉（B という A）で，of は同格の働き。of 直後の *do*ing（動名詞）が A の内容を具体的に説明している。ここでは，B の位置に looking someone in the eye（人の目を見る）が来ており，これ

は〈V + O + 前置詞 + the + 身体の一部〉の構文である。*Ex.* I *caught him by the arm.*（私は彼の腕をつかんだ）

POINT 2 varying in meaning from culture to culture の部分は現在分詞を使った分詞構文。この場合，varying 以下は直前の not at all that straightforward（決してそれほど単純ではない）を具体的に言い換えていると考えることができる。from culture to culture については，【語句】を参照。

全　訳

1 言葉は私たちが物事を語る唯一の手段ではない。会話の最中に身を乗り出したり，目を細めたり，腕を組んだりすることによっても，私たちは気持ちを伝える。私たちが言うことの70%もがこの種の非言語コミュニケーションによってもたらされるので，自分たちの身体言語を自覚することはあきらかに大切なことである。それは，異文化の人と接するときにとりわけあてはまる。ボルティモアでのほほ笑みは，北京でのほほ笑みとは同じことを意味しないかもしれないからである。

2 身体言語にはいくつかの種類がある。身振りに関しては，気分を表したり，質問したり，情報を共有したりするために，腕や手を使う。顔はきわめて表現力豊かで，90以上の筋肉が働いて驚き，幸せ，怒りなどのメッセージを伝える。動作によるコミュニケーションもあり，それは体の姿勢のことである。前かがみの姿勢で歩くことによって悲しみを表し，その一方でまっすぐな姿勢は自信を表す。

3 身体言語は，場所によって大いに異なるので，外国出身の人が身振りや表情によって意味することを誤解しやすい。例えば，ほほ笑むことは，北米では幸せや親しみを表す。しかし，東アジアでは不快感や困惑のしるしになることがある。首を横に振ることは，英国では，「いいえ」を意味するが，ブルガリアではそれとは反対の意味を伝える。さらに，挨拶から握手に至るまで，日常の多くの動作は世界中でその仕方が異なる。

4 文化は非言語表現に強い影響力を持つ。例えば，人の目を見るという単純な行為は，決してそれほど単純ではなく，文化によって意味が異なる。米国では，他人と話をするときは，相手をまともに見つめることが推奨されている。それは相手が言っていることへの関心を示し，誠実さの気持ちを伝えると考えられている。しかしながら，日本や朝鮮では，長く視線を合わせることは避ける。会話中は脇を見ることがより礼儀正しいと見なされている。

5 身体言語は意識下のものなので，人々は自分が相手に送っているメッセージに気がつかない傾向にある。そのため，異文化出身の人に対処する前に，自分

自身の身体言語を熟慮しておこう。誤解が原因で，友人を怒らせたり，敗訴したりすることは，最もしたくないことだ。自分自身の暗黙のメッセージ（身体言語）と同様に，友人や顧客や同僚の身体言語も熟知していることは，理解を深め，誤解を避けるのに大いに役立つのである。

演習問題 02

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1 テーマの導入＋提示

第1文	テーマの導入	人間が自分たちの生活をより良くするためにする行為はたくさんある。（❶ There are many **things that human beings do** to make our lives better. ＊下線部分を以下の❷～❹で例示。）
第2～5文	例示（❷～❹）＋例示の総括（❺）	❷ **For example**, most people consider **activities such as sports or studying** to be valuable because they produce good results. ❸ Doing sports gives us a chance to ... . ❹ **As for** intellectual pursuits, it is hard to deny that ... . ❺ **While** there are many **important activities** such as these, I believe that none of them is superior to **music**. ＊❷の activities（活動）は❶の things that human beings do（人間が行うこと）を名詞1語で言い換えた表現。❷の sports は❸と，studying は❹と対応。＊❺の these および them は❸・❹で触れた人間の活動すべてを指す。
第6文	パラグラフ全体のテーマの提示	音楽は協力をもたらし，様々な参加の仕方を提供し，人々に個人の選択の機会を与えてくれる。（❻ Music leads to **cooperation**, offers different modes of **participation**, and provides people with opportunities for individual **choice**.）

2 本論(1)：音楽活動のもつ重要な側面①

第1文	主題文	音楽活動の1つの重要な側面は，それが競争より協力に焦点を合わせていることである。（❶ One important aspect of **musical activities** is that they focus more on **cooperation** than **competition**. ＊ cooperation（協力）と competition（競争）を比較・対比。）
第2～4文	支持文	❷ In a musical group, the members are not trying to do something better than each other. ❸ **Rather**, they

	（主題文の説明）	are trying to **work together** to create something beautiful. ＊work together（協力し合う）は❶の cooperation（協力）を動詞に言い換えた表現。 ❹音楽の分野による違い（In a classical orchestra, ... **while** rock musicians ～ .）
第５文	主題文の再提示	しかしながら，どちらの場合も参加者のすべてがお互いを信頼し合い，全員がうまく演奏できる結果を目指して取り組む。（❺ **In either case**, **however**, all of the participants rely on each other and **work towards an outcome where all can be successful**. ＊in either case は❹の２つの音楽分野の両方を指す。work towards an outcome where all can be successful（全員がうまく演奏できる結果を目指して取り組む）は❶の cooperation（協力）の動詞化表現。）

3 本論(2)：音楽活動のもつ重要な側面②

第１文	主題文	音楽のもう１つの優れた点は，誰もが多くの様々な仕方でそれに関わることができるということである。（❶ **Another** good thing in **music** is that one can become involved with it in many different ways.）
第２～６文	支持文（主題文の説明）	音楽を演奏するために，プロの音楽家になる必要はない。（❷ One need not become a professional musician in order to **play music**.） 音楽を体験するために何らかの音楽家になる必要はない。（❹ ... one needn't become any sort of musician in order to **experience music**.）

4 本論(3)：音楽活動のもつ重要な側面③

第１文	主題文	最後に，音楽は私たちに自分自身の決定を下すように誘ってくれる。（❶ **Finally**, **music** invites us to **make our own decisions**.）
第２～７文	支持文（主題文の説明）	音楽は決して唯一の正しい答えに私たちを束縛しない。（❷ music **never limits us to only one correct answer**） ❸・❹：演奏者に許される選択――演奏者の数だけ様々

		な作品の演奏の仕方がある。(There are as **many different ways to perform** a piece as there are musicians.) ❺・❻：聴き手に許される選択――音楽の聴き手にとっても，大幅な自由がある。(For the music listener, **as well**, there is a great deal of **freedom**.) ❼：総括――こうした選択はしばしば，人々が自分をどのような人間だと見ているか，何を考えているか，あるいは，自分にとって人生がどう感じられるかを端的に表現したものである。(❼ These choices are often direct expressions of who people see themselves to be, what they think, or how life feels to them. ＊ These choices は❸～❻で述べられている演奏者，聴き手の双方に許されている自由な選択を指す。)
第8文	主題文の補強	音楽以上に，それを通じて個性が明確に表現される方法を思いつくのは困難である。(❽ It is hard to think of a way in which **individuality** is expressed more clearly than it is through **music**.)

解　答

問1　(A) ④　(B) ③

問2　[1] 解釈に基づいて演奏する（11字）
　　[2] 自分の個性を表現する（10字）

問3　A. F　B. F　C. T　D. T　E. T

設問解説

問1　(A) 空所(A)を含む第2パラグラフ第1文は，このパラグラフの主題文であり，音楽の特長の1つを述べている。空所前後の they (= musical activities) focus more on (A) than competition（それら（＝音楽活動）は競争より（ A ）に焦点を合わせている）という形から，空所には competition（競争）と反対の概念を表す名詞が入ると考えられる。第3文以降で，音楽の集団に所属するメンバーが様々な形で協力し合う様子が列挙されており，特に第3文（Rather, they are trying to work together to

create something beautiful.）の work together（協力し合う）が手がかりとなる。空所には「協力，協調」を表す名詞が入るので，正解は④の cooperation。この cooperation は，第１パラグラフの主題文である最終文の中に Music leads to cooperation（音楽は協力をもたらす）という形で，すでに使われている。

(B) 空所（B）を含む冒頭文は第３パラグラフの主題文であり，音楽のもう１つの特長を述べた文である。第２文以降で，音楽に参加する様々な方法が列挙されているので，正解は③の different。in many different ways で，「多くの様々な仕方で」という意味になる。

問２ 下線部の to make our own decisions は「自分自身の決定を下す」という意味。まず演奏者について述べているのは，第４パラグラフ第３～４文。第４文に ... welcomes different interpretations of the same piece（同じ作品の異なる解釈を歓迎する）とあるので，設問文の形に当てはめて言い換えると，「作品を演奏者自身の解釈に基づいて演奏する」となる。次に聴き手について述べているのは，第５文～最終文。空所前後に該当するのは，最終文の individuality is expressed（個性が表現される）という部分。この individuality は「聴き手の個性」のことである。

問３ A. 訳「知的探求は音楽活動より重要である」 第１パラグラフ第５文後半の I believe that none of them is superior to music（それらのどれも音楽には及ばないと私は信じる）に矛盾する。

B. 訳「協力し合う度合いはロック音楽よりクラシック音楽のほうが大きい」 第２パラグラフ第５文に In either case, ... all of the participants rely on each other and work towards an outcome where all can be successful.（どちらの場合も参加者のすべてがお互いを信頼し合い，全員がうまく演奏できる結果を目指して取り組む）とある内容と矛盾する。In either case は，「オーケストラの場合もロックの場合も」という意味。

C. 訳「私たちは聴くことで音楽に参加することができる」 第３パラグラフ第５文の Anyone who has the ability to hear can enjoy the positive effects of music by simply listening.（耳が聞こえる人なら誰でも，ただ聴くだけで音楽の好ましい効果を楽しむことができる）に一致する。

D. 訳「音楽を演奏するためにプロの音楽家になる必要はない」 第３パラグラフ第２文の One need not become a professional musician in order to play music.（音楽を演奏するために，プロの音楽家になる必要はない）に一致する。本文の need not *do* が選択肢では doesn't have to *do* に，また in order to *do* が so as to *do* に言い換えられている。

E. 訳「聴く音楽を選ぶことはしばしば自己表現の１つの形式になる」 第４パラグラフ最終文の It is hard to think of a way in which individuality is expressed more clearly than it is through music.（音楽以上に，それを通じて個性が明確に表現される方法を思いつくのは困難である）に一致する。

語　句

l. 5　**as for** ～「～について，～に関して」

l. 9　**lead to** ～「～をもたらす，～を引き起こす」

l. 10　**provide** *A* **with** *B*「A に B を与える，A に B を提供する」

l. 36　～ **as well**「～もまた」 追加を表す道しるべ語の１つ（⇒Key 09）。

文構造に注目

ll. 8-9　譲歩を表す接続詞 while

While there are many important activities such as these,
接続詞　〈there are ～〉構文

I believe that none of them is superior to music.
S　V　　S'　V'　C'
O（= that 節）

POINT　この **while** は「～する間に」ではなく，「～だけれども」という譲歩の意味を表す。*Ex. While* I like the color of the bag, I don't like its shape.（そのバッグの色は好きだけれども，形は好きではない）

全　訳

1　人間が自分たちの生活をより良くするためにする行為はたくさんある。例えば，たいていの人はスポーツや学問のような活動は良い成果を生むので価値あるものと考える。スポーツをすることは，運動を通して健康を改善する機会を与え，また友情を育む助けになることもある。知的探求については，私たちの１人１人があらゆる種類の問題の解決策を見いだすために，周囲の世界に関する理解を深めたり，頭脳を駆使する能力を伸ばしたりする必要があることは否定し難い。このような多くの重要な活動があるわけだが，それらのどれも音楽には及ばないと私は信じる。音楽は協力をもたらし，様々な参加の仕方を提供し，人々に個人の選択の機会を与えてくれる。

2　音楽活動の１つの重要な側面は，それが競争より協力に焦点を合わせていることである。音楽の集団の中では，メンバーはお互いに相手より何かをうまくやろうなどとはしない。むしろ，彼らは美しいものを創造するために協力し合う

ことに努めている。クラシック音楽のオーケストラでは，個々のパートのすべてが必ずぴったりと合うようにするのは主に指揮者の仕事である。一方，ロックミュージシャンたちは，必ず音が合うようにお互いの音を聴き取らなければならない。しかしながら，どちらの場合も参加者のすべてがお互いを信頼し合い，全員がうまく演奏できる結果を目指して取り組む。

3 音楽のもう１つの優れた点は，誰もが多くの様々な仕方でそれに関わることができるということである。音楽を演奏するために，プロの音楽家になる必要はない。地域の音楽グループで演奏することで満足している人もいれば，ギターで数曲の歌を弾けるだけで喜びを見いだす人もいるかもしれない。そして，もちろん，音楽を体験するために何らかの音楽家になる必要はない。耳が聞こえる人なら誰でも，ただ聴くだけで音楽の好ましい効果を楽しむことができる。音楽には人をリラックスさせたり，気持ちを鼓舞したりする力がある。

4 最後に，音楽は私たちに自分自身の決定を下すように誘ってくれる。数学のような学問的な科目と違って，音楽は決して唯一の正しい答えに私たちを束縛しない。演奏者の数だけ多くの様々な作品の演奏の仕方がある。表現の自由度は音楽のタイプによるかもしれないが，クラシックのような比較的保守的なタイプの音楽でさえも，同じ作品の異なる解釈を歓迎している。音楽の聴き手にとっても，大幅な自由がある。聴き手はそれぞれ，自分にとって最も興味深いグループや演奏家や作曲家を選ぶことができる。こうした選択はしばしば，人々が自分をどのような人間だと見ているか，何を考えているか，あるいは，自分にとって人生がどう感じられるかを端的に表現したものである。音楽以上に，それを通じて個性が明確に表現される方法を思いつくのは困難である。

演習問題 03

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1 テーマの導入＋提示

第1～3文	テーマの導入＋主題文①	問題提起：科学とは正確には何か？（❶ What exactly is **science**?） ↓ 科学とは観察と研究を通して得られる知識である。（❸ It (=Science) is **knowledge** gained through observation and study.）
第4文	主題文②	科学的方法＝知識を得るために法則と体系を利用すること（❹ The **scientific method** is the use of rules and systems for gaining **knowledge**.）
第5～8文	支持文	科学的方法（scientific method）を構成する3つの部分 第1の部分（❻）：問題を認識し，それを理解すること（recognizing and understanding problems） 第2の部分（❼）：観察と実験を通して情報を収集すること（collecting information through observation and experiment） 第3の部分（❽）：理論を発展させてそれを検証すること（developing and testing theories）

2 科学的方法の実践例

第1～6文	第1パラグラフの例証	現象を観察し（❶ observe），理論を発展させる（develop a **theory**）→実験によって検証する（❸ test that **theory** by using **experiments**）→理論を証明できると，それは事実となる（❺ If the scientists can prove their **theory**, it becomes a **fact**.） ＊第1パラグラフ❺～❽で述べた「科学的方法を構成する3つの部分」を For example, ... で具体的に説明している。

3 本論(1)：科学と宗教①

第1～3文	導入（❶・❷）	科学は答えを提供できるというこの考えは，しばしば科学を宗教との対立に追い込む。（❸This idea — that **science**

	＋ 主題文(❸)	can provide the answers — often brings **science** into conflict with **religion**.)
第4～6文	支持文	科学と宗教はどちらも宇宙や自然や私たち自身の謎を説明しようと努める。(❻ ... **science** and **religion** both seek to explain the **mysteries** of the universe, of nature, and of ourselves.)

4 本論(2)：科学と宗教②

第1～7文	時系列的展開（古代→中世以降）	年月とともに人間の知識が拡大→多くの信念は科学的に説明され，宗教の教えが誤りであるとわかった。(❹ As years passed and **human knowledge** expanded, many beliefs came to be explained **scientifically**. ❺ Sometimes, solving the **mysteries** by **scientific study** showed that **religious teachings** were wrong.)

5 本論(3)：科学と宗教③

第1～3文	列挙	科学と宗教の問題に対する様々な考え方 (1) 自分の信仰と対立する科学的概念を拒否する人々 (❶ **Some** people reject scientific ideas ... .) (2) 自分の科学的概念と対立する信仰を拒否する人々 (❷ **Some** reject religious beliefs ... .) (3) 航空宇宙技師のウィルトン・ロバート・アボットに同意する人々：「もっぱら科学だけに基づいた理解，あるいはもっぱら宗教だけに基づいた理解が正しいと信じるのは不可能である」(❸ **And some** would agree with Wilton Robert Abbott, ...)

6 結論

第1～3文	結論	20世紀で最も偉大な科学者アルバート・アインシュタインの言葉：宗教的な体験は科学の研究の背後にある最も強く，最も立派な原動力である。(❸ Einstein once said that **religious experience** is the strongest and the most honorable force behind **scientific research**.)

解 答

問1 ［A］問題を認識し，理解すること（13字）
［B］理論を発展させて検証すること（14字）

問2 theory（理論）とは，ある事象についての可能性のある説明のことである。

問3 科学は答えを提供できるというこの考えは，しばしば科学を宗教との対立に追い込む。
〔別解〕科学は答えを提供できるというこの考えによって，しばしば科学は宗教と対立することになる。

問4 科学的研究により謎を解くことによって，宗教の教えが誤りであるとわかったこと。

問5 宗教的な体験は科学の研究の背後にある最も強く，最も立派な原動力である（34字）

設問解説

問1 第1パラグラフの第6～8文それぞれの冒頭部（The first part... / The second ... / The third part ...）に注目する。これらは，いずれも列挙の道しるべ語である（⇒Key 08 ・ Key 09 ）。

［A］**The first part** is recognizing and understanding problems.（第1の部分は，問題を認識し，理解することである）を参照。problems が動名詞 recognizing と understanding の共通の目的語になっていることに注意。

［B］**The third part** is developing and testing theories.（第3の部分は，理論を発展させて検証することである）を参照する。この文でも，theories が動名詞 developing と testing の共通の目的語になっている。

問2 theory の定義は，第2パラグラフの第2文（A theory is a possible explanation for an event.）で述べている。

問3 この文の基本構造は，次ページに図解で示したように，This idea ... brings science into conflict with religion. という S + V + O + M であるが，主語の This idea の直後に that 節が挿入されている。この挿入語句以外の部分だけを直訳すれば，「この考えは科学を宗教との対立に追い込む」となる。bring *A* into *B* で「A を B の状態に追い込む」という意味。この that は，直前の idea の具体的内容を述べる同格（～という）の接続詞。したがって，ダッシュ（—）の前後は，「科学は答えを提供できるというこの考え」のように訳す。なお，この文は無生物主語構文なので，主語の This idea を副詞のよ

うに，また目的語の science を主語のように訳して，「～というこの考えによって，しばしば科学は宗教と対立することになる」としてもよい。

This idea — that science can provide the answers —
S　　S'　V'　O'
挿入語句（S と同格の関係にある that 節）

often brings science into conflict with religion.
　　V　　O　　M　　M

問４　下線部(3)の This は，直前の文全体（solving the mysteries ... teachings were wrong）の内容を指す（⇒Key 26 ②）。この文は動名詞を主語とする無生物主語の文なので，主語 solving the mysteries by scientific study を「～を解くことによって」のように副詞的に訳し，さらに showed that ... の部分を「…ということがわかった」のように訳すと，自然な日本語となる。

問５　最終パラグラフ第２文（He had no problem mixing science and religion.）に関する設問。科学と宗教の関係についてのアインシュタインの見解は，この後に続く最終文の that 節の中に religious experience is ... behind scientific research と述べられているので，この内容を答える。２つの形容詞の最上級（the strongest と the most honorable）が同じ名詞 force を修飾していることに注意。

語　句

l. 10　**possible explanation**「可能性のある説明」

l. 22　**many, many things**「極めて多くの事柄」　many を繰り返すことによって，「多さ」を強調している。

l. 35　**place**「立場」。

文構造に注目

ll. 36-37　〈V + O（it =形式目的語）+ C + to *do*〉／過去分詞（名詞後置）

I　find　it　impossible
S　V　O（=形式目的語）C（形容詞）

⇩

to believe　that an understanding based entirely on science or
〈to +動詞の原形〉　S'1　過去分詞句

one based entirely on religion　can be　correct.
S'2　過去分詞句　V'（助動詞 + be 動詞）　C'

形式目的語 it の指す内容（=真の目的語）

POINT 1 この文の骨組みは I find it impossible to believe that ... で，〈**V＋O**（**it**＝形式目的語）＋ **C** ＋ **to *do***〉という構造。it は後方の不定詞 to believe 以下を受ける形式目的語。この it は「それを」とは訳さない。

POINT 2 believe の目的語である that 節の主語は an understanding と one の２つ。２つ目の主語である one は，直前に出てきた「１つのもの」を表す代名詞で，ここでは one = an understanding。これら２つの主語は，直後の過去分詞 based によって修飾されている（過去分詞の名詞後置）。based on ～ は「～に基づいた」という意味。

全　訳

1 科学とは正確には何だろう。最も簡単な定義は，科学は知識だというものである。それは観察と研究を通して得られる知識である。科学的方法とは，知識を得るために法則と体系を利用することである。科学的方法は３つの部分から成っている。第１の部分は，問題を認識し，それを理解することである。第２の部分は，観察と実験を通して情報を収集することである。第３の部分は，理論を発展させてそれを検証することである。

2 例えば，科学者はある現象が発生しているのを観察すると，それがどのようにして生じ，それが何が原因で生じるのかについて理論を発展させようと努める。理論とは，ある事象についての可能性のある説明のことである。次に，科学者は実験をすることによって，その理論を検証する。彼らは自分の説明が正しいことを証明しようと願う。自分の理論を証明できたら，それは事実となる。事実とは，真実だと知られていること，あるいは真実だと証明されたことである。

3 科学者はほかの研究者と似ている。科学者は，事象を説明するために可能な限り多くの証拠を集めようと努める。科学は答えを提供できるというこの考えは，しばしば科学を宗教との対立に追い込む。人々は，科学は知識を得る過程であり，宗教は信仰の体系であると考えることによって，この２つを区別するかもしれない。科学を宗教のように信じている人たちがいる。しかし，科学と宗教はどちらも宇宙や自然や私たち自身の謎を説明しようと努める。

4 古代には，世界の極めて多くの事柄が人々にとって大きな謎であった。古代の人々はこれらのことを神々のなせる業としか説明できなかった。これらの説明は宗教的信念の一部となった。年月が経ち，人間の知識が拡大するにつれ，多くの信念は科学的に説明されるようになった。時には，科学的研究によりそうした謎を解くことによって，宗教の教えが誤りであることがわかった。このことはしばしば，宗教界の指導者たちを怒らせた。その１つの例は，地球が宇宙の中心ではないという考えに対するローマカトリック教会の反応である。

5　自分の信仰と対立する科学的概念を拒否する人もいれば，自分の科学的概念と対立する信仰を拒否する人もいる。また，航空宇宙技師のウィルトン・ロバート・アボットに同意する人もいるだろう。彼は「宇宙における人類の立場を理解することは，複雑な問題を解くことである。したがって，もっぱら科学だけに基づいた理解，あるいはもっぱら宗教だけに基づいた理解が正しいと信じるのは不可能だと思う」と語ったとされる。

6　20世紀で最も偉大な科学者は，おそらくアルバート・アインシュタインであろう。彼にとっては，科学と宗教を一緒くたにしても何ら問題はなかった。アインシュタインはかつて，宗教的な体験は科学の研究の背後にある最も強く，最も立派な原動力であると語った。

演習問題 04

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1	1回目のテスト	ドウェックらが行った1回目のテスト ◎テストの手順：400人の11歳児を選び，「一連の簡単なパズル」（a series of simple puzzles）を解かせる。 →テスト終了後，子供たちにはテストの点数と「6語のほめ言葉」（six words of **praise**）が与えられた。 「頭の良さ」（**intelligence**）をほめられた子供と「努力」（**effort**）をほめられた子供が半数ずついた。
2	2回目のテスト	2回目のテスト ◎難度の高いテストと難度の低いテストのどちらを受けるかを子供自身に選ばせた。 ・頭の良さをほめられた子供：3分の2は易しい課題を選んだ。→（理由）「頭がよい」というレッテルを失う危険を冒したくなかった。 ・努力をほめられた子供：90パーセントは難しいテストの方を選んだ。→（理由）困難な問題を追求することで，自分がどんなに努力家であるかを証明したかった。
3	3回目のテスト	難度が非常に高いテストを受けさせられた。 ◎テスト終了後の子供たちの反応に大きな違いが出た。 ・頭の良さをほめられた子供：自分の失敗を，自分はパズルがまったく得意ではない証拠だと解釈した。 ・努力をほめられた子供：はるかに長い時間テストに挑戦し続けたうえで，自信を失うことはまったくなかった。
4	4回目のテスト	1回目と同じ難度のテストを受けさせられた。 ◎テスト終了後の子供たちの反応に大きな違いが出た。 ・頭の良さをほめられた子供：1回目より成績が20パーセント下がった。 ・努力をほめられた子供：1回目より点数が30パーセント上がった。 →最初のテストの後で言われた6語の簡単な言葉が原因でこのような違いが生まれた。

5	さらなる検証テスト	国内の様々な地域に住み，またその民族的背景も大いに異なる生徒たちを対象にして３回繰り返し実施。 →３回とも結果は同じ。 ドウェックの結論：子供の頭の良さをほめると，彼らのやる気をそぎ，成績を悪くしてしまう（**Praising children's intelligence** harms their **motivation**, and it harms their **performance**.）

解答

問１　・**You must be smart at this!**
・**You must have worked really hard!**

問２　頭の良さをほめられた生徒たちの成績が，最初のテストより20パーセント下がったこと。(40字)

問３　A. 2　B. 1　C. 1　D. 1

問４　A. F　B. T　C. T　D. F

設問解説

問１　第１パラグラフ第３文，および第４文のコロン（：）の後に続くほめ言葉を答える。

問２　下線部は「それは彼らの成績を悪くする」という意味。代名詞 it は，前節の Praising children's intelligence（子供たちの頭の良さをほめること）を指す。第４パラグラフ第３文の前半に，The group praised for intelligence showed a 20 per cent decline in performance compared with the first test（頭の良さをほめられたグループは，最初のテストに比べて成績が20パーセント下がってしまった）とある。

問３　A. 第２パラグラフ第２文前半に，Two-thirds of the students praised for intelligence chose the easy task（頭の良さをほめられた生徒の３分の２は易しい課題を選んだ）とある。

B. 第２パラグラフ第３文後半に，they were not interested in success, but in exploring a potentially fruitful challenge（彼らは成功には興味がなく，成果を得られる可能性のある困難な問題を追求することに興味があった）とある。they は，前節の the effort-praised group（努力をほめられたグループ）を指す。

C. 第３パラグラフ最終文最後の ... and did not suffer any loss in confidence（そして自信を失うことはまったくなかった）に着目。

D. 第４パラグラフ第４文の前半に the effort-praised group increased their score by 30 per cent（努力をほめられたグループは点数が30パーセント上がった）とある。

問４ A. 第２パラグラフ第２文後半部の they did not want to risk losing their 'smart' label by potentially failing at the harder test.（彼らは，失敗する可能性がある難しい方のテストを受けることによって，「頭が良い」というレッテルを失う危険を冒したくなかったのである）と矛盾する。

B. 第３パラグラフ第２文 But once again, there was a dramatic difference between the ways they responded to failure.（しかし，またしても，失敗に対する生徒たちの反応の仕方には劇的な違いがあった）に合致する。これに続く第３文と第４文は，その「劇的な違い」を具体的に説明した文である。

C. 第４パラグラフ最終文の And all of these differences turned on the differences in six simple words spoken after the very first test.（そして，こうした違いが起きた原因はすべて，最初のテストの後で言われた６語の簡単な言葉にあったのである）に着目する。all of these differences とは，頭の良さをほめられた生徒と努力をほめられた生徒の間に見られる，やる気と成績の違いのことである。

D. 第５パラグラフ最終文で，ドウェックが Praising children's intelligence harms their motivation, and it harms their performance.（子供の頭の良さをほめると，彼らのやる気をそぎ，成績を悪くする）と述べている内容と矛盾。

語　句

l. 8 **two-thirds**「３分の２」「３分の１」は one-third。

l. 12 **a potentially fruitful challenge**「成果を得られる可能性のある困難な問題」challenge は，「（能力や努力を試すような）困難な問題」の意。

l. 16 **those praised for intelligence**「頭の良さをほめられた生徒たち」 praised は過去分詞（名詞後置）。関係代名詞の who を用いて書き換えると，the students who were praised for intelligence となる。

l. 17 **they were no good at puzzles at all**「パズルがまったく得意ではない」 この文は，〈be + no +形容詞［名詞］+ at all〉の構文で，「まったく～ではない」という意味を表す。強い否定の表現で，「むしろその逆だ」の意味を持つ。*Ex.* He is *no* genius at all.（彼はまったく天才などではない（それどころか愚か者だ））

文構造に注目

ll. 21-23 〈no ＋比較級＋ than ～〉

The group praised for intelligence showed a 20 per cent decline in performance
S 過去分詞（名詞後置） V O

compared with the first test, even though it was no harder.
過去分詞を用いた分詞構文 接続詞 S' V' C'〈no ＋比較級〉

POINT 文末の it (= the final test) was no harder は「それ（＝最後のテスト）は（最初のテストと）同じくらい易しかった」という意味。比較級 harder の後に than the first test が省略されている。〈no ＋比較級＋ than ～〉の構文は，〈as ＋反意語の原級＋ as ～〉と書き換えるとわかりやすい。この場合は，harder の原級の反意語が easy なので，it was as easy as the first test（それは最初のテストと同じくらい易しかった）と書き換えることができる。 *Ex.* He is *no* richer *than* before. ＝ He is *as* poor *as* before.（彼は以前と同じように貧乏だ）

全　訳

1 1998年，キャロル・ドウェックと同僚は，400人の11歳児を選び，一連の簡単なパズルを解かせた。その後で，生徒の１人１人には自分の点数と一緒に何か別のもの――６語のほめ言葉――が与えられた。生徒の半数は，「君はこれが上手に違いないね！」と，頭の良さをほめられた。別の半数の生徒は，「君は本当によく頑張ったに違いないね！」と努力をほめられた。

2 最初のテストの後で，生徒たちは，難しいテストを受けるか易しいテストを受けるかどうかについて選択肢が与えられた。頭の良さをほめられた生徒の３分の２は易しい課題を選んだ。彼らは，失敗する可能性がある難しい方のテストを受けることによって，「頭が良い」というレッテルを失う危険を冒したくなかったのである。しかし，努力をほめられたグループの90パーセントは，難しいテストを選んだ。彼らは成功には興味がなく，成果を得られる可能性のある困難な問題を追求することに興味があったのである。自分がどんなに努力家であるかを証明したかったのである。

3 次に，生徒たちは，とても難しいので誰にもうまく解けないテストを受けさせられた。しかし，またしても，失敗に対する生徒たちの反応の仕方には劇的な違いがあった。頭の良さをほめられた生徒たちは，自分の失敗を，自分はパズルがまったく得意ではない証拠だと解釈した。努力をほめられたグループは，はるかに長い時間テストに挑戦し続け，はるかにそれを楽しんだうえ，自信を失うことはまったくなかった。

4　最後に，生徒たちはまさに最初と同じ難度のテストを受けさせられた。何が起こっただろうか。頭の良さをほめられたグループは，難度に違いはなかったのに，最初のテストに比べて成績が20パーセント下がってしまった。しかし，努力をほめられたグループは，点数が30パーセント上がった。失敗したことがかえって彼らをやる気にさせたのである。そして，こうした違いが起きた原因はすべて，最初のテストの後で言われた６語の簡単な言葉にあったのである。

5　ドウェックと彼女の同僚の研究者は，これらの結果に大いに驚いたので，その実験を国内の様々な地域に住み，またその民族的背景も大いに異なる生徒たちを対象にして３回繰り返し実施した。３回すべての場合において，結果は同じであった。「これは私が今までに目にした中で最も明快な発見でした。子供の頭の良さをほめると，彼らのやる気をそぎ，成績を悪くしてしまうのです」とドウェックは語った。

演習問題 05

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1 テーマの導入＋提示

第1～2文	テーマの導入	発展途上国における急速な人口増加は，高い出生率の結果である。(❶ The rapid population growth in less-developed countries is a result of **high birth rates**.)
第3～4文	問題提起＋答え	どうして発展途上国の女性たちは大家族を持つのか？→多くの場合，彼女たちには選択の余地がないからだろう。(❸ Why do they have such **large families** ...? → ❹The answer may often be that they have no choice.)
第5文	主題文（文章全体の主張）	多くの要因により，女性たちが家族の大きさを制限するのは困難である。(❺ Many factors make it difficult for women to limit **the size of their families**.)

2 本論(1)：女性たちが家族の大きさを制限できない要因①

第1文	主題文	要因①：経済（economics） 経済が明らかに重要な役割を果たしている。(❶ **Economics** undoubtedly plays an important role.)
第2～7文	支持文	貧しい国々では，経済的に生き残るためには大家族が必要。(❷ In poor countries, **a large family** is necessary for **economic survival**.) 子供が多いことの意味を，貧しい国の場合（❸・❹）と先進工業国の場合（❺～❼）とで対比。

3 本論(2)：女性たちが家族の大きさを制限できない要因②

第1～4文	導入（❶～❸）＋主題文（❹）	要因②：女性の置かれている状況（**the condition of women**） 高い出生率は，ほとんどの場合，女性の教育の欠如と低い地位と関係がある。(❹ **A high birth rate** almost always goes together with lack of education and low status for women.)

4 本論(3)：女性たちが家族の大きさを制限できない要因③

第1～4文	主題文(❶)＋支持文(❷～❹)	要因③：産児制限（避妊）ができるかどうか。（❶ **Another** key factor in the **birth rate** is the availability of **birth control**.）

5 本論(4)：女性たちが家族の大きさを制限できない要因④

第1～5文	主題文(❶)＋支持文(❷～❺)	要因④：乳児死亡率（infant mortality）（❶ **Yet another** factor to influence **birth rate** is **infant mortality**.）

6 結論

第1～3文	主題文(❶・❷)＋支持文(❸)	人口増加を抑えるのに有効なプログラムは、女性と彼女たちのニーズに目標を定めたものでなければならない。（❶ an effective program to reduce **population growth** must work in many areas. ❷ But **above all** it must be aimed at women and their needs.）

解答

(A) 経済　(B) 働き手　(C) 教育　(D) 地位
(E) 産児制限　(F) 出生率　(G) 乳児死亡率　(H) 人口増加

設問解説

(A) 第2パラグラフ第1文 Economics undoubtedly plays an important role.（経済が明らかに重要な役割を果たしている）を参照。この文は，パラグラフの要旨を述べた主題文である。

(B) 第2パラグラフ第3文 More children mean more hands for work.（子供が多いほど，働き手が多いことを意味する）を参照。

(C)・(D) 第3パラグラフ最終文 A high birth rate almost always goes together with lack of education and low status for women.（高い出生率は，ほとんどの場合，女性の教育の欠如と低い地位と関係がある）に着目。lack of education and low status for women は，前文の the condition of women を具体的に言い換えたものである。

(E) 第4パラグラフ第1文 Another key factor in the birth rate is the availability of birth control.（出生率のもう1つ重要な要因は，産児制限（避妊）ができるかどうかである）に注目。この文は，パラグラフの要旨を述べた

主題文である。

(F)　第4パラグラフ第4文 Not surprisingly, Ireland has the highest birth rate in Europe.（当然のことながら，アイルランドは出生率がヨーロッパで最も高い）を参照。

(G)　第5パラグラフ第1文 Yet another factor to influence birth rate is infant mortality.（出生率に影響を与える，さらにもう1つの要因は，乳児死亡率である）を参照。この文は，パラグラフの要旨を述べた主題文である。

(H)　第6パラグラフ第2文 But above all it must be aimed at women and their needs.（しかし，何よりもまず，それが女性と彼女たちのニーズに目標を定めたものでなければならない）に着目。文中の it は，前文の an effective program to reduce population growth（人口増加を抑えるのに有効なプログラム）を指す（⇒Key 25 ④）。

語　句

l. 3　**when** ～「～にもかかわらず，～なのに」 though や although とほぼ同じ意味を持つ。

l. 15　**not necessarily**「必ずしもそうとは限らない」

l. 17　**go together with** ～「～と関係がある」

l. 20　**families**「(家族の親から見た) 子供たち」

l. 21　**not surprisingly**「当然のことながら」 Not surprisingly で文全体を修飾する副詞の働きをする。It is not surprising that ... で書き換え可能。

l. 23　**yet another** ～「さらにもう1つの～」 この yet は，「さらに」という意味。*Ex. yet* once more（さらにもう一度）

l. 29　**above all**「とりわけ，なによりもまず」

文構造に注目

l. 30　倒置文

Only then　does　it　have　any chance of success.
副詞句（時間）　助動詞　S　V　O

「その時初めて成功する機会がやって来る。」

POINT　only then は，「その時初めて」という意味の副詞句。この副詞句は，ふつう文頭には来ないが，ここでは強調のために文頭に置かれている。その結果，この後に続く〈S + V + O〉の語順に倒置（inversion）が起こり，it has ではなく，does it have（助動詞＋主語＋動詞の原形）という順番になっている。文全体をふつうの語順で書けば，It has any chance of success only then. となる。

なお，一般動詞の過去形を用いた文で同様の倒置が起きた場合は，助動詞に did を用いる。*Ex.* Only then *did* I understand what she really meant.（その時初めて私は彼女の真意がわかった）

全　訳

1　発展途上国における急速な人口増加は，高い出生率の結果である。これらの国々の女性たちは平均して多くの子供を産む。子供に食べさせることや世話が大変なはずなのに，どうして彼女たちはそんな大家族を持つのだろうか。それは，多くの場合，彼女たちには選択の余地がないからだろう。多くの要因により，女性たちが家族の大きさを制限するのは困難なのである。

2　経済が明らかに重要な役割を果たしている。貧しい国々では，経済的に生き残るためには大家族が必要なのである。子供が多いほど，働き手が多いことを意味する。子供はまた，年をとった親の面倒を見てくれる人を意味する。その一方で，先進工業国では，子供がいることで家族の収入が増えるというようなことはない。それどころか，子供がいればそれだけ費用がかかる。さらに，これらの国々では，親はふつう老後を子供に頼らない。

3　（経済以外にも）ほかの要因がかかわっている。これらの要因は，経済状態に関連しているかもしれないが，必ずしもそうとは限らない。人口専門家は今では，これらの要因で最も重要なのは女性の置かれている状況であると信じている。高い出生率は，ほとんどの場合，女性の教育の欠如と低い地位と関係がある。

4　出生率のもう１つ重要な要因は，産児制限（避妊）ができるかどうかである。女性は子供たちの数を制限したいのだが，そうする方法がない。例えば，アイルランドでは，産児制限は違法である。当然のことながら，アイルランドは出生率がヨーロッパで最も高い。

5　出生率に影響を与える，さらにもう１つの要因は，乳児死亡率である。（乳児死亡率とは生まれてから１年以内に死亡する乳児の割合である。）先進工業国では，乳児死亡率は約 1.5パーセントである。しかしながら，発展途上国ではそれは20パーセント以上になることがある。子供を失うことを恐れて，女性はより多くの子供を産むよう奨励されるのである。

6　したがって，人口増加を抑えるのに有効なプログラムは多くの分野で機能しなければならない。しかし，何よりもまず，それは女性と彼女たちのニーズに目標を定めたものでなければならない。その時初めて成功する機会がやって来る。

演習問題 06

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1 テーマの導入＋提示（書くことの効用①）

第1～5文	一般に信じられていることの検証	一般に信じられていること：人の心を激しく動揺させるような体験について友人に話すことは私たちの立ち直りを助ける。（❶ It is commonly believed that **talking** to a friend about very upsetting experiences ... .） ↓ しかし，研究はこの考え方を裏付けておらず，話すことに効果はないようだ。（❷ **However**, research does not support this view. ❸ It seems to have no effect.） ⇕ ◎書くことによって私たちが幸せになれる例① その一方で，痛ましい体験について書くことには良い効果がある。（❹ **On the other hand**, spending a few minutes each day **writing about such painful experiences** has been demonstrated to have a positive effect. ＊ On the other hand（その一方で）によって，❸の have no effect と❹の have a positive effect が対比されている。）
第6文	主題文	研究者たちの主張：書くことは自分の考えを整理したり，自分の体験を説明するために物語を作ったり，解決策を探したりするのに役立つので，話すことよりも良い。（❻ **writing** is better than **talking** because it helps us to organize our thoughts, to create a story to explain our experiences, and to look for solutions）

2 書くことの効用②

第1～2文	主題文	◎書くことによって私たちが幸せになれる例② 日常生活における良い物事，つまり，私たちが感謝している物事について書くこと。（❶ Other sorts of writing might also make us happier. ❷ One of these is **to**

	（2文構成）	**write about the good things in our lives, things we are thankful for.** ＊❷の these は❶の Other sorts of writing を指す。）
第3～5文	支持文	こうした物事について書くことによって，私たちは日常生活を新鮮な目で見たり，日常生活の中にずっと存在していた良い物事に気付いたりするようになる。（❺ Perhaps **writing about them** could help us to take a fresh look at our lives, and to notice the good things that were there all the time.）
第6～9文	検証実験(1)（❻・❼）とその結果（❽・❾）	研究者が行った検証実験(1)：3つのグループにそれぞれ異なることをリストアップさせた。（❻ researchers asked three groups of people to spend a few minutes **writing** each week） 第1グループ：「自分たちが感謝している5つの物事」（❼ five **things for which they were thankful**） 第2グループ：「自分たちをいらいらさせたり，困らせたりする5つの物事」（five things that annoyed or bothered them） 第3グループ：「前の週に起きた5つの出来事」（five events that had happened in the past week） ↓ ◎実験結果：「感謝していることを書いた」グループは，ほかの2つのグループに比べて「より幸せであり，より明るい未来を期待し，より身体が健康であり，より運動量が多かった」（❾ ... was happier, expected a brighter future, was physically healthier, and exercised more）

3 書くことの効用③＋結論

第1文	主題文	別の実験が明らかにしたこと：あなたが愛している人について書くことも助けとなる。（❶ it is also helpful to **write about someone you love**）
		研究者が行った検証実験(2)：2つのグループにそれぞれ異なることを書かせた。 第1グループ：「自分たちが愛している人」（❷ **some-**

第2～6文	検証実験(2)（❷～❹）とその結果（❺・❻）	**one they loved**）について書かせた。 第２グループ：「前の週に自分たちに起きたこと」（❸ something that had happened to them during the past week）について書かせた。 ◎実験結果：自分の愛する人について書いた人は，「幸福感が増し，ストレスが減少し，コレステロール値さえ著しく低下した」（❻ ... showed increased happiness, reduced stress, and even significantly decreased cholesterol levels）
第７文	結論	ペンと紙とわずかな時間を使ってある種の事柄を書くだけで日々の幸福が増進される。（❼ **In short**, when it comes to improving everyday happiness, **certain types of writing** have a surprisingly quick and large impact — and all they require is a pen, a piece of paper, and a few moments of our time.）

解　答

問１　④

問２　(1) **It is because it helps us to organize our thoughts, to create a story to explain our experiences, and to look for solutions.**

(2) **It is because it could help us to take a fresh look at our lives, and to notice the good things that were there all the time.**

(3) **It increased happiness, reduced stress, and even significantly decreased cholesterol levels.**

問３　・痛ましい体験　・日常生活の良い［感謝している］物事　・愛している人のこと

問４　ある種の事柄を書くことが驚くほど速く大きな効果をもたらす(28字)

設問解説

問１　空所直前の第１パラグラフ第３文では「話すことには効果がない」，空所直後の第４文では「書くことには良い効果がある」のように正反対のことを述べている。したがって，対比を表す道しるべ語である④の On the other hand が正解（⇒Key 12 ・ Key 13 ）。

問2 (1) 質問文の訳 「研究者たちによると，なぜ書くことが話すことより良いのか」 第1パラグラフ最終文の because 以下の内容を答える。

(2) 質問文の訳 「なぜ日常生活の良い物事を書くことが私たちをより幸せにしてくれるかもしれないのか」 第2パラグラフ第1文と第2文で「日常生活における良い物事について書くと，私たちは幸福になれる」と述べている。その理由は第5文に書かれている。文中の them は，第2文と第4文中の the good things in our lives を指している。

(3) 質問文の訳 「愛する人について書くことは，志願被験者たちにどのような利点をもたらしたか」 第3パラグラフ第6文参照。文頭の Those は volunteers（志願被験者たち）のこと。

問3 ・「痛ましい体験」については，第1パラグラフ第4文の writing about such painful experiences を参照。

・「日常生活の良い［感謝している］物事」については，第2パラグラフ第2文の to write about the good things in our lives (, things we are thankful for)を参照。

・「愛している人」については，第3パラグラフ第1文の to write about someone you love を参照。

問4 第3パラグラフ第7文の In short に注目する。In short は，要点や結論を導入するための道しるべ語である（⇒Key 04 ②）。解答する際は，この第7文，特に中程の certain types of writing have a surprisingly quick and large impact を参照する。なお，文中の certain types of writing は，文字通りの意味は「ある種の書き方」であるが，文脈に即して考えると，「ある種の事柄を書くこと」という意味になる。また，その具体例は問3で見たとおりである。

語　句

l. 10 **Other sorts of writing** の文字通りの意味は，「ほかの種類の書き方」だが，文脈に即して「ほかの種類のことを書くこと」と訳せる。その具体例が第2文の to write about the good things in our lives, things we are thankful for。

l. 14 **get used to** ～「～に慣れる」 be used to ～ が「慣れている」状態を表すのに対して，get used to ～ は「次第に慣れる」という状態の変化を表す。*Ex.* He *is used to* living alone.（彼は一人暮らしに慣れている） / He will *get used to* living alone soon.（彼はじきに一人暮らしに慣れることだろう）

l. 26 **volunteers**「志願被験者たち」 ここでは，自分から志願して実験に協力した人たち，つまり，「志願被験者たち」のことであると想定できる。

l. 28 **meant so much to** ～「～にとってそれほど大切であった」〈mean *A* to *B*〉で「B にとって A ほどの重要性を持つ」という意味。A の位置には，so

much のほか，a lot や nothing，little など，程度を表す語句が来る。*Ex.* Your advice *means a lot to* me.（あなたからのアドバイスは，私にはとても重要だ）/ Fame *means nothing to* me.（私にとっては名声などどうでもよいことだ）

文構造に注目

ll. 22-24 過去分詞を使った分詞構文

Compared to the "annoyed" group and the "events" group,
過去分詞を使った分詞構文（～と比較して）

the "thankful" group was happier, expected a brighter future,
S 述部 1 述部 2

was physically healthier, and exercised more.
述部 3 述部 4

POINT Compared to ～ は受動態の分詞構文で，if を用いて If it is compared to the "annoyed" group のように書き換えることができる。分詞構文では，接続詞，および主節と共通する主語を省略するが，過去分詞の分詞構文では，さらに受動態の be 動詞も省略される。*Ex. Used* economically, this money will last for one month.（節約して使えば，このお金は 1 ヶ月は持つだろう） Used economically は，If it (= this money) is used economically と書き換えられる。

ll. 34-36 when it comes to ～「～に関して言えば」

In short, **when it comes to** improving everyday happiness,
「要するに」 when it comes to ～「～に関して言えば」

certain types of writing have a surprisingly quick and large impact
S1 V1 O1

— and all ( ) they require is a pen, ... and a few moments of our time.
S2（先行詞） that 省略 S' V' V2 C2

POINT ダッシュ（—）の後の all they require は，all that they require の関係代名詞 that が省略された形。they は certain types of writing を指す。when it comes to ～ は「～に関して言えば」という意味を表す熟語。「～」の位置には名詞または動名詞が入る。*Ex. When it comes to* play*ing* games, you are the best.（ゲーム遊びに関して言えば，あなたがいちばん上手だ）

全　訳

[1] 人の心を激しく動揺させるような体験（例えば強盗や交通事故などの出来

事）について友人に話すことは私たちの立ち直りを助けるということが，一般に信じられている。しかしながら，研究はこうした見解を裏付けていない。そのようにしても効果はないようである。その一方で，そのような痛ましい体験について書くことに毎日数分間費やすことは良い効果があると証明されている。そのようなことを書いた人は，心身ともにより健康になった。研究者たちは，書くことは自分の考えを整理したり，自分の体験を説明するために物語を作ったり，解決策を探したりするのに役立つので，話すことよりも良いと主張する。

2　それ以外の種類のことを書くことも私たちをより幸せにしてくれる。その１つは日常生活における良い物事，つまり，私たちが感謝している物事について書くことである。誰にも感謝すべきことがある。思いやりのある友人，きれいな水，あるいは美しい夕焼けでさえもそうである。しかし，私たちはこうした物事に気付かないことがよくある。私たちは，日常生活における良い物事にすぐに慣れっこになってしまい，そうした物事を意識しなくなってしまう。おそらくこうした物事について書くことによって，私たちは日常生活を新鮮な目で見たり，日常生活の中にずっと存在していた良い物事に気付いたりするようになるのだ。この考え方を検証するために，研究者たちは，３つのグループの人々に毎週数分間書いて過ごすように求めた。第１のグループは自分たちが感謝している５つの物事のリストを作った。第２のグループは自分たちをいらいらさせたり，困らせたりする物事を５つ書き留めた。第３のグループは前の週に起きた５つの出来事をリストアップした。その結果は明白であった。「いらいらさせられることを書いた」グループや「出来事を書いた」グループと比較すると，「感謝していることを書いた」グループはより幸せであり，より明るい未来を期待し，より身体が健康であり，より運動量が多かった。

3　ほかの研究によれば，あなたが愛している人について書くことも助けとなることが明らかになっている。研究者たちは，志願被験者のグループの１つに自分たちが愛している人のことに思いを巡らして，なぜその人があなたにとってそれほど大切な人なのかについて，20分間を使って書くように求めた。もう１つのグループは，前の週に自分たちに起きたことについて書くように求められた。それぞれのグループは，書く作業を５週間のうちに３回行った。またしても，この簡単な作業は劇的な効果をもたらした。自分の愛する人について書くことにわずか数分間費やした人は，幸福感が増し，ストレスが減少し，コレステロール値さえ著しく低下した。要するに，日々の幸福を増進させることに関して言えば，ある種の事柄を書くことは驚くほど速く大きな効果をもたらす。しかも必要なのはペンと１枚の紙とわずかな時間だけなのだ。

演習問題 07

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1 テーマの導入＋提示

第1～4文	テーマの導入（❶）＋主題文（❷・❸）＋補足（❹）	異文化間コミュニケーションの難しさは，言語の習熟度だけではなく，それぞれの文化における社会慣習と暗黙の了解の違いに起因する。（❷ This difficulty is **not only** based on the mastery of the other's language. ❸ It is based on different sets of **social conventions** and **the underlying stories** for these conventions. ❹ By underlying stories, I mean **our cultures' unspoken assumptions**.）

2 本論(1)：日米間の社会慣習の違い①

第1～4文	例示	知人の家を訪問したときに見られる，日米間の社会慣習の違いの例（❶ **One example of social convention** can be seen when visiting an acquaintance's house.） ↓ 友人や仕事仲間が知人宅を訪問するのは，米国では珍しくないが，日本では珍しい。（❷ In the United States, it is not unusual for friends, or even co-workers, to drop by your house. ... ❹ In Japan, it is rather unusual to visit a friend's house this casually, and extremely rare for a co-worker to do so. ＊❶の One example of ～ can be seen ... は例示を表す（⇒Key 11）。❷と❹は下線部の語句を先頭に置いて，日米間の違いを対比。以下の3・4パラグラフでも同様。）

3 本論(2)：2の根底にある暗黙の了解の違い

第1～3文	対比（❶～❸）	《訪問客に対するもてなし方の違い》 日本：訪問客に対して相当の敬意を払い，大切な客としてもてなす。⇔米国：もっと打ち解けた雰囲気で，ほとんど家族の一員のようにもてなす。（❷ In Japan, you would probably be shown a considerable amount of respect,

		treated as an honorable guest. ❸ In the United States, things are more casual, and you might be treated almost as a family member.)
第4～6文	つなぎ（❹）＋主題文（❺・❻）	《もてなし方の違いの説明となる根底にある物語の違い》 日本：相手（＝訪問客）を目上の人として大いに敬意を払ってもてなさなければならない。⇔米国：「私たちは対等の人間であり，お互いに打ち解けた間柄だ」という根底にある物語がある。（❺ In Japan, the **underlying story** in this social situation is that "the other person is to be treated as a superior, and with great respect." ❻ In the United States, the story is that "we are equals, and very relaxed with each other.")

4 本論(3)：日米間の社会慣習の違い②

第1～4文	例示（❶）＋対比（❷～❹）	《日米の文化における言葉の使い方の違い》 ❶ **Another example of social convention** is the use of speech in the two cultures. 《討論における日米の発言姿勢の違い》 ❸ Generally speaking in the United States, the **social convention** is to offer opinions, **whereas** in Japan it may be to stay silent. 《根底にある物語の違い》 米国：「私たちはみな貴重な意見を持っている」（❹ We all have valuable opinions） 日本：「私はあなたの意見を傾聴することであなたに敬意を払っている」（❹ I'm respecting you by listening to your opinion）

5 結論

第1文	結論	異文化間コミュニケーションを高めるためには，相手方の社会慣習の元となっている根底にある物語を理解することが大切である。（❶ To enhance intercultural communication **it is important to** understand **the other's social conventions**, and **even more important to**

		understand **the underlying stories** on which **these conventions** are based.)

解　答

問1　④

問2　［A］目上の人として敬意を払って待遇しなければならない（24字）
［B］対等の人間であり，打ち解けた間柄である（19字）

問3　［C］相手の意見を黙って聞くのが礼儀正しい（18字）
［D］自分の意見を述べない人はつまらない人だ（19字）

問4　the former：アメリカ　the latter：日本

問5　④

設問解説

問1　下線部(1)を含む第３パラグラフ第４文は，「このことが私たちを根底にある物語へと導く」という意味。主語の This は，直前の第２～３文で述べている，個人の家を訪ねた友人や仕事仲間がどのようにもてなされるかに関する日米の違いを指している。具体的には，日本の場合，友人または仕事仲間は「相当の敬意が払われ，大切な客としてもてなされる」（be shown a considerable amount of respect, treated as an honorable guest）のに対して，アメリカではもっと打ち解けた形で「ほとんど家族の一員のように扱われる」（be treated almost as a family member）という違いを指摘しているので，この両方をまとめた④が正解となる。代名詞の This は，しばしば直前の文の内容を指す（⇒Key 26 ②）が，その内容は必ずしも１文だけとは限らない。２つの物事が対比されているような場合は，その両方を単数の代名詞 this で受けることがある。

問2　下線部(2)の underlying stories は，「その根底にある物語」という意味。具体的には，この直後の２つの文（第３パラグラフ第５～６文）で，日本では「相手の人を目上の人として大いに敬意を払ってもてなさなければならない」（the other person is to be treated as a superior, and with great respect），一方アメリカでは，「私たちは対等の人間であり，お互いにとても打ち解けた間柄だ」（we are equals, and very relaxed with each other）という物語の違いを述べているので，この内容に即して答える。このように，ある事柄（ここでは underlying stories）をまず抽象的，または一般的な言い方で述べたあと，次

文（以降）で詳しく説明する書き方は，特に説明文や評論文などでよく見られる。

問３ 下線部(3)を含む第４パラグラフ第１文（Another example of social convention is the use of speech in the two cultures.）は，〈S + V（be 動詞）+ C〉の形で書かれているので，ここで筆者が Another example of social convention（社会慣習のもう１つの例）として挙げているのは，the use of speech in the two cultures（この２つの文化（＝日米の文化）における言葉の使い方）だとわかる。この直後の第２文（In Japan, during ... be considered boring.）で，日米の違いを In Japan, ..., **but** in the United States, ～ . のように対比させながら述べている（⇒Key 12 ・ Key 13 ）ので，この内容に即して答えればよい。contribute their opinion to a discussion は，「自分の意見を討論に提供する」→「自分の意見を討論で述べる」という意味。

問４ the former は「前者」，the latter は「後者」の意味で，この２つはワンセットで使われるのがふつう。下線部(4)直前の第４パラグラフ第３文で，in the United States, ..., **whereas** in Japan ～ の形で，アメリカと日本における発言に対する考え方の違いを述べている。先に出てくる「アメリカ」が the former（前者）で，後に出てくる「日本」が the latter（後者）となる。

問５ この文章は，【パラグラフの構造】からもわかるように，「序論→本論→結論」という流れで構成されている（⇒Key 24 ）。結論となる最終パラグラフで，筆者は価値判断を表す **important**（大切な），およびその強調形の **even more important**（いっそう大切な）を使って，主張のポイントを２つ挙げている（⇒Key 03 ②）。この２番目，つまり it is ... **even more important** to understand the underlying stories on which these conventions are based が筆者の一番述べたいことである。この論点と一致する④が正解。these conventions とは，the other's social conventions のこと。

語　句

l. 6 **unspoken assumption**「口に出さない前提」 つまり「暗黙の了解」という意味。

l. 10 **While ～ , ...**「～だけれども…」 この while は although とほぼ同じ意味。

l. 14 **this casually**「これほど気軽に」 この this は副詞で，「これほど，こんなに」という意味。なお，that にも同様の用法がある。*Ex.* I can't speak English *that* fluently.（私はそんなに流暢には英語をしゃべれません）

l. 15 **once**「いったん～すると」 この once は接続詞。時間や条件を表す接続詞が導く副詞節の中では，未来の事柄も現在形で表す。once you will get to ... と

はならないことに注意。

l. 18 **things**「事態，状況」 *Ex. Things* are getting worse.（状況は悪化している）

l. 28 **generally speaking**「一般的に言えば」 慣用的な独立分詞構文の１つ。ほかに，strictly speaking（厳密に言えば），talking of ～（～と言えば），judging from ～（～から判断すると）などがある。

l. 29 **～, whereas ...**「～，その一方で…」 直前に置かれた主節との対比を表す。ほぼ同じ意味で用いられる ～, while ... よりもかたい表現。(⇒Key 12・Key 13)

l. 34 〈**even＋形容詞・副詞の比較級**〉「いっそう～，ずっと～」 much や far にも同様の用法がある。

文構造に注目

ll. 3-6 〈not only *A* but also *B*〉の変形

This difficulty is **not only** based on the mastery of the other's language.
S　V　過去分詞　前置詞句

It is based on different sets of social conventions ...
S　V　過去分詞　前置詞句

POINT この２つの文は，〈not only *A* but also *B*〉（A だけでなく B もまた）の構文を下敷きにしている。この２文を，but と also を加えて１文に書き換えると，This difficulty is *not only* based on the mastery of the other's language, *but* it is *also* based on different sets of social conventions ... のようになる。〈not only *A* but also *B*〉の構文は，この例のように一部が省略される形が非常に多い。

ll. 20-22 〈S＋V（be 動詞）＋C（that 節）〉の構文／〈be 動詞＋to 不定詞〉

In Japan, the underlying story in this social situation **is**
S　V（be 動詞）

that "the other person **is to be** treated as a superior, and with great respect."
S'　V'〈be 動詞＋to 不定詞〉　前置詞句１　前置詞句２
C（that 節）

POINT 1 文全体は〈S＋V（be 動詞）＋C（that 節）〉の構文。that 節が be 動詞の補語となり，主語 the underlying story の具体的内容を述べている。この構文を作りやすい名詞には，fact（事実），problem（問題），truth（事実），reason（理由）などがある。*Ex.* The problem is *that* we have no specific cure for the disease.（問題はその病気の特効薬がないということだ）

POINT 2 〈be 動詞＋ to 不定詞〉は「義務」・「予定」・「可能」・「意図」などを表す。この文では「義務」を表し，the other person must be treated as a superior ... と書き換えることができる。なお，第４パラグラフ第３文に出てくる is to offer opinions, whereas in Japan it may be to stay silent. の下線部は，いずれも「～すること」という意味を表す不定詞の名詞的用法で，〈be 動詞＋ to 不定詞〉の用法ではない。

全　訳

1　日本とアメリカの社会は非常に異なっており，この違いのために，日本人とアメリカ人はしばしば意思の疎通を図るのが難しいことがある。この難しさは，相手方の言語の習熟度だけに基づいているわけではない。それはまた，一連の異なる社会的慣習とこれらの慣習の根底にある物語にも基づいているのである。根底にある物語とは，私たちの文化に存在する暗黙の了解ということである。

2　社会慣習の一例は，知人の家を訪問したときに見られる。アメリカでは，友人，あるいは仕事仲間でさえも，あなたの家に立ち寄るのは珍しいことではない。確かに，私たちは正式な晩餐会や訪問もするが，私がここで言っているのは，もっと気軽に立ち寄る慣習のことである。もっとも，相手に前もって知らせずに訪問するのは，一般に失礼なこととされているのだが。日本では，これほど気軽に友人を訪問するのはむしろ珍しいことであり，仕事仲間がそのようにするのは極めてまれなことである。

3　友人，あるいは仕事仲間の家に着いてから，訪問客が自分はどのように待遇されるかについて予想する内容は異なるだろう。日本では，おそらく相当の敬意が払われ，大切な客としてもてなされるだろう。アメリカでは，状況はもっと打ち解けていて，ほとんど家族の一員のように扱われるかもしれない。このことが私たちを根底にある物語へと導く。日本の場合，こうした社会的状況の根底にある物語は，「相手の人を目上の人として大いに敬意を払ってもてなさなければならない」ということである。アメリカでは，「私たちは対等の人間であり，お互いにとても打ち解けた間柄だ」というのが根底にある物語なのだ。

4　社会慣習のもう１つの例は，この２つの文化における言葉の使い方である。日本では討論する際，相手の意見を黙って聞くのが礼儀正しいと見なされるかもしれないが，アメリカでは討論で自分の意見を述べない人はつまらない人だと見なされるかもしれない。一般的に言って，アメリカでは社会慣習は意見を述べることであるが，日本では黙っていることが社会慣習かもしれない。ここで前者の根底にある物語とは，「私たちはみな貴重な意見を持っているのです」とい

うことであり，後者では「私はあなたの意見を傾聴することで，あなたに敬意を払っているのです」である。

5　異文化間コミュニケーションを高めるには，相手方の社会慣習を理解することも大切であるが，その慣習の元となっている根底にある物語を理解することはそれよりいっそう大切なことである。

演習問題 08

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1 序論

第１文（単一文）	テーマの導入＋主題文	統計に基づく事実：米国では約300万組のカップルがお互いに遠く離れて暮らしている。(About 3 million couples in the U.S. live far away from each other) ◎新しい研究によると，離れて暮らすことはそれほど２人の関係に悪影響を与えない。(❶ a new study ... found that the **separation** did not have such a negative effect on their **relationships**)

2 本論(1)：63 組のカップルを対象に行った調査とその結果

第１～３文	調査の概要	◎調査対象の63組のカップルの内訳（❶）：半数は「同居」(lived together)，半数は「遠距離恋愛関係」(in **long-distance relationships**)。 ◎研究者の依頼内容（❶）：「最愛の人との１週間のやり取りを日記に書く」(to keep a diary of one week of **interactions** with their beloved) ◎年齢構成（❷）：カップルの大部分が21歳前後の大学生で恋愛中。 ◎「遠距離恋愛関係」にあるカップルは平均で17か月間「地理的に離れていた」(❸**separated geographically**)。
第４～５文	調査結果	香港城市大学のＬ・クリスタル・ジャン，およびコーネル大学のジェフリー・Ｔ・ハンコックが発見したこと。 →「離れて暮らすカップルは（同居しているカップルよりも）１日にやり取りする回数が少なかった」(❹ **remote couples interacted** fewer times per day) が，「これらのやり取りはより有意義なものであった」(❺ these **interactions** were more meaningful)

3 本論(2)：調査結果に基づく考察①

		◎「離れて暮らすカップル」(**long-distance couples**) のやり取りに特徴的なこと

第1～5文	考察	・それぞれの会話の中で自分についてより多くのことをさらけ出す→それぞれの自己開示に対する相手の反応を理想化する傾向あり。 ・1回のやり取りに費やす時間がより長かった。 ↓ 遠く離れて暮らしているパートナーの日記の方がより満足感を反映している。(❹ the diaries reflected more satisfaction among the **remotely placed** partners) 「遠距離のカップルは，地理的に近いカップルよりも，愛情や親密さをより懸命に伝えようとする。そして，彼らの努力は確かに報われる」(❺ The long-distance couples try harder than geographically close couples in communicating affection and intimacy, ... and their efforts do pay back.)

4 本論(3)：調査結果に基づく考察②

第1～2文	考察	◎いつもお互いの顔を見ているカップルの場合：日記に書き記した会話の量は多かったが，「相手の反応に関してより現実的であった」(❶ were more realistic about their partners' responses) ◎「距離が人間関係の質に及ぼす影響」(❷ the effect of **distance** on the quality of **relationships**) について以前に行われた研究で明らかになった傾向 遠距離の友人→「相互理解や信頼をより重要視する」(❷ **long-distance** friends focus more on mutual understanding and trust) 地理的に近い友人→「実際的な手助けを重んじ，『必要なときにその場にいてくれること』を親密な友情の重要な特質と見なす」(❷ geographically close friends value practical help and consider 'being there when needed' an important feature of close friendship)

5 結論

第1文	問題提起	「なぜ遠く離れていることが人々をより深いやり取りへと駆り立てるのだろうか？」(❶ Why does **distance** drive

		people to have deeper exchange?)
第2～4文	結論	◎筆者の3つの解釈 (1) 身体言語を読み解くことに気を遣う必要なしに相手とコミュニケーションを行うことで，彼らがより大胆に，そしてより率直になった。(❷ communicating with somebody without having to worry about decoding their body language made them braver and more forthright) (2) パートナーと限られたやり取りしかできないという状況のために，彼らはその時間をより有意義に使いたいと思うようになった。(❸ having only limited access to their partners made them want to use the time more meaningfully) (3) パートナーとコミュニケーションを交わす機会があるとき，それを優先してテレビを消したり，ソーシャルメディアを見ないようにしたり，ほかのことも同時にするのをやめたりした。(❹ when they had the chance to communicate with their partner, they made it a priority and turned off the TV, looked away from social media or stopped multitasking)

解　答

問1　遠距離間で愛し合うカップルの関係（16字）

問2　遠距離間で愛し合うカップルが，地理的に近いカップルよりも，愛情や親密さを伝えようとする努力のこと。(49字)

問3　あるいは，遠く離れていることが人々をより深いやり取りへと駆り立てる理由とは，パートナーと限られたやり取りしかできないという状況のために，彼らはその時間をより有意義に使いたいと思うようになったということかもしれない。

問4　A. T　B. F　C. F　D. F　E. T

設問解説

問1　下線部(1)の relationship の基本的な意味は「関係」であるが，ここでは第1パラグラフ最終文に the separation did not have such a negative effect on

their relationships（離れて暮らすことは２人の関係にそれほど悪影響を与えなかった）とあることから，特に「男女のカップルの間の恋愛関係」の意味で用いられているとわかる。下線部の後の interactions with their beloved（最愛の人とのやり取り）や続く第２パラグラフ第２文の in love（恋愛中で）も手がかりになる。

問２　下線部(2)の such an effort（そのような努力）は，直前の第３パラグラフ最終文に出てくる their efforts を受けた表現。具体的には最終文前半で述べている，「遠距離のカップルは地理的に近いカップルよりも，愛情や親密さをより懸命に伝えようとする」(The long-distance couples ... affection and intimacy）その努力を指しているので，この内容を字数内で答える。他動詞の communicate は「(感情など）を伝える」という意味。

問３　下線部中の it は，第５パラグラフ第１文で述べている疑問の内容，つまり「遠く離れていることが人々をより深いやり取りへと駆り立てること」を指す。第２文および第４文の it も同じ内容を指す。could ～ は，「～であろう，～かもしれない」という控えめな推量を表す助動詞である。having only limited access の字句通りの意味は，「ごく限られた接触を持つこと」であるが，「限られたやり取りしかできないという状況」と訳すとよい。

問４　A. 第２パラグラフ第４文の後半部に remote couples interacted fewer times per day（離れて暮らすカップルは１日にやり取りする回数がより少なかった）とある内容と一致。per day の後に than the couples who lived together を補って読むとよい。

B. 第３パラグラフ第１文の前半部 The couples who ... in each conversation（かつては「地理的に不可能」と言われた状況にあるカップルは，それぞれの会話の中で自分についてより多くのことをさらけ出す）と矛盾。

C. 第３パラグラフ第２文 They also spent more time on each interaction.（１回のやり取りに費やす時間もより長かった）と矛盾。文中の They は，前文の The couples who were in what were once called “geographically impossible” situations，つまり「遠距離カップル」のこと。

D. 問題文の前半部（＝遠距離のカップルは，近距離のカップルより愛情と親密さ伝える努力をする）は，第３パラグラフ最終文の前半部（The long-distance couples ... affections and intimacy）と一致するが，問題文の後半部（＝その努力は報われない）は，同じ文の後半部に and their efforts do pay back（そして，彼らの努力は確かに報われる）と述べられている内容と矛盾する。

E. 第４パラグラフ第２文の中程に long-distance friends focus ... value

practical help（遠距離の友人は相互理解や信頼をより重要視するのに対して，地理的に近い友人は実際的な手助けを重んじる）とある内容と一致。

語　句

l. 11　**not surprisingly**「当然のことながら」

l. 14　**what were once called** ～「かつては～と言われた」 what is called（いわゆる）の応用形。

l. 19　**building blocks of** ～「～の構成要素，～を作るもの」 building block は，元来は「（建築に使われる）ブロック，（おもちゃの）積み木」のこと。

l. 28　**focus on** ～「～を重要視する，～に重点を置く」

l. 38　**made it a priority**「それを優先した」 priority は「優先，優先事項」の意。it は直前の the chance to communicate with their partner を指す。

文構造に注目

ll. 5-7　〈数量表現（half, all, one など）＋ of whom〉

〈ask ＋ O ＋ to ＋ 動詞の原形〉の O の直後に関係代名詞節が挿入されている

The researchers (S) asked (V) 63 couples (O（先行詞）),

half of whom (〈数量表現＋ of whom〉) lived together (V), and
half of whom (〈数量表現＋ of whom〉) were (V) in long-distance relationships (前置詞句),

to keep a diary of one week of interactions with their beloved.
（〈to ＋動詞の原形 ...〉）

POINT　文全体は〈ask ＋ O（人）＋ to ＋動詞の原形〉（〈人〉に～するように頼む）という不定詞構文であるが，目的語の 63 couples（63組のカップル）の直後に，これを先行詞とする half of whom ... が２つ挿入されている。この half of whom ... は，直前の 63 couples について，「その半分は…」と補足説明を加える関係代名詞節。前置詞 of の目的語となるため，目的格の関係代名詞 whom が使われていることに注意。なお，この〈数量表現（one, all, half, some, both など）＋ of ＋ whom [which]〉は必ず非制限用法で用いられる。以下の２文の違いに注意。*Ex.* Ken has three sisters *who* live abroad.（ケンには海外に住む３人の姉妹がいる）/ Ken has three sisters, *one of whom* lives abroad.（ケンには姉妹が３人いるが，そのうちの１人は海外に住んでいる）

ll. 35-37 It could be that ... (…ということかもしれない)

Or **it could be**
S V (助動詞 + be 動詞)

that having only limited access to their partners
S' (動名詞)
made them want to use the time more meaningfully .
V' O' C' (動詞の原形)

C (that 節)

POINT It could be that ... は「…ということかもしれない」という〈S + V + C (that 節)〉の構文で，主語の it は第５パラグラフ第１文の問題提起の内容を指す。that 節の中は，〈S + make + O + C (動詞の原形)〉(O に～させる)の使役構文。長い動名詞句 (having only ... their partners) 全体が that 節の主部である。

全　訳

1 米国では約300万組のカップルが，一緒に暮らす方がよいと思っているものの，(実際には) お互いに遠く離れて暮らしており，『ジャーナル・オブ・コミュニケーション』に発表された新しい研究によると，離れて暮らすことは２人の関係にそれほど悪影響を与えないことがわかった。

2 研究者たちは，63組のカップル (半数は同居，半数は遠距離恋愛関係) に，最愛の人との１週間のやり取りを日記に書くように依頼した。カップルたちは若く (大部分が21歳前後の大学生)，恋愛中であった。離れて暮らす若者たちは平均で17か月間，地理的に離れていた。研究者である香港城市大学のＬ・クリスタル・ジャンとコーネル大学のジェフリー・Ｔ・ハンコックは，当然のことながら，離れて暮らすカップルは１日にやり取りする回数がより少ないことを発見した。しかし，これらのやり取りはより有意義なものであった。

3 かつては「地理的に不可能」と言われた状況にあるカップルは，それぞれの会話の中で自分についてより多くのことをさらけ出し，自己開示に対する相手の反応の１つ１つを理想化する傾向があった。１回のやり取りに費やす時間もより長かった。諸研究は，そのような自己開示と理想化が親密さを作ることを示唆している。そのため，遠く離れて暮らしているパートナーの日記の方が，より満足感を反映しているのも当然である。「遠距離のカップルは，地理的に近いカップルよりも，愛情や親密さをより懸命に伝えようとします。そして，彼らの努力は確かに報われるのです」とジャンは言う。

4 その一方で，いつもお互いの顔を見ているカップルは，日記に書き記した

会話の量は多いものの，そのような努力をせず，相手の反応に関してより現実的であった。ジャンとその同僚が書いたように，距離が人間関係の質に及ぼす影響について以前行われた研究では，「遠距離の友人は相互理解や信頼をより重要視するのに対して，地理的に近い友人は実際的な手助けを重んじ，『必要なときにその場にいてくれること』を親密な友情の重要な特質と見なす」ことが示された。

5 なぜ遠く離れていることが人々をより深いやり取りへと駆り立てるのだろうか。この研究では述べていないが，身体言語を読み解くことに気を遣う必要なしに相手とコミュニケーションを行うことで，彼らがより大胆に，そしてより率直になったということかもしれない。あるいは，パートナーと限られたやり取りしかできないという状況のために，彼らはその時間をより有意義に使いたいと思うようになったということかもしれない。あるいは，パートナーとコミュニケーションを交わす機会があるとき，それを優先しテレビを消したり，ソーシャルメディアを見ないようにしたり，ほかのことも同時にするのをやめたりしたというだけのことかもしれない。

演習問題 09

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1 導入部

第1～3文	テーマの導入	ハリウッドに住む人のことをほかの人たちよりも幸せだと思うなら，あなたは幸せの本質について間違った考え方をしていることになる。(❷ You may think people in such a **fun**-filled place are **happier** than others. ❸ **If so**, you have some mistaken ideas about the nature of **happiness**.)

2 本論(1)：幸せ（happiness）と楽しさ（fun）の違い

第1～7文	導入（❶）＋主題文（❷～❺）＋例示（❻～❼）	楽しさと幸せには共通点がほとんど，あるいはまったくない。(❷ **The truth is that fun** and **happiness** have little or nothing in common.) 楽しさ：ある行為の最中に経験するもの。(❸ **Fun** is what we experience during an act.) 幸せ：ある行為の後で経験するもの。長期間持続する深い感情。(❹ **Happiness** is what we experience after an act. ❺ It is a deep emotion that lasts for a long time.)

3・4 本論(2)・(3)：幸せの本質―幸せと苦痛（pain）

3	導入文（❶～❸）＋主題文（❹）	楽しさや喜び＝幸せ，苦痛＝不幸なのか？ →実際はその逆。幸せへとつながるものには苦痛が伴う。 (❷ If you think **fun** and **pleasure** are the same as **happiness**, then it follows that **pain** must be the same as **unhappiness**. ❸ **But**, **in fact**, the opposite is true. ❹Things that lead to **happiness** involve some **pain**.)
4	主題文（❶）＋	多くの人々は真の幸せの源泉である，努力そのものを避けてしまう。(❶ **As a result**, many people avoid the very endeavors that are the source of true **happiness**. ❷ They fear the **pain** inevitably brought by **such**

	支持文 (❷)	things **as** professional achievement and self-improvement. ＊❶の **As a result** は第3パラグラフの最終文の内容を受けて，因果関係を表す道しるべ語 (⇒Key 14 · Key 15)。)

5 · 6 本論(4) · (5)：幸せと楽しさの違い（例示）

5	例示 (❶～❹) ＋ 問題提起 (❺ · ❻) ＋ 主題文 (❼)	テレビゲームが好きな少年の場合（❶ Consider a boy, **for example**, who likes video games.），テレビゲームをする時間が終わると同時に，彼の楽しさも終わってしまう。 →単に楽しさを追い求めているだけなので，終わった後で空しさを感じる。(❼ ... he does it only for **fun**; it requires no **effort**, and it does not contribute in any real way to **happiness** itself)
6	例示 (❶～❻) ＋ 主題文 (❼)	英語字幕の助けを借りずに，イタリア映画を楽しめるようになろうと決心した少年の場合，その願いを叶えるためには多くの時間と労力を費やす必要があったが，その努力が実ったときには，彼は達成感を味わい，心の底から幸せを感じる。(❶ **On the other hand**, consider another boy, who likes movies. ... ❺ After years of **effort**, the time has come when he is able to understand **not only** all the lines in an Italian movie **but also** a great deal more about another culture. ❻ This very moment brings him a sense of **fulfillment**, and he **feels happy** from the bottom of his heart. ❼ **In other words**, it is not until he makes every **effort** for years that he realizes what **true happiness** is like.)

7 結論：幸せの本質がわかると変わること

第1～6文	主題文 (❶) ＋ 列挙 (❷～❹)	真の幸福が楽しさとは何の関係もないことを理解して受け入れることは，人生を一変させるような発見の1つかもしれない。(❶ Understanding and accepting that **true happiness** has nothing to do with **fun** can be one of the biggest life-changing discoveries we make.) ◎私たちに起こる3つの変化

	＋ 主題文の 再提示 (❺・❻)	(1)時間にとらわれなくなる。(❷ **First**, we will be free from time) (2)お金にとらわれなくなる。(❸ **Secondly**, we will be free from money) (3)ほかの人をうらやましいと思う気持ちからも解放される。(❹ And **thirdly**, we will be free from envy)

解　答

問1　(A) 楽しさと幸せには共通点がほとんど，あるいはまったくないのである。
(B) 楽しさはある行為の最中に経験するものであるのに対して，幸せは行為の後に経験するもので，永続する深い感情である。(55字)

問2　楽しい行為がもたらすプラスの効果は，その楽しさが終わると消えてしまうから。

問3　苦痛は不幸ではなく，実際には幸せへとつながるものは苦痛を伴うということ。

問4　何年にもわたってあらゆる努力をして初めて，彼は本当の幸せがどのようなものかに気づく。
〔別訳〕何年にもわたってあらゆる努力をしてみるまで，彼は本当の幸せがどのようなものかに気づかない。

設問解説

問1　(A) 下線部(1)の have little or nothing in common は，「共通点がほとんど，あるいはまったくない」という意味。have ～ in common（～を共通に持つ，～の共通点がある）の「～」の位置に nothing, little, something, much などの程度を表す語が入る。*Ex.* have something in common（いくらか共通点がある）/ have much in common（大いに共通点がある）

(B) 下線部(1)の後に続く第2パラグラフ第3～5文で，fun と happiness を対比させながら，その違いを説明している。下の表の下線部分を中心に答えをまとめる。関係代名詞 what は「～するもの」という意味。

Fun is what we experience during an act.（楽しさはある行為の最中に経験するものである）	**Happiness** is what we experience after an act.（幸せはある行為の後で経験するものである）

	It is a deep emotion that lasts for a long time.（それは長時間持続する深い感情である）

問2　下線部(2)は「それら（＝楽しい行為）は幸せをもたらしてはくれない」という意味。筆者がそのように考える理由は，この直後の because 以下に述べられている。文中の their は前文の fun activities を指す。

問3　下線部(3)を含む the opposite is true は，「真実はその逆なのである」という意味。具体的には，前文の pain must be the same as unhappiness（苦痛は不幸と同じものであるはずだ）とは「逆のこと」，つまり，「苦痛は必ずしも不幸ではない」という意味になる。さらに下線部直後の第3パラグラフ第4文で，筆者は Things that lead to happiness involve some pain.（幸せへとつながるものには，いくらかの苦痛が伴う）とも述べているので，この両方を踏まえて答えをまとめる。

問4　It is not until ～ that ... は「～して初めて…する」という意味。強調構文〈It is ～ that ...〉の一種で，否定語の not と副詞節の until he makes every effort for years が強調されている。that 節の中は〈S + V + O（間接疑問）〉で，what ～ is like は「～はどのようなものか」と訳す。この like は「～のような」という意味の前置詞。

〈It is not until ～ that ...〉「～して初めて…する」
it is **not until** he makes every effort for years
S" V" O"
この部分が強調されている
that he realizes what true happiness is like
S' V' O'（間接疑問）＝「～はどのようなものか」

語　句

l. 2　**if so**「もしそうなら」　前文の内容を前提に話を進める言い方。ここでは If so = If you think people in such a fun-filled place are happier than others。「もしそうでないなら」と仮定する場合は，if not を用いる。

l. 5　**The truth is that ...**「実は…なのである」〈S + V（be 動詞）+ C（that 節）〉の形で that 節の内容を強調する表現。しばしば主題文として，真実や事実を示すときに用いられる（⇒Key 03 ⑤）。

l. 12　**the way people cling to ...**「人々が…に固執するような生き方」

l. 12　**pain-free life**「苦痛のない生活」　この free は「自由な」ではなく，「～がない」という意味を表す。*cf.* You can download the updaters *free of charge*

from our website.（更新ファイルは弊社ウェブサイトから無料でダウンロードできます）

l. 16 **in fact**「実際は」 相手の予想とは異なる事実，または相手の予想を大きく超える事態を伝える場合などに用いる。副詞の actually も同様の意味で用いられる（⇒Key 17）。

l. 18 **the very endeavors**「まさに努力そのもの」 この very は「まさにその」という意味の形容詞で，直後に続く名詞を強調する。第6パラグラフ第6文の This very moment（まさにこの瞬間）の very も同じ意味・用法である。

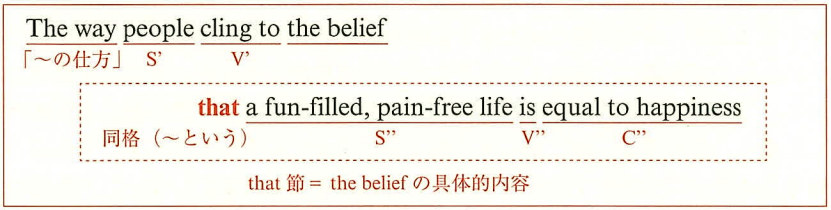
l. 37 **in other words**「言い換えると」 文頭または文中で用いられる換言の道しるべ語の1つ（⇒Key 18・Key 19）。

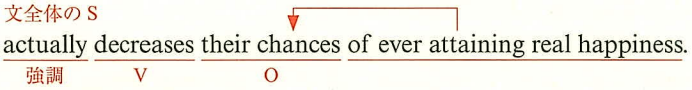
l. 39 **have nothing to do with** ～「～とは何の関係もない」

l. 44 **do nothing to *do***「～するのに全く役に立たない」

文構造に注目

ll. 12-14 同格の that 節





POINT この that は名詞節を導く接続詞で，直前の名詞（belief）の具体的内容を説明する，いわゆる同格の that（～という）である。同格の that 節を伴う主な名詞には，ほかに fact（事実）や idea（考え）などがある。*Ex.* We should not forget the fact *that* all people are equal.（人間はすべて平等であるという事実を忘れるべきではない）

全　訳

1 私はハリウッドという地域で暮らしている。そのような楽しさに満ちた場所にいる人々はほかの人たちより幸せだとあなたは思うかもしれない。もしそうなら，あなたは幸せの本質について間違った考え方をしていることになる。

2 多くの知的な人たちでさえ，幸せは楽しさと同じものだと思っている。実

は，楽しさと幸せには共通点がほとんど，あるいはまったくないのである。楽しさはある行為の最中に経験するものである。幸せはある行為の後で経験するものである。それは長期間持続する深い感情である。例えば，遊園地に行ったり，テレビを見たりすることは，私たちがしばらくの間リラックスしたり，厄介なことを忘れたりするのに役立つ楽しい行為である。しかし，それらは幸せをもたらしてはくれない。なぜかと言えば，そのプラスの効果は，その楽しさが終わると消えてしまうからである。

3　楽しさに満ちた，苦痛のない生活は幸せと同じだという信念に固執する生き方は，実は本当の幸せを得る機会を減らすことになるのである。もし楽しさや喜びが幸せと同じだと考えるならば，当然苦痛は不幸と同じものであるはずだ。ところが，実際には真実はその逆なのである。幸せへとつながるものには，いくらかの苦痛が伴うのである。

4　その結果，多くの人々は真の幸せの源泉である，まさに努力そのものを避けてしまう。彼らは仕事上の成功や自己改革のようなものによって必然的にもたらされる苦しみを恐れるのだ。

5　例えば，テレビゲームが好きな少年のことを考えてみよう。テレビゲームをすることが，自宅で暇つぶしをする彼の大好きな手段の１つである。それに夢中になっている間は，彼はリラックスし，日常生活のやっかいなことをすべて忘れる。しかしながら，テレビゲームをする時間が終わると，彼の楽しさも終わってしまう。その後で，彼は空しさを感じる。なぜだろうか。単に楽しさを追い求めるためだけにそれをするからである。それは努力を必要としないし，本当の意味で幸せそのものをもたらすものではない。

6　では，それとは正反対の，映画が好きな別の少年のことを考えてみよう。彼はイタリア映画を楽しみたいのであるが，イタリア語の知識が貧弱であるため，それができない。ある日，この少年は英語の字幕の助けを借りずに，俳優や女優たちが言っていることを上手に聴き取れるようになろうと決心する。その願いを叶えるために，多くの時間と労力を費やしてイタリア語を勉強する。何年間もの努力の末に，イタリア映画のすべての台詞だけでなく，別の文化についてより多くのことを理解できる時がやってきた。まさにこの瞬間が彼に達成感をもたらし，彼は心の底から幸せを感じる。言い換えれば，何年にもわたってあらゆる努力をして初めて，彼は本当の幸せがどのようなものかに気づくのである。

7　真の幸福が楽しさとは何の関係もないことを理解して受け入れることは，私たちが体験する中で最も大きな，人生を一変させるような発見の１つかもしれない。第一に，私たちは時間にとらわれなくなる。今や私たちは純粋に幸福感を強める可能性のある活動により多くの時間をあてることができる。第二に，私た

ちはお金にとらわれなくなる。私たちの幸福感を強めるのに何ら役に立たないあの新しい車，あるいはあのすてきな洋服を買うことは，今や無意味に思われる。そして第三に，私たちはほかの人をうらやましいと思う気持ちからも解放される。今や私たちは，裕福で魅力的な人々の誰もが実際にはまったく幸福ではないかもしれないことを知っている。楽しさが幸福をもたらすことはないと知った瞬間，私たちはこれまでとは違った人生を送るようになる。その影響は，まさに文字どおり人生を変えるようなものであるかもしれない。

演習問題 10

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1	テーマの導入	日本人と外国人が一緒に仲良く暮らすためには，相互理解が不可欠であるが，これは容易なことではない。 《理由》外国人にとって日本での暮らしは１つの単純なパターンに収まらないから。 (❷ In order for Japanese people and foreigners to live together in harmony, **mutual understanding** is essential. ❸ **Yet** this is not an easy task, as life in Japan for foreign nationals does not fall into one simple pattern.)
2	具体例①	日本で暮らしている外国人が直面する難題①：コミュニケーションの仕方が異なる。(❷ **communication styles** are different) ◎日本語によるコミュニケーション：背景に頼る傾向がある。(❸ **Communication** in Japanese tends to be more dependent on **context** than communication in English.) →理解してもらうために，状況の詳細のすべてを説明する必要がないことが多い。(❹ It is often not necessary to explain all the details of a situation in order to be understood.) ◎英語ではより多くの情報を提供し，相手が空白を埋めてくれるのを当てにせずに（❻ In English, **on the other hand**, it is usual to supply more **information**, and not to rely on other people to fill in the blanks.)，率直に話す（❼ It is also common **to be direct in speech**)。
3	具体例②	日本で暮らしている外国人が直面する難題②：日本で暮らす外国人が直面する障害に対する日本人の先入観。(❶ some mistaken ideas about the hurdles facing foreigners) 例：「室内で靴を脱いだり箸を使えるようになったりするのは，外国人にとっては難しいに違いない」(❷ it must be hard for foreigners to learn to take off their shoes indoors, or to use chopsticks)

4	具体例③	日本で暮らしている外国人が直面する難題③：長年日本で暮らした後で，一部の外国人たちが経験する一体感の欠如。(❶ the lack of a sense of belonging that some foreigners experience after having lived here for many years)
5	具体例④	外国人との間に隔たりを作りかねないような日本人の考え方や話し方。(❷ Some Japanese people have ways of thinking and speaking that can create **distance** between themselves and people with foreign backgrounds.)

解　答

問1　③

問2　室内で靴を脱いだり，箸を使えるようになったりするのは外国人には難しいに違いないという考え。

問3　(A) 長年日本で暮らした後で，外国人が経験する一体感の欠如という問題。

(B) 一部の日本人が，外国人との間に隔たりを作りかねないような考え方や話し方をすること。

問4　①・④

設問解説

問1　【パラグラフの構造】からわかるように，第2～5パラグラフのいずれも日本に住む外国人が直面する難しい問題について述べている。したがって，正解は「難しい課題」を意味する③の challenges である。

選択肢の訳　① 能力　② 文化　③ 難しい課題　④ 機会

問2　下線部(2)の some mistaken ideas は「いくつかの誤った考え」という意味。この後の第3パラグラフ第3文に Actually, this is not the case.（実際は，これは事実ではない）とあるので，この this が指す第2文（I have heard Japanese people say that ...）の that 節の内容を答える。it must be から文末の to use chopsticks までが that 節の内容となるので，訳し漏れがないように注意。

I have heard Japanese people say
知覚動詞構文：〈hear + O + 動詞の原形〉
that it must be hard for foreigners to learn { to take off their shoes indoors, 〈learn + to 不定詞①〉 / or to use chopsticks. to 不定詞② }
形式主語構文〈It ～ for *A* to *do*〉
that 節＝ say の目的語

問3 (A) 下線部(3)に含まれる this problem は，第4パラグラフ第1文で A more complicated issue is ... と述べている「もっと複雑な問題」を指すので，この第1文の後半部（the lack of a sense ... for many years）の内容を答える。指示代名詞の this や〈this + 名詞〉は，直前の文やさらにその前の文を指すことが多い（⇒Key 26 ・ Key 29）が，このように前のパラグラフの文を指すこともある。その場合，A more complicated issue → this problem のような言い換えに着目すると，指示関係を見つけやすくなる。

(B) 下線部(3)で a lack of language skills is not the only cause of this problem（この問題の原因は語学能力の欠如だけではない）と述べた後，続く第5パラグラフ第2文（Some Japanese people ... with foreign backgrounds.）で，一部の日本人に見られる考え方や話し方を批判的に取り上げている。この内容を「～こと」の形で答える。文中の can は「～しかねない」の意。distance は物理的な「距離」ではなく，心理的な「隔たり」である。

問4 ① 訳「日本語では，英語の場合に比べて多くのことを言わないままにしておく」 第2パラグラフの第3～5文と一致。

② 訳「日本で暮らす外国人はたいてい，もしもその友人のほとんどが自分の母国語で話してくれれば，より満足する」 本文で言及されていない。

③ 訳「日本では外国人は似たような暮らしをし，似たような職業経験をしがちである」 第1パラグラフ第3～4文と矛盾。

④ 訳「日本に長期間住んでいる者は，ふつう日本人とはどのような人たちなのかについての説明を必要としない」 第5パラグラフ第6文と一致。

⑤ 訳「アメリカ出身の人々は，日本に来るときは箸の使い方を覚える必要がある」 第3パラグラフ最終文と矛盾。

語　句

l.3 **in harmony**「仲良く」 *cf.* in harmony with nature（自然と調和して）

l.4 **fall into one simple pattern**「1つの単純なパターンに収まる」

l.7 **speak for** ～「～の意見や気持ちを代弁する」

l.9 **offer a few observations about** ～「（観察に基づいて）～についての見解を

いくつか述べる」 動詞形の observe は「～を観察する，（法律など）を遵守する」のほか，observe that ... の形で「（観察に基づいて）…と述べる」という意味でも用いられる。

l. 21 **rely on other people to fill in the blanks**「相手が空白を埋めてくれるのを当てにする」〈rely on ＋人＋ to *do*〉（人が～するのを当てにする）では，〈on ＋人〉が不定詞の意味上の主語を表す。〈depend on ＋人＋ to *do*〉もほぼ同じ意味で用いられる。

l. 24 **The above is a case where ...**「上記は…する場合である」 この case は「場合」という意味。関係副詞の where は，〈場所〉を表す名詞のほか，case（場合，例）も先行詞とすることがある。

l. 28 **～ is not the case**「～は事実［本当］ではない」 この case は「事実，真相」という意味。

l. 31 **be familiar with ～**「～に精通している，慣れている」 人を主語とし，with の後には主に名詞句が続く。反対語は be unfamiliar with ～（～に不慣れである）である。

l. 39 **many of ～**「～の多く」 of の後に名詞が続く場合，名詞の前に the または所有格代名詞などを置く。*Ex. Many of* the terrorist attack victims were young children.（そのテロによる犠牲者の多くは幼い子供たちだった）/ *Many of* my classmates are interested in volunteer work.（私のクラスメイトの多くはボランティア活動に関心がある）

l. 44 **they feel less than fully accepted into ～**「～に十分に受け入れられていないと感じる」 less than fully は「（期待するほど）十分に～ない」という意味。なお，feel less than fully accepted into Japanese society は，*ll.36-37* の feel that they are always treated as outsiders in Japanese society の言い換え表現と考えることができる。

l. 48 **people with foreign backgrounds**「外国で生まれ育った人たち」 background は「生い立ち，経歴」。

文構造に注目

ll. 34-35 〈having ＋過去分詞〉（完了形の動名詞）

A more complicated issue (S) is (V) the lack of a sense of belonging (C（先行詞）)

that (関係代名詞) some foreigners (S') experience (V') after **having lived** (完了形の動名詞（having ＋過去分詞）) here for many years.

POINT 1 文全体の構造は〈S ＋ V ＋ C〉で，C ＝ the lack of a sense of belonging

（一体感の欠如）を，関係代名詞 that 以下が後ろから修飾する構造。この関係代名詞 that は，他動詞 experience の目的語の働きをしており，目的格である。the lack of ～ は「～が欠如していること」。

POINT 2 「日本に住む」という状態が長年（for many years）継続していることを表すために，完了形の動名詞として having lived が用いられている。

ll. 37-39 〈It may be that ...〉「実情は…ということかもしれない」

It may be
S V（助動詞＋ be 動詞）

that many 〔who feel shut out of Japanese society〕
接続詞 S'（先行詞） 関係代名詞 V'' C''

have limited Japanese language skills.
V' O'

POINT 1 〈It is that ...〉で「実情は…ということである」という意味の構文。is の代わりに may be を用いると控えめな推測を述べる言い方になる。*Ex. It may be that* he has missed the train.（彼はその列車に乗り遅れたのかもしれない） なお，否定文の It is not that ... は，前文の内容を受けて，「だからといって…というわけではない」という意味を表す。*Ex.* I don't agree with your idea, but *it is not that* I'm against the development project itself.（私は君の意見には賛成しないが，だからといって開発計画自体に反対というわけではない）

POINT 2 limited は過去分詞が形容詞化したもので，「限られた，制限された」という意味。ここでは Japanese language skills（日本語の能力）を修飾する。この have limited を現在完了形と見間違えると，that 節の内容は「…多くの人々は日本語の能力を制限した」となってしまい，意味が通らなくなる。

全　訳

1 最近，ますます多くの外国人が日本に住むようになっている。日本人と外国人が一緒に仲良く暮らすためには，相互理解が不可欠である。しかし，これは容易なことではない。外国人にとって日本での暮らしは１つの単純なパターンに収まらないからである。人々は，母国の文化の影響や自分自身の考え方を日本に持ち込むし，また日本でさまざまな経験をする。アメリカ出身の人間として，私はほかの国々からやってきた人たちや，アメリカ人でさえ全員の意見や気持ちを代弁することはできない。それでもやはり，母国を離れて日本にやって来て暮らしている人が直面する難題について，いくつか見解を述べてみたい。

2 まず第一に，日本文化には欧米人にとって難しい可能性があると一般に（そして正しく）理解されている部分がある。例えば，コミュニケーションの仕

方が異なる。日本語によるコミュニケーションは，英語によるコミュニケーションよりも背景に頼る傾向がある。理解してもらうために，状況の詳細のすべてを説明する必要がないことが多い。２人の人が話をしているとき，２人はどちらも会話の話題に関する状況がわかっているので，詳しい説明がなくても相手が伝えたいことをしばしば理解することができる。その一方，英語では，より多くの情報を提供し，相手が空白を埋めてくれるのを当てにしないのが普通である。また，日本人なら失礼に聞こえないように避けがちな話し方で，率直に話すのが普通である。

3　上記は予想が現実と一致する場合であるが，日本にいる外国人が直面する障害に関しては，誤った考えもいくつかある。私は，日本人が「室内で靴を脱いだり箸を使えるようになったりするのは，外国人にとっては難しいに違いない」と言うのを聞いたことがある。実際は，これは事実ではない。家や学校，職場で靴を脱ぐというのはそれほど複雑な種類の行為ではないし，外国人にとって重大な障害をもたらすものではない。それにアメリカからやって来る多くの人たちは，箸を使うことにすっかり慣れている。アメリカ国内の和食や中華料理やその他のレストランで箸を使う機会が多いからである。

4　もっと複雑な問題は，長年日本で暮らした後で，一部の外国人たちが経験する一体感の欠如である。「古参」の中には，日本での暮らしに満足している者もいるが，日本の社会において常に部外者として扱われていると感じる者もいる。日本の社会から締め出されていると感じる多くの人たちは，日本語の能力が限られているのかもしれない。日本での暮らしに満足していないと私に言う人たちの多くは，友人たちがたいてい英語を話す人であることに私は気づいた。そのような環境では，彼らはより高度な日本語能力を向上させることはできない。このために，彼らは日本人の大多数と効果的に意思を伝え合うことができず，日本の社会に十分に受け入れられていないと感じるのも不思議ではないだろう。

5　しかしながら，この問題の原因は語学能力の欠如だけではない。日本人の中には，自分たちと外国で生まれ育った人たちとの間に隔たりを作りかねないような考え方や話し方をする者もいる。例えば，日本で10年ないし20年暮らした後でさえ，外国人には日本人のことが十分に理解できないと考えている人もいるようである。このように考える人たちは，しばしば日本人とはどのような人々かについて外国人に説明するかもしれない。そのような説明は親切心からのものであるし，確かに日本に来たばかりの人たちにとっては有益な場合もある。しかし，10年間，あるいはそれ以上の年数を日本で暮らしてきた古株の外国人は，そのような説明を聞いて益になることはない。実はむしろ，そうした説明は日本人と外国人との間に目に見えない障害を作り出しかねないのである。

演習問題 11

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1	序論	地球温暖化のために，南極の氷が減少。（❸ **rising temperatures** as a result of **global warming** are causing **the ice in Antarctica to disappear** at a disturbing rate） ↓ ペンギンの個体数の激減。（❻ the enormous changes that are taking place in **the penguin populations**） 個体数が過去30年間で50％にまで減少しているものもある。（❼ Some of the **populations** have declined up to 50 percent in the last 30 years.）
2	本論(1)	《主題文》ペンギンにとって生き残ることはこれまでも常に難題であったが，気候変動がそれをいっそう困難にしている。（❶ It has always been a challenge for penguins to survive, **but climate change** has made it still more difficult.） ◎ペンギンの幼鳥の生存が難しい理由 ①捕食動物（predators）に食われてしまう。（❹～❼） ②消滅しつつある南極の氷。（❽ **the disappearing ice**　＊第２パラグラフの最終文で理由②を示し，第３パラグラフでその問題をさらに掘り下げる展開。）
3	本論(2)	《問題提起》なぜ消滅しつつある氷がペンギンにとって脅威なのだろうか？（❶ Why is **disappearing ice** a threat to penguins?） （理由）氷は南極におけるあらゆる生命の源だから。（❷ **ice** is the source of all life in Antarctica） ◎なぜ南極の氷の消滅がペンギンの個体数減少に拍車をかけているのか？（❸～❽） 地球温暖化が原因で氷が減る。→氷の上や下に生えている藻（algae）を食べるオキアミ（krill）がいなくなる。→オキアミを主食とするペンギンの個体数が減少。
		私たちが心配すべきは，ペンギンの個体数の減少だけではなく，地球の健康状態である。（❺ **it is not just** the **penguins** we have to worry about**; it is the health of the planet itself**）

4	結論	結論：地球上で自然が保たれた最後の場所である南極大陸でペンギンが徐々に姿を消しつつある。 →手遅れにならないうちに地球温暖化の影響に注意を払うべきである。(❼ In Antarctica, the last wilderness on earth, **the gradual disappearance of the penguins** is a serious warning to us to pay attention to **the effects of global warming** before it is too late.)

解答

問1 ①
問2 ④
問3 氷が減るとペンギンの主食のオキアミがより寒い地域に移動するため，生まれるペンギンの数が減少するから。(50字)
問4 ①
問5 ④

設問解説

問1 第1パラグラフの要旨は，「地球温暖化によって南極の氷が減少しており，そのためペンギンの個体数が激減している」のようにまとめることができる。選択肢①の後半部（global warming is a serious threat to them）は，この要旨と一致する。さらに，選択肢①の前半部（Although penguins are not likely to vanish soon）の内容は，第6文前半部（Although the penguins are probably not going to go extinct in the immediate future）と一致する。

選択肢の訳 ① ペンギンはすぐには消滅しそうにはないが，地球温暖化がペンギンに対する深刻な脅威となっている。 ② 南極大陸のペンギンの9種以上が地球温暖化により，脅威にさらされている。 ③ 大気の温度がペンギンにとって高過ぎる状態になりつつあるので，ペンギンは消滅しつつある。 ④ 世界中にいるペンギンの少なくとも半数が今までに捕獲されているので，ペンギンは危機に瀕している。

問2 第2パラグラフでは，ペンギンが生き残ることが難しい原因を2つ述べている。1つは陸上や海中の捕食動物に食べられてしまうことで，第4文（Some are eaten by foxes, snakes, and birds of prey.）および第6文（About half of the chicks that reach the water are eaten by hungry predators after they dive in.）で説明されている。もう1つの原因は，消滅しつつある氷で，これについては最終文（What is more, now the penguin chicks that do survive face

another danger — the disappearing ice.）に述べられている。以上の主旨と一致する④が正解。

選択肢の訳 ① 海辺に到達したペンギンのほとんどすべては，ヒョウアザラシ，アシカなどの捕食動物に食べられてしまう。 ② 気候変動はペンギンにとって新しい難題であるが，その本来の強靱さによって生存し続けるだろう。 ③ 南極海に向けて出発するペンギンの幼鳥の半数は，夏の始めまでに海辺に到達する。④ ペンギンの幼鳥が生存し続けるのが困難なのは，捕食動物や消えつつある氷のためである。

問3 下線部の Why is disappearing ice a threat to penguins?（なぜ消滅しつつある氷がペンギンにとって脅威なのだろうか）の答えは，第3パラグラフの次の2文に書かれている。

- 第7文後半：... a large reduction in sea ice, which has resulted in the krill moving to other, colder places, away from the penguins.
- 第8文：And since krill is the main diet for penguins, this has meant fewer penguin births.

問4 最終文（In Antarctica, the last wilderness on earth, the gradual disappearance of the penguins is a serious warning to us to pay attention to the effects of global warming before it is too late.）は，パラグラフの主題文である。つまり，筆者の一番言いたいことを要約して述べた文である。この文の主旨と一致するのは，選択肢①の後半部 their decline is a sign of the larger threat of global warming to planet Earth. である。なお，選択肢①の前半部 Although few people are concerned about the penguins in Antarctica の内容は，第4パラグラフの第1文（Unfortunately, not many people notice or care about the threat to the penguins.）と同じである。

選択肢の訳 ① 南極大陸のペンギンのことを心配する人はほとんどいないが，その数の減少は地球温暖化が地球にもたらすより大きな脅威の前兆である。② チーターやライオンや象は世界に多くは残っていないので，多くの人々がそれらは危機に瀕していることに気づいている。 ③ 南極大陸でペンギンは消滅しつつあるが，多くの人はペンギンが危機に瀕していることに気づいていない。④ 科学者たちの意見は，気候変動は地球の環境にとって深刻な脅威ではないと信じる人たちの意見と異なる。

問5 第1～4の各パラグラフの要旨については，【パラグラフの構造】を参照。いずれのパラグラフでも，「地球の温暖化によるペンギンの減少」について述べているので，正解は④。

選択肢の訳 ① 南極の生物と地球温暖化 ② 気候変動は南極大陸にどのよう

に影響を及ぼしているか　③ 南極大陸のペンギン種の変化しつつある生活環
④ 地球温暖化による南極ペンギンの減少

語　句

l. 1　**the world**「世界中の人々」

l. 2　**due to** ～「～が原因で」

l. 9　**in the immediate future**「ごく近い将来」

l. 11　**population**「(動物の) 個体数」 ここでは「人口」ではない。

l. 11　**up to** ～「(数値が最大) ～まで」

l. 12　**even**「いっそう，ずっと」 比較級を強める。

l. 16　**still** も比較級を強めて，「いっそう，ずっと」という意味を表す。

l. 25　**what is more**「さらに，その上」 追加を表す道しるべ語の１つ。(⇒ Key 09)

l. 26　**do** は直後の一般動詞を強調する助動詞。音声では，この do は強く発音される。

l. 37　**result in** ～「～という結果になる」 *cf.* result from ～「～に起因する」

l. 40　**not many people** ～「～する人は多くない」〈not many + 複数名詞〉はふつう文の主語となる。なお，この文は There are not many people who ～ で書き換えられる。

l. 43　**in large numbers**「数多く，多数で」 *Ex.* Refugees are arriving *in large numbers* at the border city.（その国境の都市には難民が大量に押し寄せている）

l. 44　**the general public**「一般の人々」

l. 46　**the planet**「地球」 planet の基本的な意味は「惑星」であるが，the, this, our などの語が前に置かれると，「地球」の意味になる場合がある。

文構造に注目

ll. 28-29　譲歩を表す〈形容詞 + as + S + V〉

Strange　as　it　may seem, ice is the source of all life in Antarctica.
C'（形容詞）接続詞 S'　助動詞 + V'　S V　C

POINT　Strange as it may seem は「不思議に思えるかもしれないけれども」という意味。as は「～だけれども」という〈譲歩〉の意味で用いるときは，必ず〈形容詞 + as + S + V〉のように語順が倒置された形で用いる。as の代わりに though を用いて普通の語順に書き換えると，Though it may seem strange とな

る。*Ex. Dark as it was* [≒Though it was dark], we were still able to see the sign.（暗かったけれども，まだ標識は見ることができた）

ll. 46-48 〈whether or not + S + be 動詞 + C〉「S が～であるかどうか」

Although some people still question whether or not climate change is really a problem.
接続詞 S' V' 接続詞 S'' V'' C''
間接疑問（名詞節）

scientists say that we have all the information ( ) we need to confirm that it is.
S V 接続詞 S' V' O' that 省略 S'' V'' to 不定詞（～するために） 接続詞
it = climate change is a problem

POINT 1 動詞 question の目的語の位置に，間接疑問の〈whether or not + S + be 動詞 + C〉（S が～であるかどうか）が置かれている。なお，whether or not の or not は間接疑問の最後に置かれることもある。*Ex.* They discussed *whether* they should report the matter to the police *or not*.（彼らはその件を警察に通報すべきかどうか話し合った）

POINT 2 say that ... 以降の文構造を読み間違えないように注意。we need to confirm ～ は「私たちは～を立証する必要がある」ではなく，「～を立証するために私たちが必要とする」という意味で，all the information と we need の間には関係代名詞 that が省略されている。また，文末の it is は，文前半の climate change is really a problem を受けたもの。it は climate change を指し，is の後には a problem が省略されている。

全　訳

1 ペンギンは，何世紀もの間，世界中の人々の想像力をかき立ててきた生物であるが，今や絶滅危惧種となっている。これは南極で起きている深刻な変化のせいである。科学者たちによると，地球温暖化の結果としての気温上昇が南極の氷を衝撃的な速度で消滅させている。このことは，世界で18種類いるペンギンの少なくとも半数の未来に，そしておそらくその存在自体に悪影響を及ぼしている。オックスフォード大学のペンギン学者トム・ハートは「ペンギンは重大な問題に直面しています」と語る。ペンギンは，おそらくごく近い将来に絶滅することはないだろうが，科学者たちはペンギンの個体数に起きている大きな変化を非常に心配している。その個体数が過去30年間で50パーセントにまで減少しているものもある。その変化がいっそう劇的な場合もある。ある島では，子を産むペンギンの数が1940年代の170万羽から今日では約10万羽にまで減少している。

2 ペンギンにとって生き残ることはこれまでも常に難題であったが，気候変

動がそれをいっそう困難にしている。夏の終わり頃，南極にすむペンギンの大部分は，新しく生まれた幼鳥を南極海の水域の方へと押しやり始め，そこで幼鳥は初めて泳ぎを経験することになる。しかし，科学者たちによれば，実際に海まで到達できるペンギンの幼鳥はわずか約50パーセントに過ぎないという。一部の幼鳥はキツネやヘビや猛禽類に食われてしまう。そして，海まで到達できた幼鳥の多くも生き延びることはない。海までたどり着いた幼鳥の約半数は，海に飛び込んだ後で，飢えた捕食動物に食われてしまう。こうしたヒョウアザラシ，シャチ，アシカ，サメなどの捕食動物は狩りに熟達しているため，生まれたての幼鳥が彼らから逃れるのは難しい。その上，実際に生き延びたペンギンの幼鳥は，今度は別の脅威に直面する。それが消滅しつつある氷である。

3　なぜ消滅しつつある氷がペンギンにとって脅威なのだろうか。不思議に思えるかもしれないが，氷は南極におけるあらゆる生命の源なのである。藻は氷の上にも下にも生えていて，その下に集まるごく小さなエビに似たオキアミに餌場を提供している。オキアミは，魚，鳥，クジラ，そしてペンギンを含む何百という様々な動物の主食である。オキアミがいなければ，南極にすむ生物の大部分はすっかり姿を消してしまうことだろう。しかし憂慮すべきことに，最近の研究によれば，南極のオキアミの量は1970年代以来80パーセントも減少している可能性があるという。気候変動による南極の気温上昇が海氷の大幅な減少を引き起こし，その結果，オキアミはペンギン（の生息域）から遠く離れた，ほかのもっと寒い地域に移動してしまったのである。そしてオキアミはペンギンの主食なので，結果として誕生するペンギンの数は減少しているのである。

4　不幸なことに，ペンギンにとっての脅威に気づいたり，心配したりする人は多くはない。「チーターやライオンがハンターの餌食になったり，象の数が減ったりすると，人々はひどく動揺します。しかし，ペンギンは世界のいくつかの地域に数多く生息するため，人々はその数が減っていることを見落としています。一般の人々は，ペンギンが消滅しつつあるということを認識していないのです」とハートは言う。そして私たちが心配しなくてはならないのは，ペンギンだけではなく，地球自体の健康状態なのだ。気候変動が本当に問題なのかどうかをいまだに疑う人たちもいるが，科学者たちは，それが確かに問題であることを立証するのに必要な情報はすべてそろっていると言う。地球上で自然が保たれた最後の場所である南極大陸でペンギンが徐々に姿を消しつつあることは，手遅れにならないうちに地球温暖化の影響に注意を払うべきだという，私たちに対する深刻な警告なのである。

演習問題 12

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1	序論	列車のコンパートメントでお互いに見知らぬイギリス人２人が面と向かい合って座ったとき，何が起きるか？ →天気のことについて話し始める。(❶ Everyone knows what is supposed to happen when two Englishmen who have never met before come face to face in a railway compartment — they start talking about the weather.) 《問題提起》ほとんどの人は天候状態の分析に特に興味があるわけではないから，この種の会話にはほかの理由があるに違いない。(❸ Most people ... are not particularly interested in analyses of climatic conditions, **so** there must be other reasons for **conversations** of this kind.)
2	本論(1)	イギリス人が天気のことについて話し始める理由①：話すことにより，コンパートメント内の気まずさが解消され，相手とある種の人間関係を結ぶことができる。(❶ it can often be quite embarrassing to be alone in the company of someone you are not acquainted with and *not* speak to them. →❸ by talking to the other person about some neutral topic like the weather, it is possible to **strike up a relationship** without actually having to say very much)
3	本論(2)	イギリス人が天気のことについて話し始める理由②：相手の人を会話に引き込む（❺ engage them in **conversation**）ことによって，相手のなまりや話し方から，その人の出身地や経歴に関する情報を得ることができる。(❽ Our **accent** and our **speech** generally show where we come from, and what sort of background we have.)
4	結論	社会的見地から見て重要な言語行動の２つの面（❶ These **two aspects of language behaviour** are very important from a social point of view) ①社会的関係を築く際の言語の機能（❶ **first**, the function of language in establishing **social relationships**) ②話し手についての情報を伝える際に言語が果たす役割（❶ **second**, the role played by language in conveying

		〜 **information about the speaker**) 言語と社会の間に密接な相互関係があるという事実を反映している。(❷It is clear that both these aspects of **linguistic behaviour** are reflections of the fact that there is a close inter-relationship between **language** and **society**.)

解 答

問1 weather

問2 1つの解釈は，知らない人と一緒に2人だけでいるのに，その人にまったく話しかけないのは，しばしばかなり気まずくなりかねないというものである。

問3 相手がどのような仕事をしているのかとか，どういう社会的地位にいるのかについての情報。
〔別解〕相手の職業と社会的地位についての情報。

問4 こうした事柄は，相手が何を言ったかよりも，むしろそれをどのように言ったかから知ることができよう。
〔別解〕こうした事柄は，相手の話の内容よりも，むしろ話し方から知ることができよう。

問5 話し相手と社会的関係を築いたり，話し手についての情報を伝えたりする，言語が持つ2つの機能［役割］。

問6 ①・③

設問解説

問1 下線部(1)の climatic conditions は「天候の状態」という意味。第1パラグラフ第1文の文末に出てくる weather とほぼ同じ意味。

問2 explanation の基本的な意味は「説明」であるが，ここでは「解釈」という意味。it は to be alone ... 以下を受ける形式主語である。alone は「〜だけで」という意味であり，ここでは「2人だけで」でと訳すのが適切。in the company of 〜 は，「〜と一緒に」という意味。イタリック体の not は否定を強調するので，「まったく〜しない」と訳すとよい。someone you are not acquainted with（あなたの知らない人）は，男性か女性かわからないため，代名詞は them で受けている。

問3 下線部(3)の this kind of information（この種の情報）は，直前の文で，相手について知りたい事柄の例として挙げられている what sort of job they

do and what social status they have を指す。

問4 not so much *A* as *B* は「A というよりむしろ B」という意味。なお，文頭の He は前文の The first person を指し，後方のイタリック体の *he* は the other person を指す。

問5 下線部(5)の These two aspects of language behaviour は「言語行動のこれら２つの面」という意味。その１つ目は第２パラグラフで，２つ目は第３パラグラフでそれぞれ詳しく述べられている。解答する際は，この２つのパラグラフの要旨をまとめた第４パラグラフ第１文の後半部（first, the function of language in establishing social relationships; and, second, the role played by language in conveying information about the speaker）を参照する。列挙に用いられる道しるべ語の first と second にも注目する（⇒Key 09）。

問6 ① 第２パラグラフ第３文 However, by talking to the other person about some neutral topic like the weather, it is possible to strike up a relationship without actually having to say very much.（しかしながら，天候のような当たり障りのない話題について相手の人に話しかけることで，実際にはあまり多くのことを話す必要なしに，（その人と）ある種の関係を築くことができる）と矛盾する。

② 第２パラグラフ第５文 Language is not simply a means of communicating information ....（言語は…単なる情報の伝達手段であるだけではない），および第６文 It is also very important means of establishing and maintaining relationships with other people.（言語は，ほかの人といろいろな関係を築き，その関係を維持するための極めて重要な手段でもある）に合致する。

③ 第２パラグラフ第７文 Probably the most important thing about the conversation between our two English people is not the words they are using, but the fact that they are talking at all.（今話題にした２人のイギリス人の会話でおそらく最も重要なことは，彼らが用いている言葉ではなく，ともかく話をしているという事実なのである）と矛盾する。the words they are using の意味は，「彼らが用いている言葉」，つまり，「彼らの会話の内容」である。

④ 第３パラグラフ第２文中の ... the first English person ... would like to get to know certain things about the second — for instance what sort of job they do and what social status they have.（一方のイギリス人が，もう一方の人についてある事柄——例えばどのような仕事をしているのかとか，どういう社会的地位にいるのかについて…知りたいと思う），および第３文

Without this kind of information he or she will not be sure exactly how to behave towards them.（この種の情報がないと，相手の人に自分がどのように振る舞ったらいいのか，しっかりと確信が持てないだろう）と合致する。ちなみに，第２文と第３文は因果関係にあり，第２文が帰結で，第３文がその理由である。

⑤ 第３パラグラフ第７文後半 whenever we speak we cannot avoid giving our listeners clues about our origins and the sort of person we are（私たちが何かを話すときはいつでも，自分の生まれやどのような人間なのかということについての手がかりを，聴き手に与えないわけにはいかない）に合致する。

語　句

l. 1 **is supposed to happen**「起こることになっている」 be supposed to *do* は「（習慣や規則などにより）～することになっている」の意。

l. 3 **compartment**「（列車の）コンパートメント，仕切られた客室」 １両の列車がいくつかの客室に仕切られ，それぞれの客室に数人用の座席が向かい合うように作られているもの。

l. 5 **though**「でも，しかし」 though の副詞用法で，文中または文末で用いられる。

l. 10 **take place**「起こる，発生する」

l. 12 **strike up**「（関係などを）築く，開始する」

l. 19 **our**「例の，今話題にした」

l. 23 **get to know**「知るようになる」 get to *do* は「～するようになる」という意味。

l. 28 **hardly**「とうてい～ない」 hardly の基本的な意味は「ほとんど～ない」であるが，「とうてい～ない」という強い否定を表すこともある。

l. 31 **then**「それなら，そうすれば」

l. 37 **certain of** ～「～のいくらか，～の幾分か」

l. 39 **opinion**「意見，評価」

文構造に注目

ll. 17-18 共通構文：(A + B) X

It is also a very important means of establishing and maintaining
S V C 動名詞① 動名詞②
relationships with other people.
2つの動名詞の共通の目的語

POINT relationships が動名詞 establishing と maintaining の共通の目的語になっている。このように，文中の１つの語句がほかの２つ（以上）の語句と共通の関係を持つことがあり，このような文を共通構文という。その形式には次の２つがある。

① (A + B) X の型：共通の語句（X）が後に来る場合で，establishing and maintaining relationships はこれに該当する。establishing が A，and が +，maintaining が B，relationships が共通の語句 X である。つまり，(establishing + maintaining) relationships である。*Ex.* We believe in government by and for the people.（私たちは人民による人民のための政治を支持する）では，by が A，and が +，for が B，the people が X である。つまり，(by + for) the people である。

② X (A + B) の型：共通の語句（X）が前に来る場合。*Ex.* I don't know where to go and what to do.（どこに行くべきかも何をすべきかもわからない）では，know が X，where to go が A，and が +，what to do が B である。つまり，know (where to go + what to do) である。

全　訳

1　以前に会ったことがない２人のイギリス人が，列車のコンパートメント（仕切られた客室）で面と向かい合って座ったとき，どういうことが起こることになっているか誰でも知っている。その２人は天気のことについて話し始めるのだ。場合によっては，このような話になるのは，この２人がただ単に天気という話題にたまたま興味があったからかもしれない。ところが，ほとんどの人は天候状態の分析に特に興味があるわけではない。そうすると，この種の会話にはほかの理由があるに違いない。

2　１つの解釈は，知らない人と一緒に２人だけでいるのに，その人にまったく話しかけないのは，しばしばかなり気まずくなりかねないというものである。会話がないと，雰囲気は相当ぎこちないものになりかねない。しかしながら，天候のような当たり障りのない話題について相手の人に話しかけることで，実際にはあまり多くのことを話す必要なしに，（その人と）ある種の関係を築くことができる。列車のコンパートメント内でのこの種の会話は，言語がしばしば果たす重要な社会的機能を示すよい例の１つである。言語は――天気であろうと，ほかのどのようなことが話題であろうと――単なる情報の伝達手段であるだけではない。言語は，ほかの人といろいろな関係を築き，その関係を維持するための極めて重要な手段でもあるのだ。今話題にした２人のイギリス人の会話でおそらく最も重要なことは，彼らが用いている言葉ではなく，ともかく話をしているという

事実なのである。

3　第二の解釈もある。一方のイギリス人が，もう一方の人についてある事柄――例えばどのような仕事をしているのかとか，どういう社会的地位にいるのかということについて，おそらく無意識のうちに知りたいと思うことも大いにあり得る。この種の情報がないと，相手の人に自分がどのように振る舞ったらいいのか，しっかりと確信が持てないだろう。もちろん，一方の人は，相手の人についてその服装や目に見えるそのほかの手がかりから，賢い推測を行うことができるが，少なくともこの段階の関係では，相手の社会的背景について直接質問することはとうていできない。できることと言えば，相手の人を会話に引き込むことである。そうすれば，最初に話しかけた人はおそらくその相手についてのある事柄がごく簡単にわかる可能性が高い。こうした事柄は，相手が何を言ったか（話の内容）よりも，むしろそれをどのように言ったか（その話し方）から知ることができよう。というのは，私たちが何かを話すときはいつでも，自分の生まれやどのような人間なのかということについての手がかりを，聴き手に与えないわけにはいかないからである。たいていの場合，私たちの言葉のなまりや話し方は，私たちの出身地や経歴を明らかにする。自分の考えや姿勢の幾分かを示すことさえある。そして，こうした情報のすべてが話している相手に利用されて，私たちについての意見を形成する手助けになるのである。

4　言語行動のこれら２つの面は，社会的見地から見ると極めて重要である。第一は社会的関係を築く際の言語の機能であり，第二は話し手についての情報を伝える際に，言語が果たす役割である。こうした言語行動の２つの面は，ともに，言語と社会の間に密接な相互関係があるという事実を反映するものであることは明らかである。

演習問題 13

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1	序論	アメリカ人の親から投げかけられる疑問：アメリカ在住の中国人の親たちは，どのようにしてそれほど成功する子供を育てることができるのか？（❶ A lot of people wonder how **Chinese parents** in America are able to raise such successful **children**.） ↓ 《筆者の問題提起》中国人の親と欧米人の親では，その子供の教育方法にどのような違いがあるのか？（❺ how do **Chinese parents** differ from **Western ones** (= parents)?）
2	本論(1)	中国人と欧米人の考え方の違い① 欧米人の親は子供の心の健康に気を遣うが，中国人の親は子供の弱点ではなく長所により重点を置く。（❹ **Western parents** are concerned about their children's mental health, **while Chinese parents** focus more on their children's strengths, not weaknesses.）
3	本論(2)	中国人と欧米人の考え方の違い② 中国人の親の子供に対する考え方：子供はそのすべてが親のおかげであり，…生涯を親に恩返しして過ごさなければならない。（❶ **their children** owe them everything and that they must therefore spend their lives repaying **their parents** ...）
4	本論(3)	中国人と欧米人の考え方の違い③ 中国人の親は，自分は子供にとって何が最善かを知っていると信じており，そのため子供自身の願望や好みのすべてを無視する傾向がある。（❶ **Chinese parents** believe that they know what is best for **their children** and therefore tend to ignore all of their children's own desires and preferences.）
5	本論(4)	筆者自身の体験談 7歳の末娘ルールーが「小さな白いロバ」というピアノ曲をなかなか弾けなかったときの筆者の娘への姿勢。 ・筆者の話を聞いた人の反応：筆者のことを「理不尽な振る舞いをしていた」（⓮ I was being unreasonable）と考える。

		・筆者自身の考え方：本当に彼女にやる気を起こさせようと努めていただけ。(⓮ I was really only trying to motivate her)
6	結論	筆者がルールー（Lulu）に厳しく接した理由：自分がどのようなことに能力があるのかを知ることは子供にとって大切だと思ったから。(❶ I felt it was important for them to learn what they were capable of) ◎中国人である筆者の教育方針（❷・❸）

解　答

問１　数学や音楽に非常に優れた子供たち

問２　欧米人の親は子供の心の健康に気を遣うが，その一方で，中国人の親は子供の弱点ではなく長所により重点を置く。

問３　筆者は子供には親に恩返しする義務があると考えるが，夫は子供には親に対する義務は何もないと考える。(48字)

問４　中国人の親は，自分は子供にとって何が最善かを知っていると信じており，そのため，子供自身の願望や好みのすべてを無視する傾向がある。

問５　④

問６　できないと思っていたことを，努力してやってみたらうまくできるようになった体験。(39字)

設問解説

問１　下線部(1)を含む第１文は，第２文の前半部で具体的に言い換えられている。これらの２文の対応関係は次のとおりである。特に各文末の太字に着目する。

A lot of people wonder how Chinese parents ... to raise such **successful children**.

＝They wonder what these parents do to produce ... **children who are really good at math and music**,

問２　while は「その一方で」という意味で，対比を表す道しるべ語の１つ（Key 12 ・ Key 13 ）。focus on ～ は「～に重点を置く」の意。

問３　筆者の見解は，第３パラグラフ第１文の中間部 they (= children) must therefore spend their lives repaying their parents ...（生涯を親に恩返しして過ごさなければならない）に書かれている。夫の見解は，最終文 Children

don't have any duty toward their parents.（子供は親に対して何の義務もない）で言及されている。

問4 この文は，X (A + B) の共通構文である（⇒演習問題 12 の【文構造に注目】を参照）。Chinese parents が believe と tend の共通の主語である。チャートにすると次のようになる。

Chinese parents
X
believe that they know what is best for their children
A
and therefore
(+)
tend to ignore all of their children's own desires and preferences.
B

問5 空所(4)を含む文は，「ここに親からの［　　］を支持する話がある――つまり中国流である」という意味。この文は第5パラグラフの主題文であると推測できる。このパラグラフ全体の大意は，「この文の筆者である中国人の母親が，娘にピアノの練習を一生懸命させるために，食事や小遣いを与えないと言ったり遅くまで練習させたりして，あらゆる手段を使って厳しい態度で接した。つまり，親が娘に圧力をかけて練習を強要したのである。その結果，娘は課題の曲を簡単に弾けるようになった」ということである。したがって，正解は「圧力」を意味する④の pressure である。

問6 下線部(5)の this は，同じ文の前半の the experience ... of successfully doing something they didn't think they could do を指す（⇒Key 26）。字句通りの意味は，「できないと思っていたことがうまくできるようになった経験」であるが，文の流れに即して，「努力してやってみたら」を補充して解答例のように答えるとよい。

語　句

l. 11 **reassure *A* about *B***「B と言って A を元気づける」

l. 12 **in other words**「言い換えると」 換言を表す道しるべ語の1つ（⇒Key 18・Key 19）。

l. 15 **as a result**「その結果」 因果関係を表す道しるべ語の1つ（⇒Key 14・Key 15）。

l. 17 **their children owe them everything**「子供はそのすべてが親のおかげである」them は their parents を指す。〈owe ＋人＋物事〉で「(物事) が（人）のおかげである」という意味。

l. 19 **in contrast**「それとは対照的に」 対比を表す道しるべ語の１つ（⇒ Key 12 ・ Key 13 ）。

l. 32 **simply can't** ～「どうしても［とうてい］～できない」 否定語の直前に置かれた simply は強調の意味。

l. 36 **in favor of** ～「～を支持した，～に賛成の」

l. 40 **work on** ～「～に取り組む」

l. 48 **wouldn't leave the piano**「どうしてもピアノから離れようとしなかった」 would not で「どうしても～しなかった」という過去の強い意志を表す。wouldn't はその短縮形。*Ex.* She *wouldn't* listen to my explanation.（彼女はどうしても私の説明を聞こうとしなかった）

l. 50 **I was being unreasonable**「私が理不尽な振る舞いをしていた」 単に，I was unreasonable なら，「私は理不尽だった」という意味で，性質や人柄といった永続的なことを表す。ところが，was being unreasonable のように，〈be being ＋形容詞〉という進行形をとると一時的な行為を表し，「理不尽な振る舞いをしていた」という意味になる。類例を示す。Tom is kind. は「トムは親切だ」という意味で，トムの人柄を述べた文であるが，Tom is being kind. は，「トムは親切に振る舞っている」という意味で，トムの行為を述べた文である。

l. 52 **as for** ～「～については，～に関しては」

l. 54 **take the easy way out**「安易な解決策をとる」 way out は「解決策」の意。

文構造に注目

ll. 22-24 強調構文〈It is ～ who ...〉/ 形式主語構文〈It is ～ to *do*〉

It's parents who force life on their children,
この部分を強調　V'　O'　前置詞句
so it's parents' responsibility to provide for them.
〈It's ＋名詞＋ to ＋動詞の原形〉（形式主語構文）

POINT 1 文の前半は〈It's ～ who ...〉の形の強調構文。Parents force life on their children の主語 parents を It's と who の間に入れ，who のあとに残りの部分を続ける形となる。強調構文は〈It's ～ that ...〉の形が一般的であるが，人を表す名詞を強調したい場合は，that の代わりに who を用いることもある。

POINT 2 文の後半は〈it's ＋名詞＋ to ＋動詞の原形〉の形式主語構文。it は主語の位置に形式的に置かれているだけで，後方の to provide for them (= their children) が実質的な主語（真主語）である。*Ex. It's* a good idea for children *to learn* how to use a computer.（子供がパソコンの使い方を覚えるのは

よい考えだ）

ll. 32-35　間接疑問

They simply can't understand
S　強調　V

これ全体が understand の目的語（間接疑問）

why Western parents allow their children to waste so much time
S'1　V'1〈allow + O + to *do*〉「O（人）が～するのを許す」

surfing the Internet or playing computer games
動名詞 1　動名詞 2

and, in some ways, how badly they prepare their children for the future.
S'2　V'2　O'2

POINT　why Western parents から文末の for the future までが understand の目的語。〈why + S + V〉と〈how badly + S + V〉の２つの間接疑問から成っている。前半の why 節では〈allow + O（人）+ to *do*〉（（人）が～するの許す）と〈waste + O + (in) *do*ing〉（～して O を浪費する）にも注意。

全　訳

1　多くの人が，アメリカ在住の中国人の親たちがどのようにしてそれほど成功する子供を育てることができるのかと疑問に思う。彼らは，この親たちがそれほど多くの数学や音楽に非常に優れた子供を輩出するためにどんなことをするのか，家庭内の状況はどのようなものか，自分たちにもそれができるかなどと疑問に思う。さて，私なら彼らに教えてあげることができる。というのは，私は中国人であり，それをしてきたからである。それについての本を書くことさえした。それでは，中国人の親は欧米人の親とどう違うのだろうか。

2　基本的に，中国人と欧米人の考え方には３つの大きな違いがあると思う。第一に，欧米人の親は子供の自己イメージを極度に心配することに私は気がついた。親は，子供が何かで失敗したらどう思うかを心配し，テストで平均点しか取っていないのに，どんなに優れているかということを言って子供を元気づけようといつも努力する。言い換えると，欧米人の親は子供の心の健康に気を遣うが，その一方で，中国人の親は子供の弱点ではなく長所により重点を置く。その結果，両者は子供に対してきわめて異なる態度をとる。

3　第二に，中国人の親は，子供はそのすべてが親のおかげであり，したがって生涯にわたって親に従い，親を誇らしい気持ちにさせることにより，生涯を親に恩返しして過ごさなければならないと信じている。それとは対照的に，たいていの欧米人はそれと同じ見解を持っていないと私は思う。事実，私のアメリカ人の夫は正反対の見解を持っている。彼はかつて「子供が自分の親を選ぶわけでは

ない。生まれることを選ぶことさえしない。子供に生きることを強いているのは親なのだから，子供を養うのは親の責任である。子供は親に対して何の義務もない」と言ったことがある。

4　第三に，中国人の親は，自分は子供にとって何が最善かを知っていると信じており，そのため，子供自身の願望や好みのすべてを無視する傾向がある。そういうわけで，中国人の娘たちは高校でボーイフレンドを作れないし，中国人の子供たちは泊まりがけのキャンプにも行けないし，学校の演劇にも参加できない。しかしながら，中国人の親は子供のことを気にかけていないというわけではない。事実，それはまさに正反対なのである。子供のためなら，どんなことでもあきらめるだろう。それは，ただ育児規範がまったく異なるというだけのことなのである。中国人の親は，なぜ欧米人の親が子供にネットサーフィンやパソコンゲームをするのにそれほど多くの時間を浪費するのを許すのか，またいくつかの点で，いかに不適切に子供に将来に対する準備をさせているのかがどうしても理解できないのだ。

5　ここに，親からの圧力を支持する話がある――つまり中国流である。私の末娘のルールーは７歳くらいで，「小さな白いロバ」というピアノ曲を習おうとしていた。その曲は本当にかわらしい曲なのだが，幼い演奏者にとっては本当に難しく，ルールーはそれを弾けなかった。私たちは１週間休まずにその曲を練習したが，それでも弾けるようにならなかった。とうとう，ルールーはあきらめると言い出した。私はそれに答えて，昼食も夕食もお小遣いもあげないわよ，と彼女に言った。それでも彼女は相変わらずそれを正しく弾くことができなかったので，私は彼女に，「おまえは自分にはできないのではないかとひそかに恐れているのだ」と言った。私は彼女に，怠惰になったり自己中心的になったり弱気になったりするのはやめなさいと言った。私は思いつく限りのあらゆる手段を用いた。例えば，夕食を抜かせて，夜遅くまで練習させたりした。家は戦場になり，私は大きな声を出し過ぎて声が出なくなった。すると，突然，ルールーはそれをうまく弾いた。「ママ，見て。簡単よ」と，笑みを浮かべて言った。それ以後，彼女は何回もその曲を弾きたがり，どうしてもピアノから離れようとしなかった。この話を聞くと，人はショックを受けて，私が理不尽な振る舞いをしていたと考える。しかし，私は本当に彼女にやる気を起こさせようと努めていただけなのである。

6　私がなぜそれほど子供に厳しかったのかについては，それは自分がどのようなことに能力があるのかを知ることが子供にとって大切であると思っていたからである。それは残酷に聞こえるかもしれないが，子供が安易な解決策に頼れるようなことがあっては絶対にいけないのである。子供はできないと思っていたこ

とがうまくできるようになったという経験を一度でもすれば，そのことから学んだ教訓は，その後の一生の間ずっと彼らの心の中にとどまることだろう。

演習問題 14

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1	序論	「本音」と「建前」のような無意識のうちに作用している概念を理解することは，異文化間コミュニケーションの機会が増大する日本人にとって極めて重要。(❷ In intercultural communication, the Japanese need to be familiar with the customs and attitudes of non-Japanese people, **but** they need to understand their own cultural values ... many of which operate at unconscious levels. ❸ One such set of concepts, which is fundamental to Japanese life, is ***honne*** and ***tatemae***.)
2	本論(1)	◎「本音」と「建前」の定義 「本音」：人の深い動機や意図。 「建前」：社会的に調整された（＝多数派の規範によって形成され，奨励され，あるいは抑制された）動機や意図。 (❹ ***Honne*** is one's deep motive or intention, **while** ***tatemae*** refers to motives or intentions that are socially-tuned, those that are shaped, encouraged, or suppressed by majority norms.)
3	本論(2)	日本では自分の本当の気持ちや意図を直接表さないことが美徳と見なされており，日本人は「本音」と「建前」を使い分けるのが当然だと考えている。(❷ the Japanese people ... taking ***honne*** and ***tatemae*** for granted in daily life because it is considered a virtue **not to directly express one's real feelings and intentions**) ↕ 異文化間の問題では，この相反する２つの考えが混乱や誤解を招き，コミュニケーションにおける深刻な障害となりかねない。(❸ In intercultural affairs, **however**, this dichotomy can be a serious obstacle to communication because it creates confusion and misunderstandings.)
		❶「本音」と「建前」が日本でどのように機能しているかを理解する

4	本論(3)	ためには，日本人の生活において直接的表現を嫌うこと（a dislike of **direct expression**）や調和と形式を重んじること（the importance of **harmony** and **ceremony**）など，特定の日本文化の特質（certain Japanese cultural characteristics）を調べることが重要。 （例）日本で誰かの家を訪ね，夕食の時間になって，「ご一緒に夕食をいかがですか」（❸ "Won't you dine with us?"）と言われたら，これは誘いではなく，「そろそろお帰りください」（❹ it is time to go home）ということを遠まわしにほのめかしている。
5	本論(4)	建前は「和」の精神（＝調和に対する深い尊重の念）を維持し，快適な雰囲気をつくり出すために使われる。（❶ In Japan, there has also been, since ancient times, a great respect for **harmony**, called the spirit of ***wa***. ❷ ***Tatemae*** is used to maintain this **harmony** and create a comfortable atmosphere.）
6	結論	日本人は「本音」と「建前」を容易に，かつ巧みに使い分けるが，自分たちがこうした付き合い方に慣れていない人々の間に誤解や混乱を引き起こしかねないことにはめったに気づかない。（❷ People switch easily and skillfully between the two (=***honne*** and ***tatemae***) and are rarely aware that they can cause misunderstandings and confusion among people who are not accustomed to this way of interacting.）

解答

問1　社会的に調整された，つまり多数派の規範により形成され，奨励され，あるいは抑制された動機や意図。(47字)

問2　自分の本当の気持ちや意図を直接言い表さないことが美徳と見なされているから。

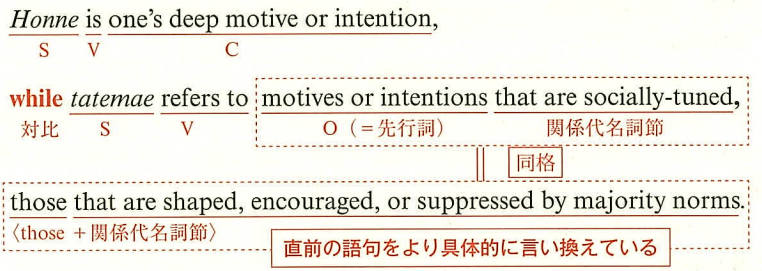
問3　客にそろそろ帰ってもらいたいという意味。

問4　日本では調和を大切にし，建前が調和を維持し快適な雰囲気をつくるために使われ，しかも社会規範と一致すること。

問5　本音と建前を容易に，かつ巧みに使い分けること。

設問解説

問1　第2パラグラフに引用されている定義の最終文で，道しるべ語 while を使って，*honne*（本音）と *tatemae*（建前）を対比しながら説明している。前半の motives or intentions that are socially-tuned が後半で those that are shaped, encouraged, or suppressed by majority norms と具体的に言い換えられている。このように，ほぼ同じ内容の2つの語句が並んでいる場合，この関係を同格と呼ぶ。ここではコンマ（,）が2つの名詞句を同格の関係で結ぶ働きをしている。このコンマは，「つまり」または「すなわち」のように訳すとよい。なお，コンマの後の those は motives or intentions を指している。



問2　下線部(1)は「日本人はそれを縦横に使いこなす」という意味で，it は前文の this distinction，すなわち「建前」と「本音」を使い分けることを指している。日本人が両者を使い分ける理由については，下線部(1)から少し後の it is considered ... feelings and intentions で述べている。形式主語の it が not to 以下の内容を指すことに注意しながら答えをまとめる。not to *do* は不定詞の否定形で，「～しないこと」と訳す。

問3　下線部(2)直後の文に，But this is not really an invitation; rather it is a subtle hint that it is time to go home. とあるので，この下線部を答える。it is time to *do* は「そろそろ～する時間だ」という意味。

問4　下線部(3)は，「『本音』は私的な場面で使われるが，『建前』は仕事上の会合など，より公的な場で使われる」という意味。その背景については，第5パラグラフ第1文（In Japan, there has also been, ... called the spirit of *wa*.）および第3文 because 以下（*tatemae* agrees with commonly accepted social standards）で説明されている。この両方の内容を踏まえて，答えをまとめる。

問5　下線部(4)の interact は，第4パラグラフ第5文にも interact socially の形で使われている動詞で，「（人と）付き合う」という意味。this way of interacting（このような付き合い方）とは，同じ第6パラグラフ第2文の前半で People switch easily and skillfully between the two (＝*honne* and *tatemae*)

（その２つ（＝本音と建前）を容易に，かつ巧みに使い分ける）と述べている箇所を指している。switch between ～ は「～を（スイッチで切り替えるように）使い分ける」という意味。

語　句

l. 4 **be familiar with** ～「～を熟知している」

l. 5 **attitude**「考え方」

l. 6 **first and foremost**「何よりもまず」 物事の優先順位などに関して用いる熟語。

l. 23 **take ～ for granted**「～を当たり前だ［当然だ］と考える」

l. 31 **ceremony**「形式」

l. 32 **express *one*self**「自分の考えを表現する」

l. 33 **for fear that** ～「～しないように，～するのを恐れて」 *Ex.* He worked hard *for fear that* he *should* fail again.（また失敗しないように彼は一生懸命に勉強した）

l. 34 **get along well with** ～「～と仲よくやる」

l. 37 **dine with** ～「～と夕食をとる」

l. 38 **To those from other countries**「外国の人々にとっては」 those は「人々」（≒ people）という意味。those from ～（～出身の人々）は those who are from ～ のように補うことができる。

l. 48 **agree with** ～「～と一致する」

l. 52 **these dual concepts**「これら２つの（相反する）概念」 *honne* and *tatemae* のこと。

l. 53 **switch easily and skillfully between the two**「その２つを容易に，かつ巧みに使い分ける」 switch between ～ は「～を（スイッチで切り替えるように）使い分ける」という意味。

l. 53 **be aware that** ～「～ということに気づいている」

l. 55 **be accustomed to** ～「～に慣れている」

文構造に注目

ll. 5-7 非制限用法の many of which「その多くは～」

they need to understand their own cultural values first and foremost,
S　V（need to *do*）　O（＝ which の先行詞）

many of which operate at unconscious levels.
S'〈数量を表す語＋ of ＋関係代名詞〉　V'

POINT which は非制限用法の関係代名詞で，その先行詞は their own cultural values である。many of which 以下は，and many of them operate at unconscious levels のように書き換えられる。〈数量を表す語＋ of ＋ which〉の of の前には，many のほか，all，some，one，both，neither などが来る。*Ex.* There are two French restaurants near my office, *both of* which are very crowded during lunchtime.（私のオフィスの近くにはフランス料理店が２軒あるが，そのどちらも昼食時はとても混雑する）

全　訳

1　日本人は最近，外国の人々とますます接触するようになっていて，自分たちのものと著しく異なる文化の価値観を持つ人々とコミュニケーションを図らなければならない。異文化間コミュニケーションでは，日本人は日本人以外の人の慣習や考え方をよく知っておく必要があるが，何よりもまず，自分たち自身の文化の価値観を理解する必要がある。その多くは無意識のうちに作用しているものである。そのような一組の概念で日本人の生活に不可欠なものが「本音」と「建前」である。

2　日本では，「本音」と「建前」という言葉がよく会話で使われるが，その概念自体はほとんど十分には理解されていない。それらは次のように定義することができる。

> これらの２語はしばしば２つの相反する考えであると見なされ，本心から出た個人の感情・意見と社会的に制御された感情・意見という点で対照的である。「本音」は人の深い動機や意図であり，その一方で，「建前」は社会的に調整された，つまり多数派の規範によって形成され，奨励され，あるいは抑制された動機や意図を表す。（『日本文化に関する英語辞典』）

3　多くの人にとって，言葉と実際の意図は必ずしも一致するわけではない。日本でのこうした状況においては，うわべだけの言葉が「建前」と呼ばれ，一方，実際の意図は「本音」と呼ばれる。この使い分けは日本にだけ見られるものではなく，ほかのほとんどの国々においても広く行き渡っているが，日本人はそれを縦横に使いこなし，日常生活で「本音」と「建前」を使い分けるのは当然だと考えている。自分の本当の気持ちや意図を直接言い表さないことが美徳と見なされているからである。しかしながら，異文化間の問題では，この相反する２つの考えが混乱や誤解を招くため，コミュニケーションにおける深刻な障害となりかねない。

4　「本音」と「建前」，そしてこれらの相反する概念が日本でどのように機能しているかを理解しようとする際は，日本人の生活において直接的表現を嫌うこ

とや調和と形式を重んじることなど，特定の日本文化の特質を調べることが大切である。日本人は，相手の感情を傷つけないように，自分の考えを単刀直入に表現するのを好まないため，自分の言うことに気を配るのが普通で，相手と仲よくやるために「建前」でものを言うことが多い。例えば，日本で誰かの家を訪ね，夕食の時間になると，「ご一緒に夕食をいかがですか」と言われることがしばしばある。しかし，これは実は誘いではなく，むしろ，そろそろ帰る時間だということを遠まわしにほのめかしているのである。これは，外国の人々にとっては紛らわしく思えるかもしれないが，日本人にとっては，人と付き合う自然なやり方なのである。そのようなわけで，「ご一緒に夕食をいかがですか」に対する適切な返事は，「どうもありがとうございます。でもお腹はすいていません」である。このような振る舞いは，日本人の生活では型どおりのものである。

5 日本にはまた，古くから「和」の精神と呼ばれる，調和に対する深い尊重の念がある。「建前」はこの調和を維持し，快適な雰囲気をつくり出すために使われる。このように，「本音」は私的な場面で使われるが，「建前」はやや形式的な行事であることが多い仕事上の会合など，より公的な場で使われる。というのは，「建前」は一般に受け入れられている社会規範と一致するからである。したがって，「建前」は人と人の間の調和を維持するための潤滑油のようなものなのである。

6 日本では，人々はこれら２つの（相反する）概念と共に育ってきているので，「本音」と「建前」の違いを理解できる。日本人はその２つを容易に，かつ巧みに使い分け，自分たちがこのような付き合い方に慣れていない人々の間に誤解や混乱を引き起こしかねないことにはめったに気づかないのだ。

演習問題 15

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1	序論	一部の言語学者の予想：現在知られている6,200の言語のうち90パーセントが今後100年間で消滅する可能性がある。(❹ Some linguists believe that of the 6,200 known **languages**, as many as 90% may **disappear** over the next 100 years.) →この予想に異論を唱える言語学者もいる。
2	本論(1)	言語が消滅する原因①：火山噴火，地震などの自然現象や病気（❸ we could note **natural phenomena such as** a volcanic eruption, earthquake, or disease that eliminates the entire population of an area and with it the **language**) (例) 16～19世紀にヨーロッパからの入植者によってもたらされた病気がアメリカ先住民の人口を劇的に減少させた。
3	本論(2)	言語が消滅する原因②：戦争などの人為的な原因（❶ man-made causes such as war) (例１) 白人入植者とアメリカ先住民との戦い（❸) (例２) 1600年代の戦いが引き起こしたアイヌ人の人口の激減（❹)
4	本論(3)	言語が消滅する原因③：科学技術や物質的な豊かさを求める欲望により，受け継がれてきた言語を放棄して英語へと乗り換える言語共同体。(❷ Technology and a desire for material wealth have caused some smaller **linguistic communities** to abandon their traditional **language** for English.)
5	本論(4)	《問題提起》❶ What do we lose when a language dies?（言語の消滅によって私たちが失うものとは？) 《３つの答え》 ・社会の文化的な慣習や儀式（❷ the **cultural practices and rituals** of that **society**) ・時間をかけてその社会が蓄積してきた知識の集大成（❷ the collective body of **knowledge** that that **society** has accumulated over time) ・世界を興味深いものにしている多様性（❸ the **diversity** that makes the world such an interesting place)

6	本論(5)	世界の言語を守るために何をすることができるか，そして何がなされているかを理解することが大切である。(❶ it ... becomes important to understand what can be done and is being done to protect the world's **languages**) ↓ 消滅危機言語（❹ endangered languages）に対する取り組み方：言語の保存（❺ language preservation）と言語の活性化（❺ language revitalization)。
7	本論(6)	消滅危機言語に対する取り組み方①：言語の保存 →生存しているその言語の話し手がほとんどいなくなるような事態に陥ったときに，言語学者によって，言語と文化に関するできるだけ多くの情報が記録される。(❶ **Language preservation** often occurs when the **language** has been reduced to very few **living speakers**. ❷ In this type of work, linguists try to record as much information about the **language** and **culture** as is possible, ...)
8	本論(7)	消滅危機言語に対する取り組み方②：言語の活性化 →言語共同体が自分たちの言語を奨励する必要性に気づいたときに起こる。(❷ **Language revitalization** occurs when there is awareness in the **linguistic community** of the need to **promote the language**.)
9	結論	自分たちの言語と文化を未来の世代のために保存することの重要性に気づく言語共同体が増えれば，それだけ言語が救われる可能性も増える。(❶ As more and more distinct **linguistic communities** realize the importance of **preserving the language and culture** of their people for future generations, more **languages** are likely to be saved.)

解 答

問1 今後の100年間で消滅する言語は，現在知られている6,200の言語のうち90パーセントにも達する可能性があるというのは人騒がせな数値であるということ。

問2 言語の消滅の原因は火山噴火や地震などの自然現象や病気や戦争による話し手の消失である。(42字)

問3　科学技術と物質的な豊かさを求める欲望のため，いくつかの比較的小さい言語共同体が従来の自分たちの言語を放棄して英語に乗り換えてしまった。
〔別解〕科学技術と物質的な豊かさを求める欲望が，いくつかの比較的小さい言語共同体に従来の自分たちの言語を放棄させて英語に乗り換えさせてしまった。

問4　lose

問5　1つは言語の保存で，言語学者が消滅危機言語についてできる限り多くの情報を記録し，その言語を保存する。もう1つは言語の活性化で，言語共同体が自分たちの言語を家庭や教育や仕事や報道機関で使うようにすることに積極的な役割を果たして言語を活性化させる。

設問解説

問1　下線部(1)は「これは人騒がせな数値である」という意味。This は，前文の of the 6,200 known languages, as many as 90% may disappear over the next 100 years（現在知られている6,200の言語のうち実に90パーセントもの言語が今後100年間で消滅するかもしれない）を指す。of the 6,200 known languages の of は，「〜のうちで」の意。as many as 〜 は，数の多さを強調する語句で，「〜もの多くの」の意。

問2　下線部(2)は「何が原因で言語は消滅するのだろうか」という意味。言語が消滅する原因として，第2パラグラフ第2文の that 節（because their speakers die）および第3文の natural phenomena ... or disease では自然現象や病気によるものを，また第3パラグラフ第1文（There are also ... such as war.）では戦争などの人為的な原因を挙げている。

問3　文構造の中心となるのは，〈S + cause + O + to *do*〉（S が O に〜させる）という不定詞構文。主語が無生物の Technology and a desire for material wealth であるため，「S が原因で O は〜する」のように，主語の部分を副詞的に訳すと自然な日本語訳となる。abandon *A* for *B* は「A を放棄して B に換える」の意。

問4　第5パラグラフは，空所（4）を含む第1文で What do we (4) when a language dies?（言語が消滅すると，私たちは何を［　　］ことになるのだろうか）と問題を提起し，その直後の第2文と第3文でその答えを提示するという流れになっている（⇒Key 06）。第2文と第3文の両方に共通する動詞 lose を入れると，前後の意味が通る。

問5 消滅危機言語（endangered languages）に対する取り組みに関して，第6パラグラフ最終文で，言語の保存（language preservation）と言語の活性化（language revitalization）の2つを挙げている。さらに，言語の保存については第7パラグラフ第2文（linguists try to record ... as is possible）で，また言語の活性化については第8パラグラフ第3文（It must be ... in the media.）で，その具体的な手法について説明している。これらの内容を踏まえて簡潔にまとめる。

語　句

l. 9 **prediction**「予測」

l. 10 **The traditional argument in linguistics is that ...**「言語学において従来論じられてきたのは…ということである」〈S + V（be 動詞）+ C（that 節）〉の構文では，S の内容を C の that 節の中で具体的に説明することになる。

l. 12 **natural phenomena**「自然現象」 phenomena は phenomenon の複数形。

l. 12 **volcanic eruption**「火山の噴火」

l. 13 **eliminate**「～を抹殺する」

l. 16 **native American tribes**「アメリカ先住民」

l. 17 **man-made**「人為的な」

l. 21 ***A* is responsible for *B***「A は B の原因である」

l. 23 **eventually**「最終的には」

l. 31 **the cost to ～**「～に与える代償」

l. 34 **cultural practices and rituals**「文化的な慣習と儀式」 cultural は practices と rituals の両方を修飾する。

l. 35 **accumulate**「～を蓄積する」

l. 36 **in addition to ～**「～に加えて」 新情報を追加する道しるべ語の1つ（⇒Key 09）。

l. 44 **simply** は否定語の前に置かれて「どうしても～ない，とうてい～ない」という意味を表す。*Ex.* I *simply can't* accept his request.（彼の要求はとうてい受け入れられない）

l. 46 **endangered language**「消滅危機言語」 話し手（speakers）がほとんどいなくなり，消滅の危機に陥っている言語のこと。*cf.* extinct language「死語」（話し手を失い，使われなくなった言語）

l. 47 **preservation**「保存」

l. 47 **revitalization**「活性化」 re-（再び）+ vitalization（活気を与えること）

l. 57 **see that ～**「～するように配慮する［取り計らう］」

l. 61 **as** ～「～するにつれて，～するとともに」 *Ex. As* time passed, things changed.（時間が経過するにつれて，状況は変化した）

l. 61 **distinct**「別個の，まったく異なる」

l. 63 **be likely to *do***「～する可能性が高い」

l. 65 **from all sides**「あらゆる方面からの」

文構造に注目

ll. 17-18 〈命令文＋ , and ＋ S ＋ V〉「～すれば，S が V する」

Eliminate the enemy, **and** you also eliminate their language.
V1 O1 S2 V2 O2

POINT この文は〈命令文＋ , and ＋ S ＋ V〉（～すれば S が V する）という形で，文全体の意味は「敵を抹殺すれば，彼らの言語も消滅させることになる」となる。If を用いて If you eliminate the enemy, you also eliminate their language. と書き換えても，ほぼ同じ意味になる。*Ex. Take* a taxi to the airport, *and* you'll be in time for your flight. ≒ If you take a taxi to the airport, you'll be in time for your flight.（空港までタクシーで行けば，フライトに間に合うでしょう）

ll. 37-38 仮定法過去の文

The world **would** be a much less exciting place
S V（助動詞の過去形＋動詞の原形） C
if 節の仮定に基づく結果の予想

if we all **spoke** a single language.
S' V'（動詞の過去形） O'
現在の事実と異なる仮定

POINT 現在の事実と異なることを仮定して述べる仮定法過去の文。文全体の意味は「もし私たちが同一の言語しか話さなかったら，この世界ははるかにつまらない所になってしまうだろう」となる。仮定法過去の文では，仮定を述べる if 節（条件節）に動詞の過去形を，仮定に基づく結果を予想して述べる主節（帰結節）に〈助動詞の過去形＋動詞の原形〉を用いる。if 節が主節より前に来ることもよくある。*Ex. If* I *had* the courage, I *could* tell him the truth.（私に勇気があれば，彼に本当のことを話せるのだが）

ll. 42-44 〈no matter how ＋副詞＋ S ＋ V〉「どんなに～しようとも」

no matter how much we might want to preserve all of the world's languages,
〈no matter how ＋副詞〉 S' V' O'（名詞的用法の不定詞）

this simply is not possible.
S 否定の強調 V C

POINT 〈no matter how ＋副詞＋ S ＋ V〉で「どんなに～しようとも」という譲歩を表す構文。*Ex.* Glass breaks easily, *no matter how* careful you are.（どんなに注意してもガラスはこわれやすいものである）

ll. 49-52 knowing that ... ：理由を表す分詞構文

linguists try to record
S V（try to *do*）
as much information about the language and culture as is possible,
O

knowing that once these remaining speakers are gone the language is dead.
分詞構文 接続詞 接続詞 S'' V'' S' V' C'
理由を表す分詞構文

POINT knowing 以下は現在分詞を使った分詞構文で，ここでは「…ということを知っているので」という理由を表す。接続詞 because や as を用いて，because [as] they know that ... と書き換えることができる。*Ex. Feeling* cold, he turned on the heater. = As he felt cold, he turned on the heater.（寒く感じたので，彼は暖房をつけた）

全　訳

1 何が原因で，言語は消滅するのだろうか。いったんある言語が消滅すると，かつてその言語を使い，その社会で暮らしていた人々や，彼らの文化にどのようなことが起こるのだろうか。これらは，今日の世界の言語の状況に興味を持つすべての人にとって重要な問題である。一部の言語学者は，現在知られている6,200の言語のうち実に90パーセントもの言語が今後100年間で消滅するかもしれないと考えている。別の言語学者たちは，これは人騒がせな数値だと考えている。彼らは，言語が消滅するスピードが以前より速まっていることには同意するが，こうした予測が示唆するほど言語の消滅が急速に進むとは考えていない。

2 それでは，何が原因で言語は消滅するのだろうか。言語学において従来論じられてきたのは，話し手が死滅すれば，言語も消滅するということである。これを示すために，ある地域の全人口を，そしてそれとともに彼らの言語をも消滅させる火山噴火や地震などの自然現象，あるいは病気を挙げることができる。16～19世紀にヨーロッパからの入植者によってもたらされた病気は，アメリカ先住民の数を劇的に減少させた。

3 さらに，戦争などの人為的な原因もある。敵を抹殺すれば，彼らの言語も

消滅させることになる。このようなことも，アメリカで起こった。西に向かって移動を続けるアメリカへの白人入植者と，彼らが遭遇した多くのアメリカ先住民との戦いである。戦争はまた，日本でアイヌ語が衰退した原因でもある。そこでは1600年代の戦いと，それに続く日本人による北海道への領土拡大，そして最終的には病気が19世紀末までにアイヌ人の人口の大多数を死滅させたのである。

4　しかしながら，今日では，今までにない形での言語の消滅が起きている。科学技術や物質的な豊かさを求める欲望のため，いくつかの比較的小さな言語共同体がそれまで受け継がれてきた言語を放棄し，英語へと乗り換えてしまった。話し手が100人しかいないかもしれない言語より英語を使ったほうが自分たちの子供が成功するチャンスは大きくなるというのが，彼らの信念である。彼らが間違っているとは言い難い。私たちはみな，子供には最善のものを望むものであるが，それが社会に与える代償のことも考慮すべきである。

5　言語が消滅すると，私たちは何を失うことになるのだろうか。その社会の文化的な慣習や儀式を失ってしまうだけでなく，時間をかけてその社会が蓄積してきた知識の集大成をも失ってしまうと私たちは考えている。知識が失われることに加えて，世界をこれほど興味深いものにしている多様性も失うことになる。もし私たちがすべて同一の言語しか話さなかったら，この世界ははるかにつまらない所になってしまうだろう。

6　言語がいかに世界の多様性に貢献しているか，そして言語（と文化）が消滅するときに何が失われるのかを認識すると，今度は，世界の言語を守るために何をすることができるか，そして何がなされているかを理解することが大切になってくる。しかし，世界中の言語のすべてを保存したいとどれほど強く望んでも，これはとうてい不可能である。話し手の少なすぎる言語があまりに多くあり，しかも時間が十分にはないのである。このことを理解した上で，消滅危機言語に対して，一般的に２つの積極的な取り組み方がある。第一は言語の保存であり，第二は言語の活性化である。

7　言語の保存は，生存しているその言語の話し手がほとんどいなくなるような事態に陥ったときにしばしば行われる。この種の作業では，言語学者はその言語と文化についてできるだけ多くの情報を記録しようと努める。残っているこれらの話し手がいなくなれば言語も消滅してしまうことを彼らは知っているからである。こうした作業のために，これは言語救済作業と呼ばれることがある。

8　第二の取り組みは言語の活性化である。言語の活性化は，言語共同体が自分たちの言語を奨励する必要性に気づいたときに起こる。その言語が家庭や教育の場や仕事や報道機関などで使われるよう配慮することに積極的な役割を果たすのは，言語共同体でなければならない。言語共同体が自分たちの言語を救済する

ことに関心がなければ，多くの場合，言語学者にできる最善のことは情報の保存である。

9 ますます多くの異なる言語共同体が自分たちの言語と文化を未来の世代のために保存することの重要性に気づくにつれて，ますます多くの言語が救われる可能性が高くなる。言語を消滅寸前の状態から復活させることは可能である。しかしながら，これには，学習者，年配者，政府，言語学者を含む，あらゆる方面からの努力が必要なのである。

演習問題 16

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1	序論	人類の移住（❷ human migration）の歴史：人類はいつも移動をしてきた。（❶ Humanity has always been **on the move**.）
2	本論(1)	現代における人類の移住はより複雑になり，男性の移住者とその家族が永久に祖国を離れ，外国の地で新生活を始めるという従来のイメージは今や過去のものとなっている。（❹ ..., **migration** has also become more complex and the traditional image of a male **migrant** and his family leaving their homeland forever to start a new life in a foreign land is now a thing of the past.）
3	本論(2)	現代における移住が従来の移住と異なる点 ・以前のような過去との決別というわけではなく，多くの移住者は国と国の間を繰り返し行ったり来たりする。（❸ **migration** is no longer necessarily a clean break with the past as it once was. ❹ Many **migrants move** repeatedly back and forth between countries ...） ・現代の移住者に占める女性の割合がますます増大している。（❺ And these days, more and more of these **modern migrants** are women.）
4	本論(3)	国際移住の目的 ・もっと金銭を稼いでもっと良い生活をしたいという欲望。（❶ the desire to earn more money and have a better life） ・戦争や迫害，自然災害により祖国を追われた難民が危険から逃れて保護と新しい生活を求める。（❷ millions of people are displaced by wars, persecution and natural disasters to become **refugees**, many of whom seek asylum and a new life away from danger） ・裕福な人がより快適な気候の国での隠居といったライフスタイル上の理由から移住する。（❸ wealthy people often **migrate** for lifestyle reasons **such as** retirement in a country with a better climate）

5	本論(4)	移住の政治問題化 ・国際レベル（the international level）：国による移住者の受け入れと制限。（❶ countries seek to admit or restrict certain types of **migrant**） ・地域レベル（the local level）：特に文化や外見が異なる場合に生まれやすい移住者と地元住民との間の社会的緊張。（❶ **immigration** can cause social tension between newcomers and local people, especially when there are clear differences in culture or appearance） ↓ かつては移民を奨励していたヨーロッパの多くの国が，今では移民を制限すべきかどうかについて公然と議論している。（❷ many countries in Europe that once encouraged **immigration** ... are now openly debating whether **immigration** should be restricted）
6	本論(5)	日本における移民問題 ・現在，日本国外にいる日系人は推定約260万人。（❸ It is estimated that there are currently around 2.6 million **people of Japanese descent** outside Japan.） ・日本への移民は急速に増加。2008年時点での合法的な長期在留外国人は約220万人（1980年代の２倍）。（❺ **immigration** to Japan is increasing rapidly. ❻ In 2008, **legal long-term foreign residents** numbered around 2.2 million, twice as many as in the 1980s.）
7	本論(6)	公的政策は日本への永住を奨励しないが，現実には永続的に定住する移住者の数が増加の一途をたどっている。（❹ **Although** official policy does not encourage **permanent migration** to Japan, more and more **migrants** are **in fact settling permanently**.） （理由）日本における人口の減少と高齢化，高齢者を支える日本人の労働者や納税者の減少。（❺ As Japan's population declines and ages, leaving fewer Japanese workers and taxpayers to support the elderly population, this trend is likely to continue.）
8	結論	入国移民は，21世紀における日本政府と社会にとって最も重要な課題の１つとなるだろう。（❶ immigration will become one of the most

		important issues for the Japanese government and society in the 21st century)

解答

問1 outside

問2 過去の移民の特徴：③・⑥　　現在の移民の特徴：①・⑧

問3 以前は労働力不足を埋め合わせるために移民を奨励したヨーロッパの多くの国が，今では移民を制限すべきかどうかについて公然と議論している。

問4 (B) ⑥　(C) ①

問5 日本で永続的に定住する移住者が増加する傾向。

設問解説

問1　空所（A）の前にある that is は，「つまり」という意味を表す言い換えの道しるべ語である（⇒Key 18・Key 19）。したがって，次の等式が成り立つ。

migrants = people living (?) their countries of birth

（移住者＝自分の生まれた国の（　?　）に住む人々）

問2　① 訳「移住者はほとんどすべての地域を行き来する」　第3パラグラフ第2文 These days nearly all countries are part of networks of immigration and emigration linked to multiple destinations.（今日では，ほとんどすべての国が，多くの目的地につながる入国移住と出国移住のネットワークの一部となっている）を参照する。なお，この第3パラグラフは，どの文も現在の移民の特徴を述べていることにも留意するとよい。

② 訳「移住は主に高度な技能を持つ労働者を含む」　第7パラグラフ第1文 Some migrants are highly skilled workers ....（移住者の中には…高度な技能を持つ労働者もいる）と矛盾するのでどちらにも当てはまらない。

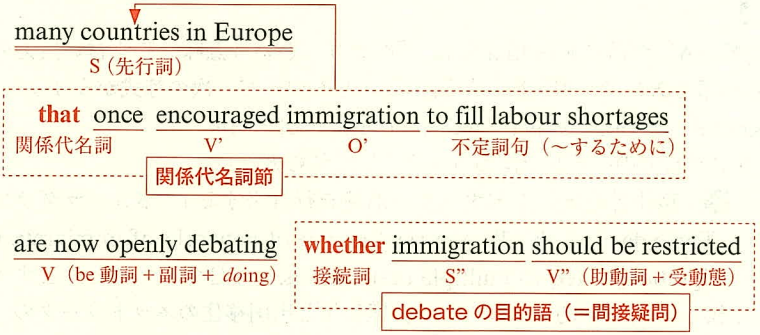
③ 訳「たいていの移住者は男性とその家族である」　第2パラグラフ最終文の the traditional image of a male migrant and his family leaving their homeland forever to start a new life in a foreign land is now a thing of the past（男性の移住者とその家族が永久に祖国を離れ，外国の地で新生活を始めるという従来のイメージは，今や過去のものとなっている）を参照する。

④ 訳「たいていの移住者はより暖かい国に移動する」　本文に言及なし。

⑤ 訳「ヨーロッパへの移住者の大部分はアフリカ出身者である」　本文に言及なし。

⑥ 訳「人々は永久に祖国を去る」 第2パラグラフ最終文 the traditional image of a male migrant and his family leaving their homeland forever to start a new life in a foreign land is now a thing of the past を参照する。
⑦ 訳「人々は自分の過去を忘れるために外国に移り住む」 本文に言及なし。
⑧ 訳「人々は祖国との接触を保つ」 第3パラグラフ第3文の many migrants take advantage of modern transportation and communications technology to maintain contact with their homelands（多くの移住者は現代の輸送と通信技術を利用して，祖国との接触を維持している）を参照する。

問3 関係代名詞節を含む many countries in から fill labour shortages までがこの文の主語。whether immigration should be restricted（移民を制限すべきかどうか）は間接疑問で，この名詞節全体が動詞 are debating の目的語である。



問4 （B）空所後の social tension, poverty, lack of integration, even violence and terrorism（社会的緊張，貧困，一体感の欠如，さらには暴力やテロ）は，いずれも厄介な問題である。したがって，空所には⑥の problems を入れるのが適切である。空所直後の of は，同格（内容的にイコールになる2つの語句が並ぶこと）の of である。problems を具体的に言い換えたものが，social tension, poverty, lack of integration, even violence and terrorism なのである。

（C）空所前の greater than ～ は，比較級表現なので，2つのことが対比されていることがわかる。1つは，この文の主語の The problems である。もう1つは，The problems と対比をなす語句でなければならない。それを選択肢の中から探すと，「利点」という意味をもつ①の advantages であることがわかる。これを空所に入れると，この文の大意は「移民がもたらす厄介な

問題（problems）は，移民がもたらす利点（advantages）よりも大きいと見なされている」となる。

問5 下線部(2)の this trend は，第7パラグラフ第4文の後半部（more and more migrants are in fact settling permanently）で述べている傾向を指している（⇒Key 29）。

語　句

l. 1 **be on the move**「移動している」
l. 2 **migration**「移動，移住，（鳥の）渡り」
l. 2 **early human**「初期人類，原始人」
l. 5 **forcibly**「強制的に」
l. 10 **settlement**「定着，定住」
l. 11 **the Americas**「南北アメリカ（大陸）」（= North and South America）
l. 14 **globalization**「グローバル化」
l. 19 **for one thing**「（理由を挙げて）1つには，一例を挙げれば」
l. 19 **no longer** ～「もはや～ない」
l. 19 **one-way**「一方向の」
l. 21 **leave for** ～「～に向けて出発する」
l. 22 **immigration**「入国移住」
l. 22 **emigration**「出国移住」
l. 23 **multiple**「多数の」
l. 23 **destination**「目的地」
l. 23 **take advantage of** ～「～を利用する」
l. 25 **a clean break with** ～「～との決別」
l. 27 **back and forth**「行ったり来たり」 *Ex.* go *back and forth*（行ったり来たりする）
l. 28 **circular migration**「循環移民」
l. 28 **sojourning**「一時在留」
l. 33 **displace**「～を強制退去させる，立ち退かす」
l. 33 **persecution**「迫害」
l. 34 **refugee**「難民」
l. 34 **seek asylum**「保護を求める，亡命を求める」
l. 35 **at the other extreme**「それとは正反対に」
l. 48 **taxpayer**「納税者」
l. 49 **contributor to** ～「～への貢献者」 *cf.* contribute to ～「～に貢献する，

寄与する」

l. 51 **in general**「一般的に，たいていは」

l. 51 **immigrant**「（外国からの）移住者」

l. 52 **gain ground**「支持を得る」

l. 54 **emigrant**「（外国へ向かう）移住者」

l. 56 **people of Japanese descent**「日系人」 descent は「家系，出身」の意。

l. 64 **care**「介護」

l. 65 **Japanese citizenship**「日本国籍」（= Japanese nationality）

文構造に注目

ll. 38-39 動名詞の意味上の主語

All these factors (S) have led to (V) migration (意味上の主語) becoming (動名詞) a major political issue, ... (動名詞の O)

O（＝動名詞）

POINT 文全体の主語は All these factors であるが，migration は動名詞 becoming の意味上の主語である。次の２文を比較してみよう。

① John is proud of being a famous soccer player.

② John is proud of his son being a famous soccer player.

①は，自分自身（John）が有名なサッカー選手であることを誇りに思っているのに対して，②は，息子（動名詞の意味上の主語）が有名なサッカー選手であることを誇りに思っている，という違いがある。なお，第２パラグラフ第４文の a male migrant and his family leaving their homeland ... では，a male migrant and his family が動名詞 leaving の意味上の主語となっている。

全　訳

1 人類はいつも移動をしてきた。１つの有力な説によると，最初の大規模な人類の移動は，初期人類がアフリカを出て世界中に広まった時に起こった。それより新しい時代では，16世紀から19世紀の間におそらく1,200万人が奴隷として新大陸に強制的に輸送されたときに，アフリカが再度大規模な人口移動の源となった。しかし，これより大規模であったのは，1846年から1939年までに起きた，ヨーロッパから南北アメリカ，オーストラリア，そしてニュージーランドへの5,900万人の人々の移動であった。

2 19世紀における南北アメリカの発展を特徴づけた大規模な移住と入植は終了したが，現代における移住も相当なものである。現在，世界の人口の約３パー

セントは移住者――つまり，自分の生まれた国の外に住む人々――に分類される。この数字は，世界のグローバル化が進行するにつれて増えており，今後さらに増える可能性が高い。しかしながら，移住はより複雑にもなり，男性の移住者とその家族が永久に祖国を離れ，外国の地で新生活を始めるという従来のイメージは，今や過去のものとなっている。

3　1つには，移住はもはや，上記のアメリカに向けて祖国を出発したヨーロッパ人のように，明確に定められた地域から別の地域へと一方向に人が流れることではない。今日では，ほとんどすべての国が，多くの目的地につながる入国移住と出国移住のネットワークの一部となっている。さらに，多くの移住者は現代の輸送と通信技術を利用して，祖国との接触を維持している。つまり，移住とは，もはや必ずしも以前のような過去との決別というわけではない。多くの移住者は国と国の間を繰り返し行ったり来たりしており，こうした現象は「循環移民」または「一時在留」として知られている。さらに今日では，こうした現代の移住者に占める女性の割合はますます増大している。

4　国際移住はもはや経済的理由のためだけではない。もっと金銭を稼いでもっと良い生活をしたいという欲望が移住を決心する際の依然として大きな要因であることは明らかであるが。何百万もの人は以前にも増して，戦争や迫害，自然災害により祖国を追われて難民となり，その多くは危険から逃れて保護と新しい生活を求める。それとは正反対に，裕福な人はより快適な気候の国での隠居といったライフスタイル上の理由で，しばしば移住する。

5　これらのあらゆる要因により，移住は国際レベルと地域レベルの両方で重大な政治問題となっている。国際レベルでは，国がある種の移住者を受け入れたり，制限したりしようとする。地域レベルでは，移住は新参者と地元住民との間に社会的緊張を引き起こしかねない。特に文化や外見が明らかに異なる場合は，そうなる。例えば，以前は労働力不足を埋め合わせるために移民を奨励したヨーロッパの多くの国が，今では移民を制限すべきかどうかについて公然と議論している。社会的緊張，貧困，一体感の欠如，さらには暴力やテロといった問題は，移住者が労働者，納税者，そして国の文化的生活への貢献者として経済と社会にもたらす利点より大きいと多くの一般市民から見なされている。国民性の喪失を恐れる者さえいる。悪い結果の多くは誇張されたものであり，一般的には移住者の側の責任ではないことが多いが，多くの国では移民に反対する政党が支持を得ている。

6　日本もこうした地球規模の移住ネットワークの一部である。1880年以降100万人以上の日本人が移民として日本を去り，その大部分はハワイや南北アメリカに渡った。現在，日本国外に日系人はおよそ260万人いると推定される。さ

らに，およそ85万人の日本人が，仕事や勉強，その他の形の長期旅行で日本国外で暮らしている。その一方で，日本への移民は急速に増加している。2008年には，合法的な長期在留外国人はおよそ220万人に達し，1980年代の２倍にもなった。

7　移住者の中には，教授や銀行家といった高度な技能を持つ労働者もいる。しかし大部分の移住者は，多くの場合，小さな工場やサービス業の労働者や介護労働者として，高度な技術を必要としない仕事をしている。その多くは日本人と結婚しており，中には日本国籍を取得している者もいる。公的政策は日本への永住を奨励しないが，現実には永続的に定住する移住者の数が増加の一途をたどっている。日本では人口が減少するとともに高齢化しており，高齢者を支える日本人の労働者や納税者が減少しているので，この傾向は今後も続く可能性が高い。

8　したがって，進行しつつあるグローバル化を背景に，入国移民は，21世紀における日本政府と社会にとって最も重要な課題の１つとなるだろう。

演習問題 17

パラグラフの構造

＊赤太字は道しるべ語。黒太字は文脈をつかむのに役立つキーワードおよびキーフレーズ。

1	序論	《問題提起》目が覚めたら機嫌が悪かったとする。その不機嫌さを同僚たちに伝染させてしまうことを心配すべきであろうか。(❽ now imagine this situation. ❾ You wake up in a bad mood. ❿ Should you be concerned about passing your mood on to your co-workers? ＊ this situation は，この後に続く❾・❿ で問題提起している状況を指す。(⇒ Key 29))
2	本論(1)	1の問題提起に対する心理学者・作家ダニエル・ゴールマン（Daniel Goleman）の答えは「イエス」。 （根拠）人間の脳に含まれるミラーニューロンの働きにより，私たちは相手の人がまさにしようとしている動作と彼らの感情の両方を察知し，即座にその動作をまねて，相手の人に共感する準備をする。(❹ these neurons (=**mirror neurons**) allow us to sense "both the move another person is about to make and their **feelings**, and instantaneously prepare us to imitate that movement and feel with them.")
3	本論(2)	笑いは自分の感情をほかの人たちに伝染させる１つの例。笑いは共有されるものであるとされている。(❶ **One example of** passing one's **emotions** on to others is through laughter. ... ❹ laughter is meant to be shared.)
4	本論(3)	人間はどのようにしてほかの人の感情を認識することができるのか？→「顔に表れた表情を読み取ること」(❺ reading others' **facial expressions**) によって，私たちは「ほかの人たちの感情を察知する」(❹ sense others' **emotions**) ことができる。
5	本論(4)	心理学者ポール・エクマン（Paul Ekman）の顔の表情に関する研究→ある表情を作るだけで私たちは特定の感情を体験することができ，表情を作ることが情動過程の起点になることがある。(❹ Sometimes just making a **facial expression** can cause us to experience a particular **emotion**. ❻ **In other words**, sometimes the **facial expression** actually starts the **emotional process** ...)

6	結論(1)	1の「目覚めたとき機嫌の悪い従業員」はどうすべきか？ ◎職場の雰囲気が前向きで，協調し合う職場であれば，起床して仕事に行くべき。(❹ If the atmosphere is generally positive and harmonious, he should get up and go to work) (理由１) 彼が後ろ向きの気分を伝染させるよりも，ほかの人たちの前向きな気分に「感染する」可能性のほうが高い。 (理由２) 気分が悪くてもにっこりすれば，回復する見込みはさらに大きくなる。
7	結論(2)	◎職場の雰囲気が「後ろ向き」であれば，彼は同僚たちの後ろ向きの感情にすでに「感染してしまっている」可能性あり。(❶ if the workplace atmosphere is **negative**, it might mean that he's already "caught" the **negative feelings** of his co-workers.) ◎「彼が取るべき行動」 ・同僚から後ろ向きの感情が自分に「うつる」可能性の低い，健全な職場を探す。(❹ look for a healthy workplace where he is unlikely to "catch" **negative feelings** from his co-workers) ・自分の心の状態が同僚たちに与える影響をもっと意識する。(❺ he should be more conscious of the effect that his own **emotional state** has on his co-workers)

解答

問１ about

問２ ある人が声を上げて笑い始めると，その人が何について笑っているのかがわからなくても，私たちもつられて笑ってしまうが，1人でいるときは，おかしい冗談を読んだり聞いたりしても，声を上げて笑うようなことはめったにないということ。

問３ 声を出して笑っている人の心の状態を読み取るのと同じくらい簡単明瞭な方法で。

問４ 彼は，私たちが感情を伝えるために用いる，何千もの顔の表情をつくり出す筋肉の動きを特定することに何年も費やしてきた。

問５ 職場の雰囲気が前向きで，協調し合うものなら，仕事に行くべきであるが，職場の雰囲気が後ろ向きなら，健全な別の職場を探すべきである。

設問解説

問1 (A)は be about to *do*（まさに～しようとする）で，この about は形容詞。(B)は care about ～（～を気にかける）で，この about は前置詞。

問2 指示代名詞の this は直前の文全体またはその一部の内容を指すことが多い（⇒Key 26）。しかし，この下線部(1)の This の場合，直前の第3パラグラフ第3文（When people are ... very humorous joke.）は，道しるべ語 on the other hand（その一方で）によって，その前の第2文（One person starts ... laugh as well.）と対比されている。したがって，この両方の内容を答えに盛り込む必要がある。

問3 下線部(2)は，「そのようなはっきりした方法で」という意味。直前の第4パラグラフ第1文（When someone laughs out loud, it is easy to recognize his or her emotional state.）を参照する。

問4 He has spent years identifying the muscle movements（彼は筋肉の動きを特定することに何年も費やしてきた）は，spend ～ *do*ing「…するのに～（時間）を費やす）を踏まえた表現。movements 直後の that は，この movements を先行詞とする関係代名詞。expressions 直後の that は，この expressions を先行詞とする関係代名詞。

問5 下線部(4)は「例の従業員」という意味で，この our ～ は「例の～，今話題として取り上げた～」という意味を表す。1つ目の場合の対処法については，第6パラグラフ第4文の前半（If the atmosphere is generally positive and harmonious, he should get up and go to work）を参照する。2つ目の場合の対処法は，第7パラグラフ第1～4文を参照する。特に，第1文中の if the workplace atmosphere is negative, ... と第4文前半の He should look for a healthy workplace ... に着目する。

語　句

l. 18 **feel with** ～「～に共感する」

l. 19 **go on to say that** ...「さらに続けて…と言う」

l. 24 **laugh out loud**「声を上げて笑う」

l. 26 ～ **as well**「～もまた」（⇒Key 09）

l. 36 **a world of** ～「大量の～，多数の～」

l. 41 **a mirror of** ～「～を（鏡のように）忠実に［ありのままに］映すもの」

l. 43 **if you are in a bad mood**「たとえあなたが不機嫌であったとしても」 この if は「たとえ～でも」（≒ even if）という〈譲歩〉の意味を表す。*Ex.* I won't give up, *if* I have little chance of succeeding.（たとえ成功する見込みがほと

んどなくても，僕はあきらめないぞ）

l. 46 **the other way around**「その逆」

l. 54 **an even greater chance**「さらに大きな見込み」 この even は比較級を強める働きをし，「さらに，ずっと，いっそう」という意味を表す。

l. 66 **give a new spin to** ～「～に新たな解釈を加える」 give a new twist to ～ とも言う。

文構造に注目

ll. 2-3 if 節を使わない仮定法

In the past, many employers would likely have said yes.
S V（助動詞の過去形＋ have ＋過去分詞） O

POINT if 節のほか，副詞句や不定詞，主語などに仮定の意味が込められている場合がある。この文では，文頭の In the past に「もしこれが以前なら」という過去にさかのぼった仮定が含まれているため，動詞部分は仮定法過去完了形（助動詞の過去形＋ have ＋過去分詞）が使われている。*Ex.* Our project could have failed *without* the support of local businesses.（地元企業の支援がなかったら，私たちの計画は失敗していたかもしれない ＊仮定法過去完了。without 以下は if it had not been for the support of local businesses と書き換え可能）/ *Buying new PCs* would solve our problem, but we cannot afford that.（新しいパソコンを買えば，私たちの問題は解決するでしょうが，私たちにはそんな余裕はありません ＊仮定法過去。主語の動名詞に仮定の意味が込められている）

ll. 58-60 now that ～「～した今となっては，～したからには」

now that he understands how emotions are passed from one person to
接続詞句 S' V' O'（間接疑問：名詞節）

another, he should be more choosy about where he works.
S V C 前置詞 前置詞の O（間接疑問：名詞節）

POINT 1 now that は，「～した今となっては，～したからには」という意味で，接続詞として用いられる。that は省略されることもある。*Ex. Now* (*that*) you are 20, you are responsible for what you do.（あなたはもう20歳なのだから，自分のすることに責任がある）

POINT 2 文前半の how emotions ... to another，および後半の where he works はどちらも間接疑問。間接疑問は〈疑問詞＋ S ＋ V〉の形をとり，名詞節として動詞や前置詞の目的語などになる。

全　訳

1　ある日起きたら熱があり，せきがひどい状態だったとしよう。仕事に行くべきだろうか。以前なら，多くの雇用者がおそらくイエスと答えただろう。病気の時でも，仕事に行くことは仕事に献身していることの証しとなり，美徳と見なされた。どんな理由であれ，仕事を休むと眉をひそめられた。しかしながら最近では，雇用者はこのような場合の適切な決断は家にいることだということにおそらく同意するだろう。結局は，職場の全員に病気をうつすより，病気の従業員1人が1日か2日休むほうがよいのである。だが今度は次のような状況を想像してほしい。目が覚めたら機嫌が悪かったとする。その不機嫌さを同僚たちに伝染させてしまうことを心配すべきであろうか。

2　心理学者で作家のダニエル・ゴールマンによれば，答えはイエスである。最近の著書『社会的知能：人間関係の新しい科学』の中でゴールマンは，私たちの脳は社会的な道具である，つまり人間の脳は社会的交流のために設計されたものであると説明している。人間の脳には「ミラーニューロン」と呼ばれる細胞が含まれていることを，研究が示してきた。ゴールマンによれば，これらのニューロンは私たちが「相手の人がまさにしようとしている動作と彼らの感情の両方」を察知することを可能にし，「即座に私たちにその動作をまねて，相手の人に共感する準備をさせる」。ゴールマンはさらに続けて次のように述べている。「ミラーニューロンは脳と脳をつないでいる。…故意に楽観的あるいは悲観的に振る舞う者を会議に参加させると，グループ全体の集団内の雰囲気をより良くしたりより悪くしたりする」。

3　自分の感情をほかの人たちに伝染させる1つの例は，笑いによるものである。1人が声を上げて笑い始めると，その人が何について笑っているのかがわからなくても，私たちも笑い出してしまう。その一方で，1人でいるときは，とてもおかしい冗談を読んだり聞いたりしても，声を上げて笑うようなことはめったにない。このことは，笑いは（ほかの人々と）共有されるものであることを示唆している。

4　誰かが声を出して笑ったとき，その人の心の状態を認識するのは簡単である。しかし，たいていの感情はそのようなはっきりした方法では表現されない。どのようにしてそれらを認識することができるのだろうか。脳の研究により，ほかの人たちの感情を察知する能力は私たちの遺伝子の中にあることがわかってきた。意識はしていないかもしれないが，私たちはほかの人たちの顔の表情を読み取ることがとりわけ得意である。どんなに控えめな人でも，顔に何らかの感情が出る。例えば，眉を上げるというようなごく小さなしぐさでも多くの情報を伝えることができる。

5 心理学者のポール・エクマンは，顔の表情に関して世界でも第一人者と見なされている。彼は，私たちが感情を伝えるために用いる，何千もの顔の表情をつくり出す筋肉の動きを特定することに何年も費やしてきた。興味深いことに，エクマンの研究により，私たちの表情は，私たちが感じていることを忠実に映すだけではないことがわかった。時には，ある表情を作るだけで私たちは特定の感情を体験することができる。例えば，あなたが不機嫌であったとしても，作り笑いを浮かべればより速く気分が良くなり始める。言い換えれば，表情は，実際に情動過程の起点になり，その逆ではない場合があるのだ。そのようなわけで，あなたが誰かに明るい表情を浮かべて挨拶すれば，どちらも明るい気分になる可能性が高くなる。

6 さて，目覚めたとき機嫌の悪い，例の従業員の話に戻ろう。彼はどうすべきであろうか。決断はその職場によるかもしれない。その雰囲気がおおむね前向きで，協調し合う職場なら，起床して仕事に行くべきである。彼が後ろ向きの気分を伝染させるよりも，ほかの人たちの前向きな気分に「感染する」可能性のほうが高い。それに，気分が悪くてもにっこりすれば，回復する見込みはさらに大きくなる。

7 その一方で，職場の雰囲気が後ろ向きなら，彼は同僚たちの後ろ向きの感情にすでに「感染してしまっている」のかもしれない。その場合は，別の仕事を探し始める方がよいかもしれない。そして，感情がある人から別の人へとどのように伝染するかを理解しているからには，彼は職場をもっと選り好みするべきである。同僚から後ろ向きの感情が自分に「うつる」可能性の低い，健全な職場を探すべきである。それと同時に，自分自身の心の状態が同僚たちに与える影響をもっと意識すべきである。ゴールマンが言っているように「ミラーニューロンは，神経作用においてこれまでわかっていたよりもはるかに密接に私たちを結びつけている。このことが感情の伝染経路を作り出す。あなたが本当にほかの人たちのことを気にかけるなら，それは社会的責任という言葉に新しい解釈を与えることになる。つまり，一緒にいる人たちにどのような心の状態を作り出しているかということである」。

NICHIEISHA